

会長のページ 医師不足と医師の偏在	秦 喜八郎	3
日州医談 宮崎県医師国民健康保険組合の現状と給付割合問題	高橋 政見	4
寄稿 台風14号災害は水害ではない	藤木 浩	6
台風14号被害 雑感	獅子目 輯	9
随筆 ラージボール卓球	友成 久雄	10
74歳の海軍兵学校生徒	田上 恒雄	12
エコー・リレー(364)	桑原 五美, 遠藤 豊	15
グリーンページ 医療制度構造改革試案	志多 武彦	19
メディアの目 サービス精神	繁竹 治顕	27
宮崎大学医学部だより(整形外科学講座)	関本 朝久	30
日医 FAX ニュースから		36
医師国保組合だより 第11回歩こう会	田代 学	45
診療メモ 日常診療で比較的多い不整脈の治療	今村 卓郎	61
宮崎県感染症発生動向		16
叙 勲・祝 賀		18
各都市医師会だより		28
宮崎県医師会互助会臨時評議員会		32
九州医師会連合会第275回常任委員会		33
平成17年度全国医師会勤務医部会連絡協議会		34
医事紛争情報		38
薬事情報センターだより(224) 後発医薬品		40
理事会日誌		42
県医の動き		46
追悼のことば		47
会員消息		48
ベストセラー		50
ドクターバンク情報		51
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会		54
行事予定		59
医師協同組合だより		63
おしえて! ドクター健康耳寄り相談室		66
あ と が き		70
平成17年総目次		71
~~~~~		
お知らせ 郡市医師会への送付文書		68
宮崎県医師会館の休館について(12/30~1/3)		69
新春随想原稿募集		84
融資契約の一部変更について		84

## 医師の誓い

人の生命を尊重し、これを救い、更に健康増進に寄与するは、医師たる職業の貴い使命である。

人の生命を至上のものとし、如何なる強圧に遇うとも人道に反した目的のために医学の知識を乱用せず、絶えず医学の研鑽と医術の練成に励み、細心の注意と良心に従って医を行う。

社会の倫理にもとらず、不正の利を追わず、病を追ひ、病を究め、病める人を癒し、同僚相睦び相携えて、医学の名誉と伝統を保持することを誓う。

### 宮崎県医師会

(昭和50年8月26日制定)

〔表紙写真〕

北 国

函館を訪れた時、山々はまだ雪に覆われていました。南国育ちには、あの鱗状に並ぶ山なみが面白く、思わずシャッターを切りました。

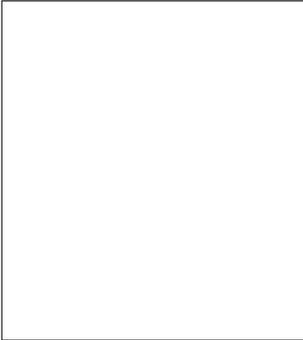
また冬が廻って参りました。山々は再び深い雪であの稜線も消え、ただ真白な世界に戻ったことでしょう。

延岡市 いの井 うえ上 ひで日 お出男

## 会長のページ

## 医師不足と医師の偏在

秦 喜 八 郎



本県がこのところ注目を集めています。一つは西島選挙です。全国第2位の得票率でした。二つ目は昨年の生涯学習申告率日本一(97.3%)です。三つ目は全国の産科医不足の中、産婦人科医数が伸びていることです。日医雑誌(H17.7)にも書きましたが、池ノ上教授の元に全国から人材が集まり、周産期医療日本一を支えています。

医師確保の前段階として臨床研修医を本県に呼び込まねばなりません。沖縄145,宮崎37(H17年度)の研修医師数では問題になりません。研修医に応募して貰う為には、魅力ある研修プログラム,優れた指導者の存在が必要です。4/23~24に県医師会主催の「指導医養成のためのワークショップ」(厚労省・日医認定)を行いました。県医単独では年1回開催が精一杯です。

医師不足への今後の対応として、宮大医学部の地域枠の設定、県の医師派遣システムの構築も進められています。県医師会でも医師確保対策委員会で検討、種々の対策を提案、実行しています。

人口10万対医師数、全国195.8,宮崎東諸県295.2,西都児湯126.6と医師偏在は明らかです。若い医師の使命感を鼓舞、駄目なら地域医療従事を義務化するしかないと思っています。

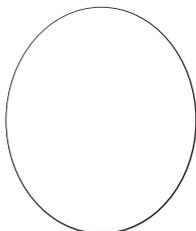
診療科の偏在に対しては、診療報酬上での優遇、小児科、産科医療の集約化(センター化)が検討されています。行政主導の集約化には問題があります。日医では産科医療の無過失補償制度や女性医師対策を検討しています。私は勤務医の二交替制を主張しています。

医師不足、医師の偏在を解決するには、先ず医師数の底上げが必要であると思っています。北海道、東北各県では知事を先頭に地域ぐるみで医師確保に乗り出しています。県民の皆さまのご協力をお願いいたします。

(H17.11.20)

P.S.○米国年次改革要望書,次の標的は健康保険(文芸春秋12月号),○風雲急:11/15日医理事会・都道府県医師会会長,11/17日医委員会,11/18~20九医連医学会総会(沖縄),○国民皆保険制度を守る署名運動,協力多謝。

## 日州医談

宮崎県医師国民健康保険組合の  
現状と給付割合問題

理事 高橋政見

はじめに

社会保障制度審議会において国保を含む医療保険制度改正については平成18年度を目途に、また高齢者医療制度の創設については平成20年度実施を目途に検討がなされているようです。

9月30日に行われた全国医師国民健康保険組合連合会(全医連)第43回全体会議において、国保問題検討委員会報告書についての研究発表がありました。その内容を紹介しながら、医師国保組合の置かれている現状を述べてみたいと思います。

医師国民健康保険組合の現状

全国の国民健康保険組合の中でも医師国保組合は、従来から富裕組合と見なされてきました。しかし、それは他業種の国保組合に比して附加給付は少なく、なによりも自家診療を抑制してのことで、その実態は、到底裕福であるとはいえない現状にあります。現に全国の医師国保組合の財政状況を見ると、平成15年度末において、47組合のうち19組合が単年度の経常収支が赤字となっており、赤字額の総額は、約7億6千万円にも上っています。

これは平成14年度に行われた医療制度の改革によるものが大きいと見られています。特に、14年度後半から、改革前ならば老人保健対象者になったはずの前期高齢者の医療費を、新たに組合が負担することになったことや、老人保健対象者のうち一定以上の所得者に対する公費負担がなくなったことが大きく影響していると思

われます。

当組合も平成16年度決算にて老人保健拠出金の大幅な増額により単年度2,200万円の赤字になっております(日州医事平成17年10月号 674参照)。

高齢者医療制度の創設

平成20年度実施を目途に検討が進められていますが、未だ「保険者をどこにするか」、「支援金をどうするか」などいろいろな検討課題があります。いずれにしても、75歳以上の方は全員、独立した高齢者医療制度に移行するわけですから、その方の家族、従業員も含めると被保険者数が20~30%減少することになります。表は平成17年10月末の当組合の被保険者数です。平成20年度から75歳以上の方が新しい高齢者医療制度の方に移行されると、総数が約1,900人にまで減少し、小規模保険者と呼ばれている組合の「再編・統合」の議論が出てくるかもしれません。

国庫補助と給付割合問題

今回の医療保険制度改革の中で、国保組合をどうするのかをどこまで踏み込んで検討されるのかは、はっきりしませんが、国庫助成のあり方については、昨年度、国保組合の財政力を的確に把握するために、所得調査が実施されています。17年度予算から市町村国保については公費負担の見直しが実施されていることもあり、18年度予算では国保組合についても国庫助成の見直しがなされるものと思われます。現在は、定率部分として32%、普通調整補助金として1%から20%まで(当組合は1%)補助されています

が、平成9年に被用者保険との均衡を図るために見直しが行われ、平成9年9月1日以後、健康保険の適用除外を受けて、新規に加入された方(特定被保険者)の定率補助は13%です。

また8割以上の給付を続ける組合には国庫補助対象医療費に係る波及増調整率を設け、国庫補助率を引き下げています。

社会保障審議会医療保険部会(H17.7.29)では、今現在国保組合への国庫補助は3,200億円もあり、その中で、給付割合が7割を超える組合があるのは「納得できない」、「制度全体でバランスが悪い」との意見がでています。基本的には医療保険給付は7割に統一されたことになっている中で、市町村国保と財政力の均衡を図る観点から、関連制度に関し改革の議論が進んでいくと、給付割合の問題についての国保組合の姿勢が問われることが懸念されます。財政当局やマスコミ等には、被用者保険の運営状況と比較し

て、国保組合の国庫助成は厚すぎるという認識がもたれていることも大きな要因です。

平成17年10月現在、全国の医師国保組合では、平成17年度までに7割給付を実施する組合が27都府県、そして18年度実施予定が12組合で、残りの8組合が未定か19年度以降実施予定ですが、47組合のうち39組合が来年度中に7割給付になるということです。7割給付でないということは、医療保険制度改革の議論の中で、マスコミ等にも取り上げられ、国保組合全体のマイナス要因になるということもあります。

宮崎県医師国保組合では平成15年4月から給付割合をそれまでの9割給付から8割給付に変更したばかりですが、以上のような現状を踏まえ7割給付にせざるをえない状況が差し迫っていると思われま。全国国民健康保険組合協会(全協)、全医連等よりの情報をもとに適切な対応が必要だと思ひます。

表 宮崎県医師国民健康保険組合の被保険者数

平成17年10月末現在

	被保険者数	一 般			老人保健 該当者
		0～70歳	70歳以上		
			一 般	一定以上 所得	
組 合 員	744	553	1	30	160
家 族	1,453	1,283	3	20	147
従 業 員	0	0	0	0	0
合 計 ( )は特定被保険者	2,197 (231)	1,836 (227)	4 (1)	50 (0)	307 (3)

## 寄 稿

## 台風14号災害は水害ではない

宮崎市 藤木病院 藤木 浩

## 1. 台風14号の状況

夜半にドーンという雷鳴のとどろくなか、篠を突く雨の音が響き、夜勤のナースが「先生、川が一杯になってきました」と内線電話をかけてきました。「今夜は大丈夫だから様子を見ていていいよ」と言うと、「ありがとうございます」とほっとしたように電話を切りました。丁度1か月前のあの恐怖が抜けきれないでいるのが良くわかります。

彼女にかぎらず、水害後にこうしたトラウマになっている職員が多いのを感じます。9月4日、日曜日台風接近で強風が吹き始め、雨も降り続いて次第に雨風の強まるのを感じながら「カトリーナに比べれば大丈夫だよ」などと嘯いていましたが、5日に入ると夜半の2時過ぎには大淀川の水位が上がって病院の周囲もひたひたと浸水が始まり、周りの側溝からではなく国道側の大谷川の方から水が押し寄せてきて、早朝には道路から駐車場にかけて膝まで浸水していました。職員たちが国道沿いの高いところに駐車して太ももまで水に浸かりながら出勤してくれるのを映画でも見るような気持ちで眺めていました。昼食にかかる頃には厨房にも浸水し、給食準備も限界となりました。

## 2. 避難状況

電子カルテを導入していたので建物に浸水すると電気系統が破綻するのでサーバーや電子機器を高いところへ移動し被害を最小限にとどめるべく作業を開始しましたが、そのうち水路ではない国道側から海岸に打ち寄せる波のように水が増水してくるのを認めました。この様子を見た病院内は異様な雰囲気になって1階の患者はどうなるのだろう？と恐怖にかられました。職員たちと相談しながら患者44名をベッドごと2階に押し上げましたが、後半にはもう間に合わなくなりマットに乗せたまま抱えあげました。その時は一つのマットを抱えた4人の胸まで水が来ており腰から下は濁流に流されそうな勢いだったと言います。この間約1時間半の出来事は夢中でよく覚えていませんが、2階の空室や資材庫、カンファレンスルーム、職員控え室などあらゆる部屋を片付けて臨時の病室にして収容しました。

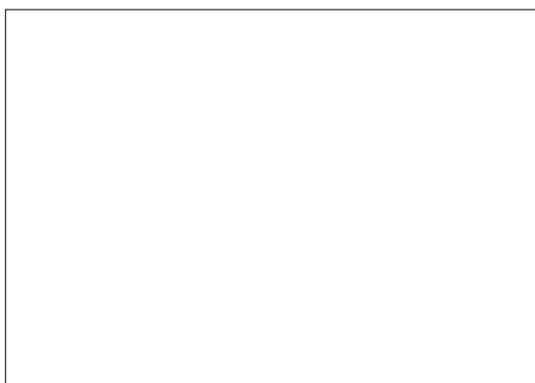
## 3. 応急対策

次は夕食をはじめ明日からの給食のことが緊急の問題となりました。幸いにも1年前から日清食品に給食を委託していましたので、日清と私の方と二股で非常食の確保に奔走しました。有難いことに患者給食については社会保険病院の福祉施設が早速給食のお弁当を引き受けてくれることになり、その後の1週間お弁当を作って下さいました。夕食は水の中を腰まで浸かりながら、日清食品の調理士や職員達が配給をしてくれました。ただただ感謝あるのみでした。しかし、職員の食事までは手が回らないということなので、その分は手分けして弁当を買いに行きました。

浸水が一段落すると、暴風雨もひどく停電や断水も起きているのに気がつきました。停

電すると水が出なくなりトイレもオムツ替えも不自由になります。この時になって2000年問題以来、非常時の備えとして準備していた大きな水用バケツや懐中電灯、飲料水が役にたちました。

暴風の吹き荒れる音に気がついたもう日も暮れかけた5時頃になって、やっと遅い昼食をとりました。ゆっくり座る場所もなく、日ごろ患者家族が談笑する面会ホールにテーブルを置き、山のように重ねたお弁当とお茶をむさぼるように食べあっていました。看護師、介護士達はお弁当を食べ終わるまもなく患者の排尿、排便介助をし、手足の清拭をしながら笑顔で「心配ないからね」と話しかけている新人ナースの姿は後光がさす思いでした。



#### 4. 事後処置

患者の処置がひと段落ついた夜8時頃には少し高めめの3病棟の水が引いたと報告があり、早速大掃除と消毒に入りました。朝から申し入れしていたビルサービス会社に連絡して早急に清掃担当者を派遣してもらい、具体的な清掃法とその後の消毒法も打ち合わせして早速作業に入りました。

泥落とし、床掃除、ファンによる乾燥、ハイター液で床や壁を拭き上げてもらい、その後ろから職員がオスバン雑巾で壁を拭いてまわりました。2日目には1病棟、管理棟も水が引いたので同様に大掃除と消毒にかかりましたが、2日経つともう汚水から異臭が出始めるのが感じられて一層掃除にも力が入りました。

少し気持ちが落ち着いてきたので病院内を周ってみますと、厨房は全て水没し機器も備品も全て廃棄処分の対象でした。床、壁、棚の掃除と備品機器の発注が急がれるので業者へ相談の電話を入れました。

レントゲン室、CT室、内視鏡、エコー室など全部の部屋が水没し、それらの機器内にも汚水が入っておりまったく役に立たなくなっていました。今年購入したばかりのフジメディカル FCR7000など残念の極みでした。今になって思えば、良くぞリースにしていたものです。理学療法機器、レクリエーション器材などその損失は数え上げればきりがありません。電子カルテ類が水に浸からなかったことがせめてもの救いといえました。紙のカルテは水に流されたり、濡れてしまって後が使いません。干してもべたついてくっついてしまい、臭いもするようになり処分したいのですが、保管の義務があるためビニール袋に入れて別の保管庫におかなければなりません。悲惨だったのは改造したばかりの患者、職員食堂の手作りの椅子やテーブルなどの備品が水没したことで、全部廃棄しなければなりません。病棟ではユニットケア病棟のベッド、タンス、ソファなども水に浸かって全部使用できなくなりました。こうした備品類の損害は2,000万円にも及び、殆ど保険の対象にはなりません。

次の被害は、エアコンと電気のコンセントの事故でした。まず、エアコンの室外器が浸水して基盤の故障を来し作動しなくなりました。最も困ったのは、室内の下方に設置されていた各室7個のコンセントが水没したため使用できなくなったことです。水に濡れたコンセントに差し込むと全部の電気系統にショートをする可能性があり、完全に乾燥するまでは使用できません。早速電気業者を呼んで天井から水の影響を受けないコンセントを各室に設置しなおして、やっと電気が使える状態になりました。コンセントの設置位置などは今後十分に検討の余地があります。

医療ガスの配管と併設していた吸引装置に

も汚水が詰まって役を成さなくなりました。

#### 5. 災害後にわかってきたこと

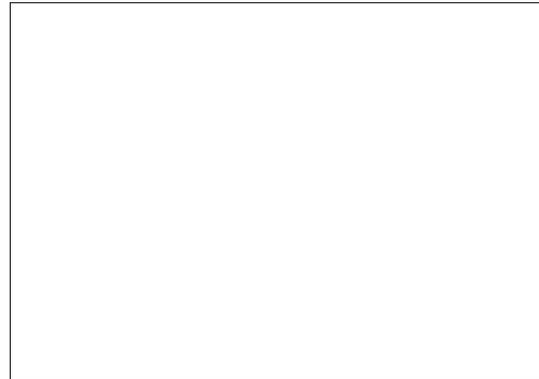
台風の暴風雨が強まり大淀川の水位が上昇して洪水の危険性が増してきたとき、われわれの病院に支所や消防、区長など誰からも、どこからも避難勧告や増水警報などの合図は一切ありませんでした。せめて消防の鐘かサイレンの合図でもあれば避難対策などもう少し余裕があったのではないかと私も職員達も皆一様に行政の対応に不信感をもちました。確かに県作成防災マップの「浸水予想図」でハイレベルの地域ではなく最も浸水の可能性が低い上小松に洪水が起きたことについては、噂にもなっているように解せない部分もあったのかも知れないと勘ぐりたくなります。

1週間たって何の対応もない区長と支所にその間の事情説明を求めると、支所長がやってきて「被害は病院だけではないのですよ。それぞれの個人の住宅も屋根まで浸かりましたからね。もう済んだことですからこの次にはすぐ電話をするように電話機のところに朱書しておきます」と言って帰っていきました。また、災害の翌日に回ってきた保健所の職員は、病院から流れ出た薬剤を拾い集めて玄関先に干していたことを厳しく咎めていきました。

損害保険については、もっと腹立たしい思いがします。総合保険に入っていますが、今回は台風14号の被害なのに「水害は特約でお見舞い程度しか該当しません100万円が上限です」と言って帰りました。4億円にもなる総合保険に入っていて、1,600万円の備品保険にも入っていて、また賠償保険にも入っていたのに水害による損害は台風被害ではないといえます。

患者が水死しても医療ミスではないので裁判しても勝ちますから保障の対象にはならないと言いました。

捨て台詞のように「日本の保険は皆同じですからね」とも言っていました。医療機器は大きなものはリース物件でしたので、器械の入れ替えを約束してくれました。備品類も今後は出来るだけリースで運営するよう考えています。



駐車場も車の屋根まで水に浸かりました。職員の車は早めに高台に上げていたので無事でしたが、私と家内の車は移動する間がなくどっぷりと浸水してまったく廃物となってしまいました。

今回の災害でわかったこと、生目、瓜生野、高岡地区の浸水に対しては水害といい、県北や地すべり、道路災害は台風14号災害といえます。水害も台風14号災害ではないでしょうか。また、行政の補助対象は年収300万までの被災者ということ。保険は出来るだけ災害の種別ごとに契約が必要と思いますが、現実には水害保険はないということです。高価な医療機器や備品類はリースにして所有権を求めないことが大切です。病院給食は事業者へ委託することが得策であることも分かりました。

取引業者は、あまり手を広げずに永い付き合いをすることが大切で、今回のような緊急事態には早々に対応してくれて有難く思いました。また、職員達も道路事情や環境の悪化する中を若手もベテランも出勤して一生懸命に協力してくれました。

被災当初は再起不能かと落胆しましたが、県医師会長、市郡医師会長はじめ全国の多くの友人や知人からいち早く励ましのお言葉やお見舞いを頂戴しまして、どうやら立ち直ることができました。この感謝の気持ちはどのようにお礼を言っても言い尽くすことは出来ませんが、皆様から頂いた心温まるご厚情を今後の診療に活かしていきたいと思えます。

## 寄 稿

## 台風14号被害 雑感

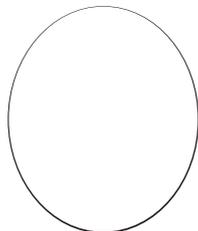
宮崎市 富吉共立病院 ^{し し め}獅子目 ^{あつむ}輯

人生には上り坂，下り坂，まさかの3つの坂があるという。9月6日早朝，外を見た瞬間，この言葉が思い浮かんだ。病院全体が水に囲まれ，近くの家は屋根まで浸っており，道路を救命ボートが通っていた。本院は1階が外来，2階が病棟，3階が自宅で，今まで浸水したことはなく安心していた。眠気もいっぺんに覚め，前夜より泊り込んでいた職員と妻と娘で，慌てて下へ降りて器具をあげていたら，見る見る増水して，1階の階段の3段まで水が来た。2階へ戻り下を見ると，自分達の車が水没しようとしていた。しばらく皆で茫然としていると，遠くで牛の異様な鳴き声が聞こえた。牛が10数頭死んだらしい。それからドタバタと動き回る日々が始まった。

自宅で給食を作り，翌朝からはビル清掃と職員でゴミを出し，電気・水道・ガスの復旧作業も始まった。朝は早く目が覚め夜は早く寝た。逃げ遅れた人も多く，泳いで非難したり，天井まで水がきて屋根瓦を割って救助されたり，一人暮らしの老人が胸まで水に浸って立ってた所を救出されたりで，ほとんどの人が着の身着のまま，危機一髪逃げたらしい。避難生活で体調を壊したり，ボケが進んだりした老人が6名入院した。往診して，胆のう炎で他医へ救急搬送した例もあった。住民は埃にまみれ，片付け作業におわれ，手足に傷を負う人が多かった。目は窪み，顔はすすけていた。だが，何故か皆笑っ

ている。笑うしかないのか？人が良いのか？よく分からない。それでも「病院も大変でしょう」と心配してくれる。病院も水に浸って良かったのかとも思う。今回の災害で思う事は，緊急連絡もなく，サイレンもなかった。ラジオも役に立たなかった。警察に電話したら，「自分の命は自分で守れ」と言われ，消防は「屋根にいる人が先だから，上へ上へと避難せよ」との返事だった。水，食料，燃料や，医薬品，医療用品などは，数か所に分けて置いていた方がよい。例え自分も被災していても，地域の病人は来るので，その場にあるものだけで懸命に対応しなければならない。保険は再確認した方がいい。風害は出るが水害はダメとか，高額な物には特約が必要など，すんなりとは出ない様になっている。行政による救済も，制限が色々あって，2階のある者や高所得者や事業をしている者はダメで，何も貰えない。災害時には思いもよらない事が起きる。職員の1人が，他の職員や患者に，もうこの病院は立ち直れないので，「一緒にやめよう」とか，「よそへ行け」と言っていると聞いた時は愕然とした。まさに「泣き面に蜂」，格段の気力や体力が要るようだ。勿論，その職員はゴミと共に去った。新聞を見ると宮崎は大地震の危険地帯とある，地震でなくて良かった。医療費7兆円圧縮ともある，国の借金1,000兆円，国家破産の文字もある。一寸先は闇，何かいや～な予感がある。

## 随 筆



## ラージボール卓球

宮崎市 野崎病院 ^{とも}友 ^{なり}成 ^{ひさ}久 ^お雄

私が住んでいる地区でも最近公民館活動が盛んになってきたが、主役は60歳過ぎの人たちである。昨年からは音楽のクラブが出来て、コーラスやカラオケが始まり、妻も参加している。私は日ごろ運動不足を感じ、なんとかしなければと思っていたので、卓球クラブに入ることにした。地域の人と交わる機会にもなればいいことだと思った。

行ってみると、やはり同じ年代の人たちが10人余り狭い会場に来ていて、2、3人は私より少し年長の70歳代かと思われた。女性も数人混じっている。みんな意外に上手だと思われた。ボールが普通の卓球のそれと違って、少し大きいためスピードがあまり出ないので、やさしく、初心者や高齢者に向いている。ラケットのラバーも威力の出ない表ソフト(円い粒が表に出ている)と決まっていて、通常の裏ソフトは使えないという。

1か月余りで大分慣れてわかったのだが、確かにスピードが出ず、非常に打ちやすい。ドライブをかけられたり、カットされてもさほど変化せず、スマッシュも案外に受けられる。逆にこちらがスマッシュしても簡単に決まらないわけだが、結局ラリーが長く続くので、自分が上手になった気がして得意な気持ちになる。

これは高齢者卓球とも呼ばれ、各地の公民館に広がっており、そのため最近卓球専門の店が出来ているという。私も店から公民館に来ても

らって、ラケットを張り替えてもらった。

60歳過ぎのある女性はパワーが男性にひけを取らず、スマッシュを得意にしている。彼女は以前から何かスポーツをやっていたのだろうと思われたのだが、そうではなく、ずっと専業主婦で針仕事を好きでやっていたという。2年前夫が定年になり、週2回の卓球に出られるようになった。今は卓球が生きがいで、卓球の日は幸せ感と興奮で夜眠れないこともあるという。それは私たちが30歳代にゴルフを始めたときと同じだが、60歳過ぎまでそういう情熱やエネルギーが温存されることがあるのかと驚いた。

最近始めたという70歳ぐらいの女性も含めて、みんな元気がよく、熱心である。1回が7分で台や相手を変えるのだが、ほとんどの人が順番を待つ人がいるとき以外は休まず、1時間、2時間と続けてやる。私は持久力のなさを感じた。しかし、次第に慣れて、疲れが翌日まで残ることはなくなった。

それはともかく、練習も試合も面白く、みんなの表情は明るい。試合はもっぱらダブルスで、男女で組むことも多い。女性が混じると一層楽しくなるが、それは若い時と変わらない。普段笑いの少ない私も、卓球の時は気分が明るくなり、他人に劣らずよく笑う。これは体内でベータエンドルフィンが分泌され、全身の快感が起こるためだけではないと思う。

私は定期的に運動するのは15年ぶりぐらいだ

った。1か月ぐらい経って毎日の食事がゴルフに行った日のようにおいしくなった。元来弱かった胃腸の調子もいい。職場の廊下などを歩く時、足が軽いように感ずるが、これも運動の効果だろうか。高血圧などの持病がある私は、運動が今後の課題と思っていたが、楽しくできる卓球で希望が出てきた気がしている。

卓球は私が若い頃から親しんだスポーツだが、私が医者になった頃は、精神科病院では患者の唯一のレクリエーションだった。まだ娯楽の少なかった当時は職員の間でも盛んで、病院対抗試合などもあった。その後ボーリングやテニス、ゴルフなどが次々に普及して、卓球は影の薄いスポーツになっていた。そして、テニスなどに比べてイメージが暗いと言われ、台をブルーにしたり、ボールをオレンジ色にしたりして、卓球の人気を高めようとしている。天才少女の「愛ちゃん」も現れて、最近は卓球のイメージも少し変わったのではないだろうか。

一方、「日本医事新報」(2001年6月、脳疾患患者への卓球リハビリテーション)によると、大

分県の脳外科病院などで脳疾患の運動療法としてラージボール卓球が取り入れられており、卓球は脳を活性化するというデータもあるという。「卓球リハビリテーション」と呼んで、1998年にはその学会(日本卓球医学会議)まで出来ている。ラージボール卓球は精神科のレクリエーション療法にも向いていると思う。

私は卓球クラブに行き始めて2か月経った頃、クラブが属している大本の「桜寿会」という会に入ってもらえないかと、世話役の人から勧誘された。その会は一般的に言えば老人会にほかならず、いささか抵抗を感じたけれども、運営のための会費も要するというので入会した。こうして、私はおっくうだった地域の人との交流にも、思わぬ一歩を踏み出すことになった。

.....というのは昨年までの話で、3か月後に体調不良の波が来て、その後私は長く休んでいるが、近いうちに再び始めたいと思っている。

## 随 筆

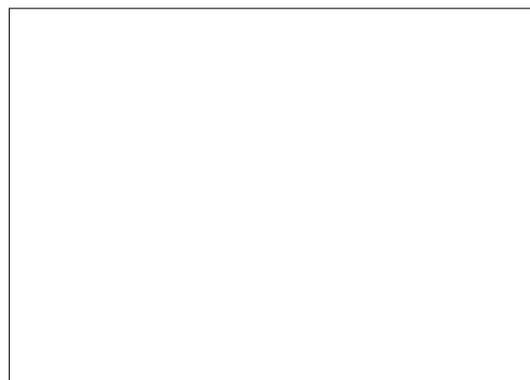
## 74歳の海軍兵学校生徒

高千穂町 田上医院内科 ^{たの}田 ^{うえ}上 ^{つね}恒 ^お雄

## 1. 動 機

平成17年6月に、「全国有床診療所協議会」の案内を受け、期日は7月30日、翌日の7月31日に、「日本旅行社」のツアーで、「江田島海軍兵学校見学コース」が組まれていました。前々から一生に一度は「江田島」を訪れたい夢と希望があったので、早速「江田島見学コース」を申し込みました。太平洋戦争当時、私達昭和一桁生まれは、軍国色一色で育ち、学校の教育も社会環境も戦時体制でした。旧制中学（現宮崎大宮高校）でも、上級生の殆どが陸軍士官学校か海軍兵学校を志望し、海軍兵学校に合格した先輩が、夏休み帰省で、七つボタンの純白の軍服軍帽で短剣を腰に吊るし、凛々しい姿で私達下級生を校庭に集め、「海兵に來たれ!!」と檄を飛ばされました。そんな影響が私の「海軍兵学校」への憧れとなりました。しかし中学3年時に、終戦となりその受験はありませんでした。戦後10年位たって「あゝ江田島」、「海兵4号生徒」の映画が上映され、そのビデオも見て、益々僕の海軍兵学校への憧れは強くなり、いつかは「江田島」を訪れてみたいと思っていました。

今度の広島医学会は絶好のチャンスだったわけです。7月30日家内も一緒に同行し、出発時に、20年前に通販で購入していた海軍兵学校の、白い軍服軍帽短剣一式をリュックに詰め、広島に背負って行きました。家内は、軍服を着て兵学校内を歩いたら皆様から笑われますよとしきりに牽制しましたが、当日



赤レンガ生徒館の前で  
(74歳の海軍兵学校生徒)

は何のクレームもなく黙認してくれました。

## 2. 兵学校見学

7月31日広島のホテルを出発、江田島に到着すると、裏門から校内に入り、休憩所で急ぎ軍服軍帽に着替え、ここで「74歳の海軍兵学校生徒」が誕生しました。

案内係の人は、ここ「海上自衛隊幹部候補生学校」を出て定年退職し、現在校内の案内説明役をして居られるとの事でした。旧兵学校生徒の軍服に着替える事も快く許して下さい、校内でのスナップ撮影もどうぞ御自由にと行って下さいました。

見学ツアーの人達は30人位、案内係の人についてゾロゾロ校内を歩きます。その一番後ろに僕と家内がつづき、周りに人がいない時を見はからって、写真をパチパチ撮りました。

江田島海軍兵学校の建物は、戦時中幸いにも戦災に会わず、当時のままで、赤レンガ造

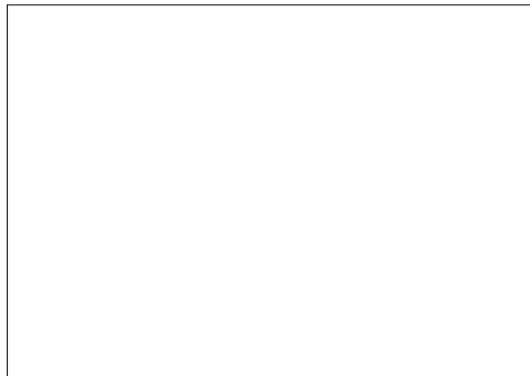
りや、うす灰色の生徒館群が、堂々と立派に立ち並び、庭の松並木が濃い緑色に映えて、素晴らしい景観で、感嘆の声を家内と何度も上げる程でした。こんなすばらしい環境の中で、戦前の海軍士官の卵が育って行った事を偲び、昔の俳人の句をもじって「赤レンガつわもの共が夢の跡」と口ずさんでみました。

赤レンガは、明治初期英国から高価なレンガを取り寄せ、一つずつ紙に包んで持って来たそうです。少しも風化せずツヤツヤしていました。2,000人は入る大講堂では、これ又、中は立派で、床、シャンデリアなど豪華で、こゝで入校式卒業式が行われたとの事です。ツアーの中にいらした60代の御婦人が、僕の軍服姿をぜひ写真に撮りたいと申され、快くモデルになって上げました。恐らくその方のお父さんか兄さんが、ここ兵学校出身でなつかしかったのでは...と思った事でした。

「教育参考館」では、幕末から太平洋戦争迄の海軍関係者の写真、遺品、遺書が展示しており、僕が大変ショックを受けたのは、ハワイ真珠湾に突入した特殊潜航艇の乗組士官が着用していた衣服が、アメリカ側から返還されたのでしょうか、半分ボロボロになり、色はうす茶色で、車修理工が着るナップ服みたいで、実に質素な服でした。靴も粗末でぞうりの様なドタ靴でした。こんな服で突撃されたのかと胸が詰まる思いでした。この特殊潜航艇は引き揚げられ、戦後アメリカから返還され、実物が校内の敷地に展示されてありました。「江田島」を卒業された5人の海軍士官の内、誰かが乗って行かれた艇です。

「教育参考館」には、東郷元帥の遺髪が安置されてある所もあり、兵学校の生徒がした様に、僕も脱帽して拝んで来ました。

運動場(練兵場)は、これ又緑の芝生がきれいに植えられ、歩道は白い砂の砂利が敷きつ



真珠湾に突入した特殊潜航艇をバックに

められ、周りの緑の松並木、立ち並ぶ赤レンガの生徒館と、すばらしい景色に見とれていました。この運動場で海軍士官の卵達が3年間、海軍体操や棒倒して、肉体や精神を鍛え上げて行ったのかと思いをはせました。

運動場を海に向かってつき切っていくと、「表棧橋」に出ます。ここが海軍兵学校の本当の玄関だそうです。ここから卒業生の士官候補生達が、棧橋を渡って、見送りの在校生の「帽振れー」で小汽船に乗り、沖で待つ軍艦に乗り移って、遠洋航海や戦場におもむいたとの事です。

戦時中、風雲急を告げる太平洋の「波高し」とは違い、今は平和な瀬戸内のさざ波が、おだやかに岸壁に寄せては返していました。その横に、当時のままのカッターボート(短艇)が20隻位係留されていました。江田島健児が、上官からどなられ気合を入れられて、鍛錬に明け暮れたボートです。さぞかし丸太ん棒の様な太い櫂が重かった事でしょう。

見学の日は日曜日だったので、現在の「幹部候補生」は殆んど見かけなかったのですが、中に1人、見るからに精悍そうな、スラリとした長身の学生が、外出先から帰って来るのを見かけました。背筋をピンと伸ばし、黒のケースカバンを持ち、サッソウと歩いていました。家内が見とれて、一緒に写真を撮ればよかつ

たのにと、あとでくやんでいました。

### 3. その後

僕が「江田島」に憧れ、60年ぶりに恋人に会った様な夢が実現出来、満足で感激一杯ですが、「兵学校生徒」の軍服短剣のカッコ良さよりも、むしろその内にある「江田島教育」、「江田島精神」に、強く心惹かれる所があります。人間の限界ギリギリの所まで、肉体も精神も、とことん鍛えて行く、その有様がたまらなく好きなのです。それは若い20代でしか出来なかったかも知れませんが、今70歳を越えてでも、その情熱と意気は、燃やして持ち続けて行こうと思っています。

九大内科同門でもあり、先輩でもある尾前照雄先生(国立循環器センター名誉総長)も、海兵75期、最後の「海兵1号生徒」でした。先生の第一の青春「江田島」に僕が夢を果たした事を手紙で報告した所、先生は殊の外大変喜ばれ、御丁寧な返書と「錨のしずく」、真継不二夫写真集「海軍兵学校」、「海兵1号生徒自伝」

を贈って下さり、とても感激しました。

家内は、江田島に行く迄、初めは大して気乗りせず、今迄僕の「海軍気狂い」に余り関心がありませんでした。いざ江田島に行き、海軍兵学校の生き様を実際に見て、今更乍ら僕の「海軍兵学校」への情熱を見直した様です。江田島のあの素晴らしい景観と環境に又来れるなら息子達や孫にも見せて上げたいと、すっかり感激しています。「江田島教育」で五省(五つの反省)の意味を教えて上げたら、現代の若者にもぜひ伝えて実行して貰いたい、すばらしい教訓だと言って居ります。

江田島に行って本当に良かったと思います。「江田島効果」てき面で、近頃は更にも増して、元気はつらつ、やる気満々、五省の一つ「気力に欠くる無かりしか」を口の中で唱えて、充実した日々を送りたいと思います。病院の看護師やスタッフの皆から、先生は江田島から帰られて、何だか生き生きして、10歳位若返られたみたいとひやかされています。

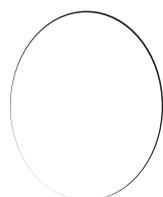
## エコー・リレー

( 364回 )

( 南から北へ北から南へ )

## 11年ぶり

日向市 協和病院 桑原五美

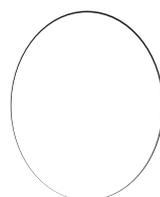


平成16年から10年ぶりに同じ病院で勤務することになり、現在に至ります。先日、外来に電話で「10年ぐらい前に1度受診して女の先生にみてもらった。同じ症状が出たので、また受診したい」という相談がありました。カルテを探したところ、11年前、季節もちょうど同じ頃、1年間の出向の間に私が一度診察した方でした。しかも、11年前に受診した当時も「10年前に一度今は亡き初代院長先生にみてもらった。そのときの薬がよく効いたので同じ薬を出してほしい」という話で、私は古いカルテを見て同じ薬を処方していたのでした。21年前も、11年前も、1週間分の処方のみで、来院はそれぞれ1度きり。私の診療科ではない疾患名で、病院からも遠いところに住んでいる方なので(初診の時は近所だったのかもしれませんが)、どうぞ受診して下さいと返事をしてほどなく、その方はみえました。もうお互いに顔も覚えていません。「前の女の先生も先生でしたかね?」と尋ねられます。11年前に受診した後、処方された薬を飲んだらすぐよくなって、それきりどうもなかったこと、また同じ症状がでてきたので、近所で同じ薬がもらえるかわからないと思ってはるばる来たことなど話されました。私はまた1週間分の処方をしました。それきりその方は来られません。縁の不思議を思うとともに古いカルテもずっととっておいた方がよいのだなあ実感した出来事でした。

〔次回は、小林市の戸高一成先生にお願いします〕

## 長今(チャングム)に魅せられて

宮崎市 宮崎生協病院 遠藤 豊



我が家では、土曜日になると家人が早々と夕食の支度をし、あとかたづけも終える。どうやらお目当ては韓国のテレビドラマ。韓流ブームと言われて久しいが、いまさらヨン様でもあるまいにとビール片手に見ていると韓国の時代劇、「スラッカ?」「テソンカン?」「チェゴサンゲン?」「ネイウォン?」と聞き慣れない言葉が飛びかっている。この時が「宮廷女官：チャングムの誓い」との出会いである。16世紀初頭、朝鮮王朝の宮廷で徹底した男尊女卑の封建体制のもと、陰謀で亡くなった母の無念を晴らすためスラッカ(宮廷の厨房)の女官となり、開花した長今(チャングム)だが、またしても陰謀で済州島に追放されてしまう(前編)。長今が宮廷に戻る道は医女になることだけ。厳しい修練を乗り越え、晴れて医女試験に合格しネイウォン(内医院)の一員になり、皇太后の脚気を診断し治療したり、疫病とされていた原因が食中毒と調査したり大活躍であった。そして王の主治医にまで上りつめて「大長今」の称号を与えられた。陰謀あり、恋愛ありなかなか目が離せない(後編)。韓国では、薬食同源という言葉があり、まさにメタボリックシンドローム全盛の今日、日本の医療にも通ずるところがある。最近食卓に五穀米や野菜が増えたのは腹囲が診断基準を超えた私の体を気遣う長今にはまった家人の計らいであろう。視聴率50%、男性ファンも多いこのドラマ一見の価値あり。

〔次回は、宮崎市の山内 励先生にお願いします〕

## 宮崎県感染症発生動向 ～10月～

平成17年10月3日～平成17年10月30日(第40週～43週)

## 全数報告の感染症

- 1類：報告なし。  
 2類：報告なし。  
 3類：腸管出血性大腸菌感染症が中央(2例)、都城(1例)保健所から報告された。  
 中央保健所  
 ・3歳の男児で、水様性下痢、血便がみられた。原因菌の血清型はO157(VT2産生)。  
 ・2歳の女児で、無症状。原因菌のO血清型は不明(VT1産生)。  
 都城保健所  
 ・1歳の女児で、血便がみられた。原因菌の血清型はO157(VT2産生)。  
 4類：○つつが虫病1例が小林保健所から報告された。70歳代の女性で、刺し口、発熱、頭痛、筋肉痛、肝機能障害が見られた。  
 ○レプトスピラ症1例が宮崎市保健所から報告された。60歳代の男性で、黄疸、発熱、意識障害等が見られた。  
 5類：○ウイルス性肝炎(B型)1例が日南保健所から報告された。20歳代の女性で、全身倦怠感、食欲不振が見られた。  
 ○破傷風1例が中央保健所から報告された。60歳代の女性で、筋緊張、痙攣が見られた。

## 5類定点報告の感染症(表)

表 前月との比較

定点からの患者報告総数は1,936人(定点あたり67.3人)で、前月比102%と横ばいであった。また、例年と比べると89%と少なかった。

10月に増加した主な疾病は水痘、RSウイルス感染症、流行性耳下腺炎で、減少した主な疾病は咽頭結膜熱、伝染性紅斑、手足口病であった。また、例年同時期より報告数の多かった疾病は、風しん、ヘルパンギーナであった。

水痘の報告数は135人(3.6人)で前月比165%と大幅に増加した。また、例年と比べると84%と少なかった。年齢別では1歳から3歳で全体の約7割を占め、地域別では高鍋(8.5人)、宮崎市・都城(6.0人)保健所からの報告が多かった。

RSウイルス感染症の報告数は120人(3.2人)で前月比154%と大幅に増加した。年齢別では1歳以下で全体の約8割を占めた。地域別では延岡保健所(18.3人)からの報告が多かった。

流行性耳下腺炎の報告数は151人(4.1人)で前月比116%と増加した。また、例年と比較すると88%と少なかった。年齢別では、1歳から6歳で全体の約7割を占めた。地域別では、延岡(8.8人)、中央(5.8人)、都城(5.4人)保健所からの報告が多かった。

	2005年10月		2005年9月		例年との比較
	報告数(人)	定点当たり(人)	報告数(人)	定点当たり(人)	
インフルエンザ	0	0.0	0	0.0	
RSウイルス感染症	120	3.2	78	2.1	
咽頭結膜熱	15	0.4	36	1.0	
溶レン菌咽頭炎	133	3.6	117	3.2	
感染性胃腸炎	846	22.9	829	22.4	
水痘	135	3.6	82	2.2	
手足口病	48	1.3	71	1.9	
伝染性紅斑	25	0.7	39	1.1	
突発性発しん	161	4.4	207	5.6	
百日咳	1	0.0	1	0.0	
風しん	4	0.1	5	0.1	
ヘルパンギーナ	226	6.1	231	6.2	
麻しん	0	0.0	0	0.0	
流行性耳下腺炎	151	4.1	130	3.5	
急性出血性結膜炎	0	0.0	0	0.0	
流行性角結膜炎	63	15.8	64	16.0	
細菌性髄膜炎	2	0.3	3	0.4	
無菌性髄膜炎	1	0.1	1	0.1	
マイコプラズマ肺炎	5	0.7	2	0.3	
クラミジア肺炎	0	0.0	0	0.0	
成人麻しん	0	0.0	0	0.0	

例年同時期(過去3年の平均)より報告数が多い  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

風しんの報告数は4人(0.1人)で、全て宮崎市保健所からの報告であった。  
 ヘルパンギーナの報告数は226人(6.1人)で前月比98%と横ばいであった。また、例年と比べると約2倍の報告数であった。年齢別では1歳から3歳で全体の約7割を占め、地域別では日南(9.7人)、高鍋(8.5人)保健所からの報告が多かった。

### 月報告対象疾患の発生動向 10月

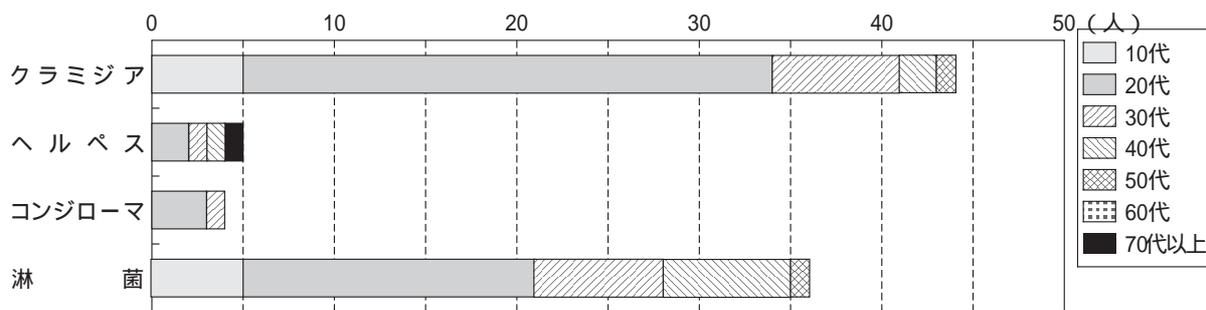
#### 性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：11

定点からの報告総数は89人(定点あたり8.1人)で、前月比146%と大幅に増加した。また、昨年10月(6.2人)と比較しても131%と大幅に増加した。

#### 《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数44人(4.0人)で、男性23人、女性21人で、20歳代が約7割を占めた。都城(9.0人)、日向(7.0人)保健所からの報告が多かった。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数5人(0.45人)で、全て女性であった。
- 尖圭コンジローマ：報告数4人(0.36人)で、男性2人、女性2人であった。
- 淋菌感染症：報告数36人(3.3人)で、男性34人、女性2人。20歳代が約4割を占めた。



年齢別性感染症報告数(10月)

【全国】定点医療機関総数：919

定点からの報告総数は5,772人(6.3人)で前月比98%と横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,981(3.2人)、性器ヘルペスウイルス感染症851人(0.93人)、尖圭コンジローマ604人(0.66人)、淋菌感染症1,336人(1.5人)であった。

#### 薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点からの報告総数は25人(3.6人)で前月の約2倍と大幅に増加したが、これは9月の報告数が8月に比べ約半数であったためである。また、昨年10月(5.0人)と比べると約7割であった。

#### 《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数19人(2.7人)で、70歳以上が全体の約7割を占めた。高鍋保健所(7.0人)からの報告が多かった。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数5人(0.71人)で、10歳未満が4人、70歳以上が1人であった。全て宮崎市保健所(5.0人)からの報告であった。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数1人(0.14人)で、60歳代の男性であった。

【全国】 定点医療機関総数：469

定点からの報告総数は2,272人(4.8人)で前月比109%と増加した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,789人(3.8人)、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症415人(0.88)、薬剤耐性緑膿菌感染症68人(0.14人)であった。

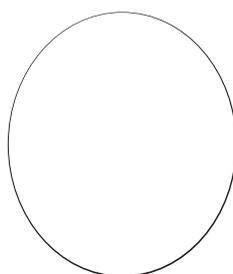
(宮崎県衛生環境研究所)

叙勲・祝賀

旭日双光章（保健衛生功労）

函 師 鎮 雄 先生（西都市）

秋の叙勲において、旭日双光章を受章されました。



衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍  
を祈念いたします。

## グリーンページ

## 医療制度構造改革試案

2005年10月19日 厚生労働省

副会長 志 多 武 彦

10月19日厚生労働省は医療制度改革試案を公表した。今後の医療制度改革のたたき台、あるいは厚生労働行政の指針というべきもので、その影響は極めて大きいものがある。医療費適正化の総合的対策も示したのが特徴である。政府与党はこの試案を基に年内に成案をまとめ、来年の通常国会に関連法案を提出する。

要旨は以下の通りである。

## 【基本的な方向】

## ．基本方針

- 1．国民皆保険の堅持。
- 2．制度の持続可能性維持のため、経済指標に留意しつつ、予防を重視し医療の質の向上・効率化により医療費を適正化し、負担可能な範囲に抑制する。
- 3．給付と負担の関係を老若通して公平に。

## ．医療費適正化の進め方

- 1．方策として生活習慣病対策や長期入院の是正など中長期的方策と保険給付の内容・範囲の見直し、診療報酬改定等による短期的方策の組み合わせが必要。

## 【試案】

．予防重視と医療の質の向上・効率化のための新たな取組み

- 1．生活習慣病予防のための本格的な取組み（方向性）

生活習慣病を中心とした疾病予防を重視するとともに、医療計画の見直しなどによ

る総治療期間（在院日数を含む）の短縮等により、地域ごとに患者本位の医療提供体制を確立する。

- 1）糖尿病・高血圧症・高脂血症（以下糖尿病等）の予防に着目した健診および保健指導の充実等、都道府県健康増進計画で糖尿病等の患者、予備群の減少率や健診・保健指導実施率の目標を示す。

- 2）生活習慣病予防国民運動推進会議（仮称）の設置。

## 2．患者本位の医療提供体制の実現

- 1）医療計画制度の見直し等

総治療期間短縮のため、脳卒中対策、がん対策等の医療連携体制の構築、年間総入院日数、在宅での看取り率等の数値目標の導入

- 2）医療に関する積極的な情報提供

医療費の内容が分かる領収書の発行義務づけの検討

- 3）根拠に基づく医療（EBM）の推進

- 4）医療法人制度改革

解散時の残余財産が個人に帰属しないことを医療法に明記

- 5）医療安全対策の総合的推進及び医療従事者の質的向上

安全管理などの体制の整備、行政処分を受けた医師の再教育の義務づけ

- 6）地域・診療科による医師偏在に対応

都道府県に医療対策協議会を設置  
 ・医療費適正化に向けた総合的な対策の推進

医療費適正化計画に基づき、関係当事者の参加による中長期的な医療費適正化を進めるとともに、公的保険給付の内容・範囲の見直し等の短期的な方策を組み合わせ、国民的合意を得ながら医療費の適正化に強力に取り組む。

1. 中長期的な医療費の適正化

1) 都道府県医療費適正化計画の策定、実施、検証、実施強化、実績評価

- ・国が示す参酌標準の下で、医療費適正化計画(仮称)(計画期間5年)を都道府県が策定、実施し検証して実績評価をする。
- ・15年度全国目標 糖尿病等の患者・予備群で25%減少、平均在院日数は全国平均(36日)と最短の長野県(27日)との差を半分に縮小。(図1参照)
- ・国は目標実現に向け、診療報酬体制の見直しや財政措置を行い支援する。

2) 保険者による保健事業の本格実施

糖尿病等の予防に着目した健診・保健指導事業の義務づけ

3) 実績評価措置

政策目標の実施状況を踏まえ、都道府県・医療保険者の費用負担の特例や都道府県ごとの特例的な診療報酬の設定等

2. 公的保険給付の内容・範囲の見直し等

1) 高齢者の患者負担の見直し

- ・現役並みの所得を有する70歳以上の者は3割負担(06年10月目途)。
- ・後期高齢者(75歳以上)は現行通り1割負担、前期高齢者(65歳~74歳)2割負担。但し現役並みの所得者は3割負担。
- ・(別案)前期・後期高齢者双方とも一般は2割負担、現役並み所得者は3割負担、

後期高齢者のうち低所得者は1割負担。

(図2参照)

2) 保険給付の内容・範囲の見直し

- ・療養病床に入院する高齢者の食費・居住費の負担見直し(06年10月目途)。
- ・高額療養費の自己負担限度額の見直し(06年10月目途)。(図3参照)
- ・高額医療・高額介護合算制度を設ける。

3) 保険者運営効率化の取組み

- ・ITを活用した医療保険事務の効率化。
- ・審査支払機関による審査の充実。

4) 保険料賦課の見直し

- ・標準報酬月額の上下限の範囲の拡大等(07年4月目途)。

・都道府県単位を軸とする医療保険者再編の統合等

保険財政運営の規模の適正化、地域の医療費水準に見合った保険料水準の設定のため、保険者について、都道府県単位を軸とした再編・統合を推進する。これにより、保険財政の安定化を図り、医療費適正化に資する保険者機能を強化する。

1. 国民健康保険

- ・小規模保険者の運営を広域化するため都道府県単位での保険運営の推進(06年実施)。
- ・国保財政基盤強化の見直し。

2. 政府管掌健康保険

- ・08年10月を目途に国とは切り離れた全国単位の公法人を保険者として設立。
- ・都道府県単位の財政運営、保険料設定。
- ・適用・保険料徴収の事務は、新設の公的年金の運営主体が実施。

3. 健康保険組合

- ・同一都道府県内の健保組合の再編・統合の受け皿として、企業・業種をこえた地域型健保組合の設立を認める(06年10月目途)。

・新たな高齢者医療制度の創設

(図4 参照)

高齢者の心身の特性、生活実態等を踏まえ、新たな高齢者医療制度を創設する。具体的には、75歳以上の後期高齢者の医療の在り方に配慮した独立保険を創設するとともに、65歳から74歳の前期高齢者については、予防を重視して国保・被用者保険といった従来の制度に加入しつつ、負担の不均衡を調整する新たな財政調整の制度を創設する。

1. 後期高齢者医療制度(75歳以上)

(図5参照)

- 1) 後期高齢者の保険(1割)、国保・被用者保険からの加入者数に応じた後期高齢者医療支援金(仮称)(4割)及び公費(5割)を財源とする新たな独立保険を創設。
- 2) 世代間の負担の公平化を図るため、後期高齢者の保険料総額の割合を高め、現役世代の負担の軽減を図る。
- 3) 後期高齢者一人ひとりに応益+応能の保険料負担を求め(一人当たり年間7万円程度)。
- 4) 低所得者には軽減措置。
- 5) 運営主体は市町村で保険運営の種々の安定化措置を講じる(省略)。

2. 前期高齢者医療制度(65歳~74歳)

(図6参照)

- 1) 国保・被用者保険といった従来の制度に加入、偏在に伴う給付費の不均衡については各保険者が加入者数に応じて負担する財政調整を行う。
- 2) 国保加入の前期高齢者についても保険料の特別徴収(年金天引き)を実施。

3. 経過措置

2014年までの間における65歳未満の者を対象として、その者が65歳に達するまでの間、経過的に現行の退職者医療制度を存続

させる。

・診療報酬体系の在り方の見直し等

患者本位の医療を更に推進するため、診療報酬と医療政策上の要請との関係を明らかにするとともに、診療報酬決定プロセスを透明化する。

1. 診療報酬体系の在り方の見直し

2006年度の改定において、(1)平均在院日数の短縮、(2)医療機能の分化・推進、(3)終末期対応を含む在宅医療の推進等の検討。

2. 薬剤に係る給付の見直し等

2006年度の改定において後発品の使用促進のための仕組み等の検討。

3. 保険診療と保険外診療との併用の在り方の見直し(混合診療への対応)

現行の特定療養費制度を「保険導入検討医療(仮称)」「(保険導入のための評価を行うもの)及び「患者選択同意医療(仮称)」「(保険導入を前提としないもの)に再編成する。

4. 中央社会保険医療協議会(中医協)の見直し

委員構成の見直し等。

【参 考】

・経済財政諮問会議などで出た提案について、医療費削減効果を試算

1. 療養病床に入院する高齢者に加え、一般病床を含めた病院の入院患者についても食費・居住費負担を見直し0.5兆円減(2015年度)
2. 外来診療で、受診1回ごとに一定額までは自己負担とする保険免責制の創設。1回あたり自己負担千円なら3.2兆円減、500円なら1.9兆円減(いずれも2015年度)
3. 2015年度までに10%の診療報酬マイナス改定を実施3.7兆円減 (図7参照)

「厚労省医療制度構造改革試案」に対する日本医師会の見解(要旨)

次のような問題点がある。

1. 経済重視であり、医療の質の向上について何ら触れていない。
2. 運用次第では、医療費総枠管理につながるものである。
3. 医療費適正化に名を借りた患者負担増である。患者は受難者である。
4. 都道府県によって医療費が変わるのは、国民皆保険制度の理念に反する。
5. 医療保険部会で議論が煮詰まっていないものを、試案として出すのは遺憾である。
6. 患者負担増につながるものは、日本医師会は反対である。

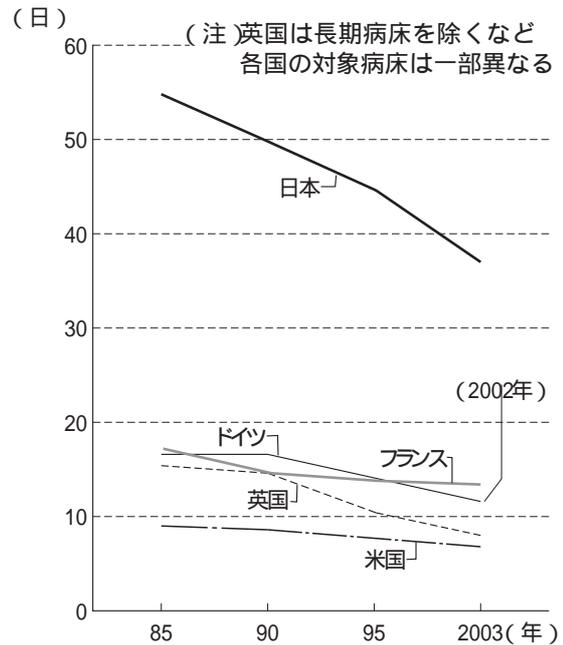


図1 平均入院日数の国際比較

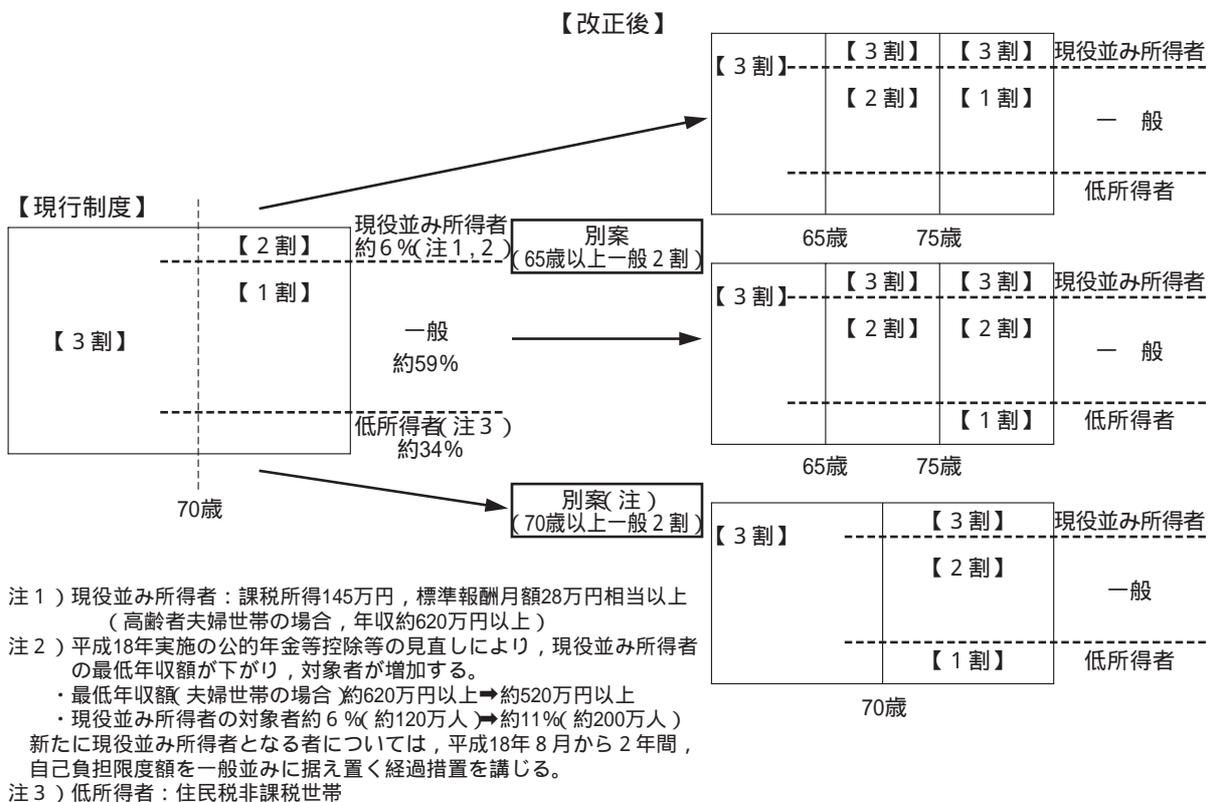


図2 高齢者の患者負担

		【現 行】		【見直し案】	
一 般 医 療 対 象 者 ( 70 歳 未 満 の 者 )	上位所得者 (月収56万円以上)	139,800円 + 1% (77,700円)	上位所得者 (月収53万円以上)	150,000円 + 2% (83,400円)	
	一 般	72,300円 + 1% (40,200円)	一 般	80,100円 + 2% (44,400円)	
	低所得者 (住民税非課税)	35,400円 (24,600円)	低所得者 (住民税非課税)	35,400円 (24,600円)	

70歳以上の高齢者	自己負担限度額		自己負担限度額	
	外来(個人ごと)	自己負担限度額	外来(個人ごと)	自己負担限度額
現役並み所得者 (月収28万円以上、 課税所得145万円 以上)	40,200円	72,300円 + 1% (40,200円)	現役並み所得者 (月収28万円以上、 課税所得145万円 以上)	66,600円 80,100円 + 2% (44,400円)
一 般	12,000円	40,200円	一 般	12,000円 44,400円
低(住民税非課税) 所得者	8,000円 (年金収入65 万円以下等)	24,600円	8,000円	24,600円
		15,000円		15,000円

(注) 低所得者とは、世帯員全員が住民税非課税等の場合の区分であり、その中でも住民税の課税対象となる各種所得の金額がない等の場合(年金収入のみの場合、年金受給額65万円以下)には、低所得者の区分が適用される。

- 1 金額は1月当たりの限度額。( )内の金額は、多数該当(過去12か月に3回以上高額療養費の支給を受け4回目の支給に該当)の場合。
- 2 平成18年実施の公的年金等控除等の見直しに伴い、平成18年8月から2年間、次の経過措置を講じる。  
新たに現役並み所得者となる者については、自己負担限度額を一般並みに据え置く。  
世帯員のうち一部が課税者となるが、一部は非課税の場合、非課税者について低所得者の自己負担限度額を個人単位で適用する。

図3 - 自己負担限度額等の見直し

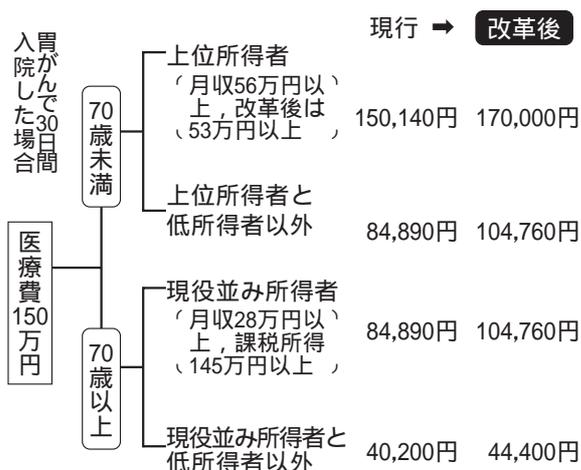


図3 - 高額医療費の自己負担限度額のモデルケース

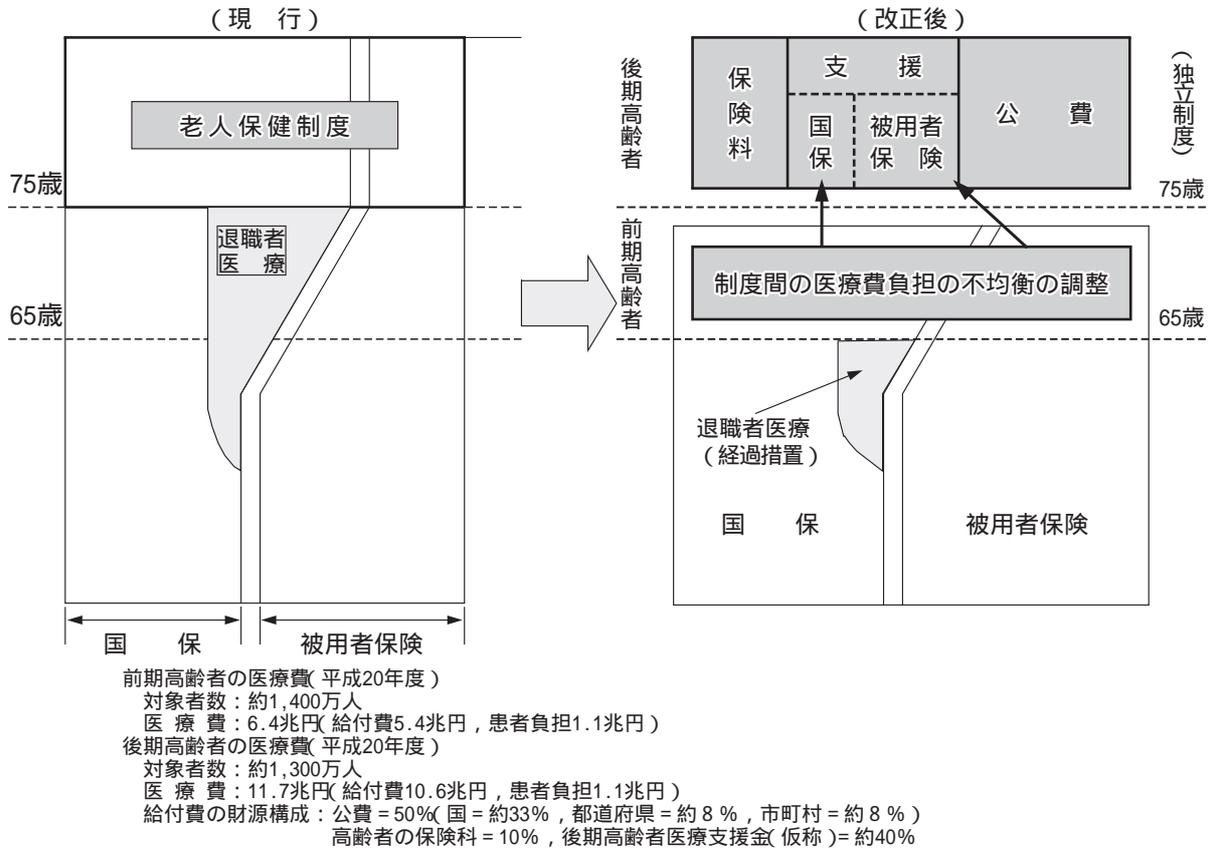


図4 - 新たな高齢者医療制度の創設

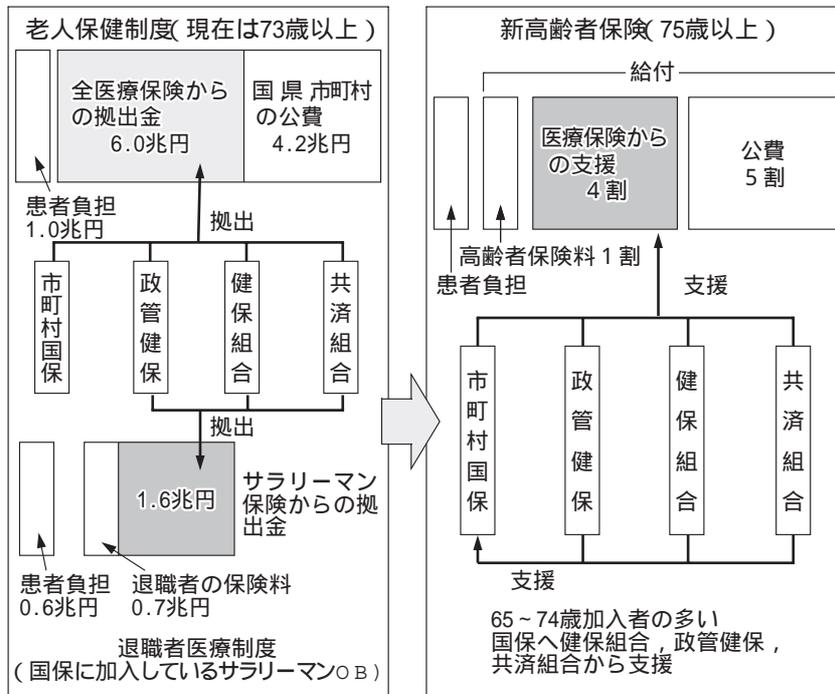
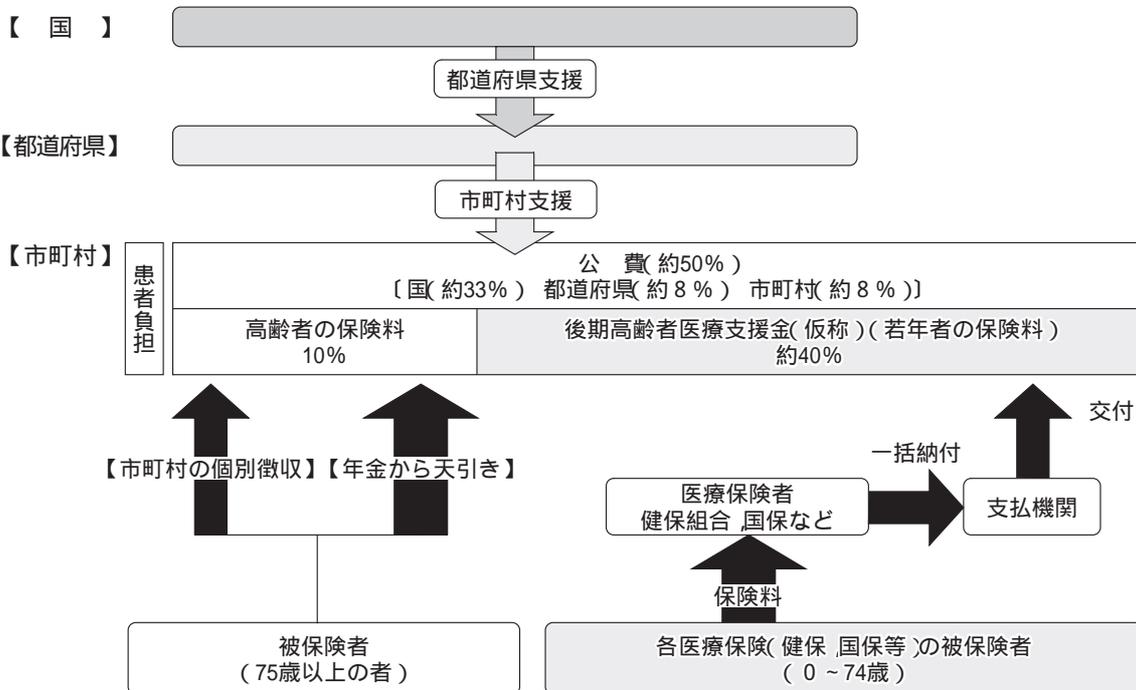


図4 -

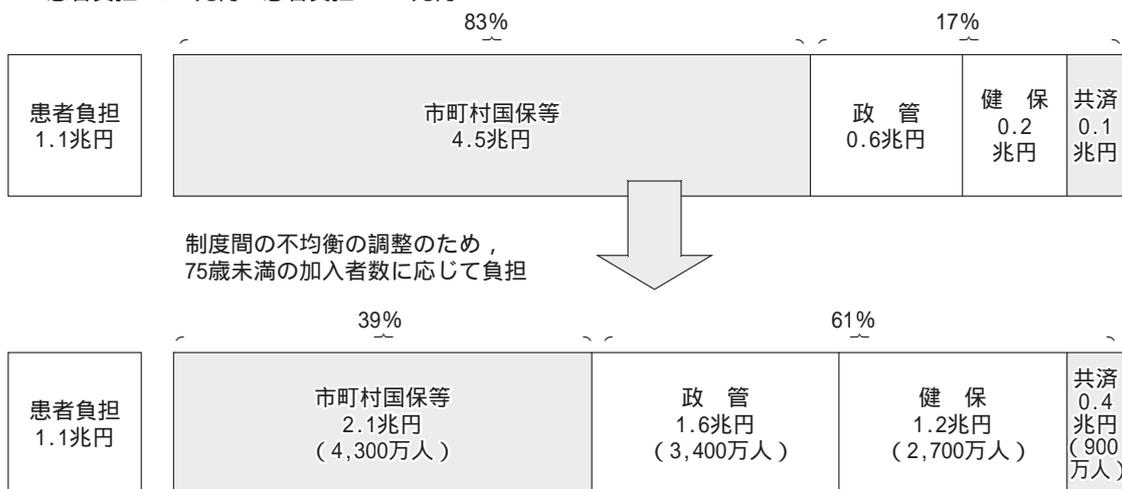
対象者数 75歳以上の後期高齢者 約1,300万人  
 後期高齢者給付費 11.7兆円  
 給付費 10.6兆円 患者負担 1.1兆円



(注1) 国保及び政管健保の後期高齢者医療支援金(仮称)には、別途各々50%、16.4%の公費負担がある。  
 (注2) 現役並み所得者については、公費負担(50%)はなされない。

図5 後期高齢者医療制度の仕組み(平成20年度)

対象者数 65~74歳の前期高齢者 約1,400万人  
 前期高齢者医療費 6.4兆円  
 患者負担 5.4兆円 患者負担 1.1兆円

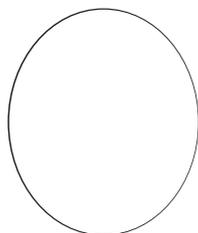


(注) 前期高齢者に係る後期高齢者医療支援金(仮称)についても、同様の調整を行う。

図6 前期高齢者医療費の費用負担について(平成20年度)



## メディアの目



## サ ー ビ ス 精 神

NHK宮崎放送局放送部長

しげ たけ はる あき  
繁 竹 治 顕

「デスクと言う字は無理ヘンにゲンコツと書く」記者になって最初に教えられたことのひとつだ。新米記者の初稿をいきなり破り捨てるようなデスクはさすがにいなくなっていたが、「サツ回りに休みはない」と叱咤され、酒の席では「辞めるなら今のうちだ」と冗談交じりに諭される日々だった。振り出しは東北の港町。大地震が起きたら真っ先に港へ行き、津波の一報を送れと指示された。「自分はどこに逃げたら良いのですか？」とデスクに聞いたら、「そんな事は自分で考えろ」と一喝された。

あれから四半世紀余り。報道現場も物わかりの良い人間が大半になった。職場で罵声が飛び交うことは希である。その一方で、この仕事に携わるものとして情けない事件が多発している。事件まで行かなくても、ストレスなどが原因で仕事が出来なくなる職員も少なくない。我々の世代は相当に鈍感だったのか、精神的に凶太かったに違いない。今は「危険な場所には絶対に近寄るな」と注意する立場である。それでも事あるたびに、配慮や優しさが足りないと不満を言われる。

結婚が遅かったこともあって去年8月に長女が生まれ、いい歳をして父親になった。妻が子

育て仲間のある母親から聞いた話を紹介する。子どもに発疹が出たので医者に行ったら「卵アレルギーの可能性ある」と診断された。通っている保育園で保母さんに相談したら「うちでは気にせず食べさせますから」と告げられた。共働きなので保育園に預けない訳にもいかず、かといって症状がひどくなったらどうしようと悩んでいたと言うのだ。気配りのない話しである。

いい番組、いいニュースと評価されるものは、実は随所に気配りがある。だから見ていて分かり易く、聞いて納得できるのだ。取材経験から言わせてもらえば、一流と言われるスポーツ選手もサービス精神の旺盛な人が多い。プロ野球の長嶋さんや王監督はその筆頭だと思う。サッカー日本代表チームのジーコ監督も気分屋ではあるが、現役時代はファンサービスに手を抜かなかった。試合の時など精神的に大きな重圧があるだろうに、よくこんな気配りが出来るのかと不思議になったこともある。

宮崎には毎年多くの一流選手がやってくる。選手のサービス精神の源泉を分析して、様々な分野に応用すれば、気配りの行き届いた心豊かな社会が作れるのではと思うのだが。

## 各都市医師会だより

### 宮 崎 市 郡 医 師 会

宮崎市郡医師会の平成17年度の主な事業の活動状況を報告致します。

医師会病院では研修室棟が9月に完成しました。医師会病院職員及び会員の病医院の職員の研修の為の152席の研修室の他に、消防隊研修室、看護学生更衣休憩室等も併設した多目的施設です。今年で3回目になる病院評価アンケートを8月に実施、会員の希望、要求の把握に務めました。又、9月より医師会臨床検査センターの病理部門を病院に移設、院内での病理組織検査が可能になりました。

臨床検査センターは点数引き下げ、民間ラボの攻勢等で困難な運営を強いられていますが、今年度は市内の民間病院へプランチラボを設置、センターの経営改善へ役立ちました。

検診センターは7月にマンモグラフィ装置を導入し、増加傾向の乳ガン検診に備えました。

看護学校は少子化、学生勤務受入施設の減少等により准看の受験者減少が続く、現定員(100名)の減員も検討すべき時になっていますが、宮崎市郡管内病医院勤務者の准看で5割近く、正看で約3割が本校出身者である事から慎重な対処が要求されます。尚、平成18年8月には本校が担当校となって41校、約420名が参加する、中四九地区医師会看護学校協議会が開催されます。

(川島 謙一郎)

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

### 都 城 市 北 諸 県 郡 医 師 会

当医師会におきましては、去る11月13日(日)「都城地区 ACLS 基礎講習会」を始めて開催致しました。会員17名、看護師18名、薬剤師1名の計36名が6名毎のブースに分かれて受講し、宮崎善仁会病院の廣兼先生、国立病院機構都城病院の辛島先生始め九州大学大学院医学研究院医学教育学部門助教授の山岡先生にもご参加を頂いた他、県内外よりこの講習会の為に結集されたインストラクターの方々の懇切丁寧な指導により非常に有意義な講習会となりました。

(坂元 一久)

◇ ◇ ◇ ◇

### 延 岡 市 医 師 会

当医師会では10月13、14日に第36回病医院対抗ボウリング大会を行いました。延岡に一つしか残っていないボウリング場をほぼ貸し切り状

態にして、医師職員併せて2日間で計53チーム159名の参加がありました。筆者も久しぶりのボウリングでした。この大会は例年参加者も多く、中にはいつもボウリングに通っている医師もいるようです。たまには職員とのレクリエーションもいいものです。

(井手 稔)

◇ ◇ ◇ ◇

### 児 湯 医 師 会

平成18年は、診療報酬改定の年でもあり、医療を取り巻く環境が大きく変動するのではと予想される年でもあります。

児湯医師会も平成18年には、多くの問題が沸き起こるのではないかと懸念されます。児湯准看護学校の件も、その1つではないかと思われれます。児湯准看護学校は、児湯地区の医療の為、准看護師育成を目的にして日々努力しておりますが、行政側からの補助金も大幅に削減され、赤字経営を余儀無くされており、一部の会

員の中では、存続の可否についても論じられております。

児湯医師会は、准看護学校の問題も含め、児湯地区の安心医療の為、変動の年、平成18年を乗り切っていかなばと決意しております。

(坂田 師隣)

◇ ◇ ◇ ◇

### 日向市東臼杵郡医師会

11月11日、第4回日向三師会の合同研修会を行ないました。この会でドイツで心臓移植を受け成功、頑張っている石田恵梨佳さんをお招きし、体験談を拝聴いたしました。皆さん、心を打たれ感動し、涙腺を働かせました。[「心」と「ハート」]のポエムにその懐いが凝縮されています。紙面上、一部記載します。

胸の傷は命ある証

物心付いた時から励まし合った私と私のハート

(中略)

移植のその時まで私と共に闘って来た  
18年間ありがとう。そしてお疲れ様

エコーで初めて見た、「新しい命の贈り物」  
力強い鼓動が私の心を再び打つ

(中略)

あなたの心とハートが私を生へと導き、  
命を繋いでくれた。

これから仲良く精一杯生きるから！  
どうかよろしく！見ててね。大切に作るから  
そして本当に本当にありがとう。ありがとう...

胸の傷は命ある証

心とハートを繋いでいるよ。

(渡邊 康久)

◇ ◇ ◇ ◇

### 西都市・西児湯医師会

さきの台風14号のために西都市の 特に三納、三財川沿いの住宅及び田畑(特に園芸ハウス)にも大きな被害がでた。日頃我々医師会員のもと

に通院されているこれらの地区の方からその惨状を聴くにつけ、どうにも慰めようのないことがある。今年ももうすぐ終わろうとしているが、天災の傷はまだ完全には癒えてはいない。

(児玉 健二)

◇ ◇ ◇ ◇

### 南那珂医師会

当医師会では、地域の救急医療対策として今年9月に県立日南病院と第1回県立日南病院準夜救急協力体制検討委員会を開催しました。その結果、当医師会有志が県病院へ出張し、救急対応をすることに決まりました。まず、土曜日の準夜帯で試行することになりました。地域救急対策の一案です。御期待下さい。

(河野 清秀)

### 西諸医師会

本年4月より個人情報保護法の全面施行に伴い、国保高原病院では病室前の患者氏名表示は希望者のみとしております。最近では約3割の患者さんが名前の表示を希望されず、それで特にトラブルもないようです。本来なら外来患者さんに対しても名前を呼び上げるとき何か考慮したいのですが妙案がなく、スタッフ一同で思案中です。

(莫根 隆一)

◇ ◇ ◇ ◇

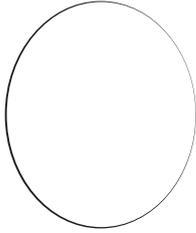
### 西臼杵郡医師会

西臼杵郡内の医療体制は、開業医師の老齢化と、それに伴って後継者難、診療所の減少、規模縮小のしわ寄せで、A会員が少なくなり、B会員(3町立病院の勤務医)が倍以上となっています。少人数の会員ですが、時々学術講演会も実施し、そのあとの懇親会で親交を深めています。植松正雄現会長が、今限りで勇退の意志を示され、来期は若手の先生で、会長、副会長をお願いする方向です。

(田上 恒雄)

## 宮崎大学医学部だより

### 整形外科学講座



ちようき えつお  
帖佐悦男 教授

平成16年5月に宮崎大学医学部整形外科学教室第3代教授に帖佐悦男教授が就任し1年半が過ぎました。帖佐教授は現在、臨床、教育、研究に精力的な活動をされており。私たちは帖佐教授の下、地域に根差

した医療を目指して、臨床、教育、研究を充実させ、その成果を世界に発信できるようにしたいと考え、日々研鑽に励んでおります。

現在の宮崎大学医学部整形外科の同門会員は177名、教室員は学内が22名、大学院生4名、県内外の関連病院出向61名の計87名であり、毎年少しずつ増えております。しかしながらそれ以上に高齢化が進むにつれて整形外科疾患を持たれた患者さんは増加しており、関連病院やそれ以外からの患者紹介、新規の整形外科医師派遣

依頼が増えてきております。当科外来は火、水、金曜日の午前中に行っており、下肢、脊椎、スポーツ、上肢の4つのグループに分かれ診療しております。1日外来患者数も院内トップクラスを維持しており、これも関連病院をはじめとした諸先生方の協力のおかげであり深く感謝しております。具体的には、変形性関節症、関節リウマチなどに対する関節温存手術や人工関節置換術などを行う関節外科、顕微鏡を導入した脊椎外科、靭帯再建や選手管理を行うスポーツ整形、手の機能再建を中心とした手の外科などの臨床を行い、さらに最新の治療法を開発し、実際の臨床に応用して有効な成果を挙げています。私たちは特定機能病院として、高度先進医療の提供を求められており、治療に難渋する症例、合併症をもった患者、全身管理を必要とする重症患者が増えてきており、関連病院の先生方と連携を取りながら治療を行っております。今後も宮崎県の中核病院として救急医療を含めた地域医療に貢献できるように全力を傾ける所存です。研究面におきましては、あらゆる臨床研究、バイオメカニクス、骨・軟骨再生、疾患遺伝子解析など精力的に行っております。

平成16年10月の医局旅行は2泊3日でお隣の国、韓国でした。リハビリテーション部との合同旅行で、観光、ショッピング、カジノ、垢すり、キムチ鍋、ミュージカル、宴会など本当に楽しいひと時でした。

平成17年5月14日、横浜で開催された第78回日本整形外科学会学術総会における全国親善野球大会にて、当教室は初優勝を飾りました(横浜スタジアム)。教室員同士の見事なチームワークの賜物です。

地域社会との連携といたしましては、帖佐教授を中心とした宮崎県や市町村との連携、各種講演会や健康教室への参加をはじめとして、側弯検診や巡回相談を行っております。また、毎月第三水曜日に開催しております三水会(症例検討オープンカンファレンス)も今年で150回を迎え記念講演会を開催いたしました。今後もこの症例検討会は続けてまいりますので、ご開業の先生にも多数参加していただき、症例の検討や情報の交換などに少しでも役立てていただきたいと存じます。またスポーツに関しましては、実業団および国体選手などのトップアスリートから中高生スポーツ選手のメディカルサポートを定期的に行っており、現在サッカーやラグビーのナショナルチームにチームドクターも派遣し

ております。整形外科の需要はお蔭様で多く、多数の施設から医師派遣の要請を頂いておりますが、新臨床卒後研修制度などのため充分なご協力できておらず、申し訳ございません。

今後の宮崎大学整形外科教室の進むべき道としては、関連病院と連携を深め地域医療に貢献し、患者さんの必要としている医療を提供できるような高度な医療水準をもつこと、それを実践できる人格と能力を持つ医師を育成することが使命と考えております。私たちは帖佐教授の下、全員で最新、最良の医療を提供できるよう努力していきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

( 医局長 せきもと 関本 ともひさ 朝久 )

## 宮崎県医師会互助会臨時評議員会

### 開 会

近間議長の開会宣言により開会された。

### 秦 会長挨拶

執行部としては、過去から今までずっと引き継いできた「会員互助の精神」は残しておきたいこと、新たに入会される先生方のためにも会員が納入した掛金(会費)だけは、手元資金として積み立てておき、会員が退会されるときに全額返還するという制度は残しておきたいこと、の2つの事項の提示があった。この2つの事項を基本方針として休業見舞金の一部改正の提案を行いたいので、ご出席の会員の皆様から存分な意見を賜り、論議していただき、何かいい方法を見出したい旨の挨拶があった。

### 議 事

議案第1号 宮崎県医師会互助会規程施行細則「第6条」(休業見舞金)の一部改正(案)について

和田担当理事より、標記のことに関して、いまだに経済環境の改善が見られないため、利息の部の残高は毎年毎年減る傾向を示しており、今後も引き続き低金利化が予想されることから、このまま放置していると約8～9年間で利息の残高がゼロとなり、互助会制度自体の崩壊が危ぶまれること。互助会事業は利息の部の休業見舞金の給付がメインとなっていることから、互助会制度を引き続き存続させるには、休業見舞金の給付金の減額及び給付期間の短縮について見直しが必要であると助言を受けていることの説明があり、監事の先生方や理事会及び各郡市医師会長協議会においての助言に基づき、改正案を作成し、会員の皆様からのご意見等を頂戴し、9月22日開催された「役員会」の議決を得て、

と き 平成17年10月27日(木)

ところ 県医師会館

本日の「臨時評議員会」へ提案することに至った旨の説明があった。

続いて、評議員の先生から互助会制度は「会員互助の精神」に基づき、是非、存続してほしいが、事務費等の約300万円の経費を勘案すると改正(案)にある耐用年数16年は、さらに短縮され約12年になるのではないかと懸念を抱く旨の質問があった。

和田担当理事より、本改正(案)については、過去4年間の休業見舞金等の給付実績に基づくシミュレーションによる提案であること、当然、事務費等の経費は勘案する必要があるが、事務費は今後減少傾向にあるのではないかと見られること、また互助会規程施行細則(第14条)におおむね5年ごとに再検討を加え、必要があるときは、これを改正するものとする、となっていることから今後も随時検討していきたい旨の説明がなされた。

近間議長が採決に入り、賛成全員で原案どおり承認可決された。

出席者 - 近間議長、下村・中村・永吉・河野・近藤・福元・坂元・佐々木・日高・野田・杉本・三ヶ尻・喜多・岩見・山元・大井・佐保評議員 柳田・甲斐・小玉支部長 尾田・甲斐・楠元・押川・田中監事

県 医 - 秦会長、大坪・志多副会長、濱砂常任理事、和田・高橋・中島・上田・丹理事

事務局 - 島内事務局長、阿萬課長、大野・安井係長、喜入主事

## 九州医師会連合会第275回常任委員会

と き 平成17年10月28日(金)

ところ 宮崎観光ホテル

### 報 告

#### 1. 第105回九州医師会連合会総会・医学会及び関連行事について(沖縄)

##### 1) 平成17年11月18日(金)

前日諸会議(九医連常任委員会、九医連臨時委員総会、九州各県医連委員・医師会役員合同懇親会)

##### 2) 平成17年11月19日(土)

合同協議会・総会・医学会

上記会議等を沖縄ハーバービューホテル(那覇市)で開催すること、及び中央情勢報告(「医療改革の現状と対策」・植松治雄日本医師会会長 等)の主な事業内容が承認された。

##### 3) 平成17年11月20日(日)

分科会・記念行事

分科会は内科学会など8分科会、記念行事はゴルフ大会・走ろう会大会など7行事がそれぞれ那覇市内と近郊で開催されることが報告され、承認された。

### 協 議

#### 1. 平成17年度九州各県・政令指定都市保健医療福祉主管部局長及び九州各県医師会長との合同会議(10月28日(金)宮崎市)について(宮崎)

今回、宮崎県(行政)が担当し、宮崎市(宮崎観光ホテル・16:00~17:20)で開催されること、協議事項は医師会側から2題「九州・山口各県の災害時医療救護支援体制について(佐賀県医)」、「医療機関の立入検査結果の開示請求に対する各県の取り扱いについて(鹿児島県医)」を提出すること、及び会議終了後に意見交換会が開催されることが報告され、了承された。

#### 2. 第277回常任委員会及び第2回各種協議会の開催について(沖縄)

次のとおり開催することが了承された。

・日時 平成18年1月21日(土) 16:00~18:00

・場所 沖縄ハーバービューホテル

・日程 1) 常任委員会 16:00~18:00

2) 各種協議会 16:00~18:00

(1)医療保険対策協議会

(2)介護保険対策協議会

(3)医療制度対策協議会(医療政策、地域医療含む)

#### 3. 第105回九州医師会連合会総会における宣言・決議(案)について(沖縄)

九州医師会連合会担当県の沖縄県医師会から標記宣言(案)・決議(案)が提出され、協議の結果、最終案については、担当県の沖縄県医師会で取り纏め、第276回常任委員会、第90回臨時委員総会の議を経て第105回九州医師会連合会総会に諮ることが了承された。

#### 4. 日本医師・従業員国民年金基金第6期代議員候補者推薦依頼について(沖縄)

福岡県医師会の宇野卓也先生と熊本県医師会の渡辺 健先生を標記代議員候補者として推薦することに決定した。

#### 5. 九州ブロック「臨床研修終了後」研修等に関する病院合同説明会について(沖縄)

標記説明会を平成18年度も九州各県と九州各県医師会との共同主催で開催することが了承された。

出席者 - 秦会長、島内事務局長

## 平成17年度全国医師会勤務医部会連絡協議会

と き 平成17年10月22日(土)

ところ かがわ国際会議場(高松市)

理事 上 田 章

日本医師会主催の標記連絡協議会が、香川県医師会の担当で、『Ambitious / 勤務医』をメインテーマに開催され、288名の参加者があり盛会でかつ熱心な討議が行われた。

植松治雄日本医師会長は、主催者挨拶および『勤務医と医師会』と題する特別講演を行い、日本医療の抱える問題点、勤務医を巡る問題点、専門医制度を考える、適切な医療提供体制、医師会のあり方と勤務医についてのお考えを述べられ、また現在進められている診療報酬改定の進行状況および新しいパンフレット「世界トップレベルの医療を提供するために - 日本の医療の現状と将来 - 」について説明された(挨拶文の要旨を掲載する)。

池田俊彦日本医師会勤務医委員会委員長から、会長諮問の『医療環境変革期における勤務医の役割』についての報告の骨子が説明された。

シンポジウムは『地域医療の未来と勤務医』のテーマで行われ、5名のシンポジストがそれぞれの立場から地域の現状と展望について発表した。講演後の自由討論では活発な議論がなされた。

今回の本協議会は、埼玉県医師会の担当で平成18年11月4日(土)大宮市において開催される予定である。

以下に、植松治雄日本医師会長の挨拶文およびプログラムを掲載する。

日本医師会長挨拶 植 松 治 雄

平成17年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の開催に当たり主催者としてご挨拶を申し上げます。

本連絡協議会は、日本医師会が主催し実施運営を開催県の担当で行い、今年度で26回目を迎えました。これまで勤務医と開業医の大同団結を目指し、勤務医の組織・役割・生涯教育・機能分化、更に最近では女性医師問題など多岐にわたる重要問題に取り組み、着実に成果を上げてきました。これもひとえに、都道府県医師会を始め勤務医部会関係者のご協力の賜物であり、心より敬意を表する次第であります。

戦後、我が国の医学医療は皆様や先輩会員のご努力により長足な進歩を遂げ、今では世界に冠たる国民皆保険制度の確立により平均寿命は世界トップを更新し、乳幼児の死亡率は世界最低、さらには低額な医療費など、先進諸国と比べても高水準で良質な医療を国民に提供しております。

現在、わが国は少子高齢化の急速な進展とともに労働力人口の大幅な減少などから、国家財政は年々逼迫しております。このため、政府は市場経済原理導入の旗の下に、財政優先の再建策を断行し、社会保障制度にも強引に改悪を押し進めてきております。

しかしながら、財政の安定化も重要ですが、国民の健康が失われては本末転倒であり、我々医師は全ての国民に安全で良質な医療を安定して提供することが最も重要であります。そのためには、必要な診療報酬の確保を胸を張って主張して行くべきであり、プラス改定実現に向け国民医療推進協議会等による大規模な国民運動を展開する必要があります。

この重大局面にあって、勤務医の先生方と開業医の先生方との間には混合診療の問題、医療

費の総枠管理制の問題などその認識が多少異なる点も見受けられますが、十分議論を重ね、互いに共通の認識を持って積極的に国民運動に参加し、一丸となって対処することが不可欠であります。

今まさに国民皆保険制度は崩壊の危機に直面していると言ってよいでしょう。これらの様々な医療問題の解決には、勤務医・開業医の団結なくしては対処できないものと認識しており、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、今年度の開催に当たり準備運営のすべてをご担当いただきました香川県医師会森下立昭会長を始め役職員の皆様に衷心より感謝申し上げます、ご挨拶といたします。

#### 特別講演( 1 )

##### 「勤務医と医師会」

日本医師会長 植松治雄  
報 告

##### 「日本医師会勤務医委員会報告」

日本医師会勤務医委員会委員長  
池田俊彦

#### 次期担当県挨拶

埼玉県医師会長 吉原忠男  
報 告

##### 「香川県医師会勤務医アンケート調査報告」

香川県医師会勤務医会広報委員会幹事長  
香川県医師会理事 阪本晴彦

#### 特別講演( 2 )

##### 「香川発“稀少糖”の医学への応用と産学官連携」

香川大学医学部細胞情報生理学教授  
徳田雅明  
座長 香川大学医学部第一内科教授  
香川大学医師会長  
石田俊彦

#### シンポジウム

##### テーマ「地域医療の未来と勤務医」

座長 香川県医師会勤務医会副会長  
香川県医師会副会長

廣畑 衛

香川県医師会勤務医会総務委員会幹事長  
高松市医師会理事 厚井文一

##### 「香川県における離島医療の現状と未来像」

内海病院長 久保文芳

##### 「ある自治体病院の再生への軌跡と未来像」

徳島県病院事業管理者・前坂出市立  
病院長 塩谷泰一

##### 「市町村の合併と自治体病院の未来像

地域完結型総合病院の新設を目指すさぬき  
市民病院」

さぬき市民病院長 土光莊六

##### 「医療・保健・福祉の地域完結型総合病院の 未来像」

綾南町国民健康保険陶病院長

大原昌樹

##### 「大学病院の地域医療に果たす役割」

香川大学医学部総合診療部教授

千田彰一

(コメンテーター)日本医師会常任理事

三上裕司

#### 出席者

勤務医部会 - 大地理事

県 医 - 上田理事, 大野係長

#### 平成17年度・勤務部会後期講演会のご案内

日 時: 平成18年3月18日(土) 16.00 ~ 18.00

場 所: 宮崎県医師会館 3F 会議室

講 師: 宮崎大学医学部教授(臨床検査医学  
講座) 岡山昭彦

演 題: 「HTLV - 1 感染と関連疾患」

講 師: 読売新聞社会部長 五阿弥宏安

演 題: 「医療に求められるもの - 患者本位の  
医療を目指して - 」

## 日医 FAX ニュースから

### 事故報告は1000件超、「死亡」149件に

日本医療機能評価機構の医療事故防止センターが10月31日に発表した「医療事故情報収集等事業第3回報告書」によると、事故情報の収集を始めた2004年10月から今年9月までの1年間に、報告義務がある272医療機関から1063件の報告が寄せられていた。「治療処置」や「療養上の世話」での事故が目立ち、患者が死亡した事故も149件あった。

1063件を事故別に見ると、最多が「治療処置」309件(29.1%)で、「療養上の世話」257件(24.2%)、「医療用具など」115件(10.8%)の3つの事故が上位を占める状況は変わっていない。事故の発生要因は、「確認を怠った」238件(13.8%)、「観察を怠った」205件(11.9%)、「判断を誤った」200件(11.6%)など。

また事故の程度は、「死亡」149件(14%)、「障害残存の可能性が高い」154件(14.5%)、「同(低い)」537件(50.5%)、「不明」195件(18.3%)などとなっている。事故の発生場所は、「病室」(44.4%)が全体の半数近くを占めており、「手術室」(14.3%)などが多かった。

(平成17年11月8日)

### 患者負担増反対の国民運動を展開

医療系の37団体が加入する国民医療推進協議会は11月8日、総会を開き、署名活動や啓発集会を通じ、厚生労働省の医療制度構造改革試案に盛り込まれた患者負担増などに反対する国民運動を展開していくことを決めた。署名は衆参両院議長あてに提出する。12月3日には東京都内で全国規模の集會も開催する。

同日の総会で植松会長は「医療改革はいかに安全で安心して質の高い医療を国民に提供できるかを考えなければならない」と述べ、厚生省試案や

経済財政諮問会議、財務省が主張する医療制度改革は単なる医療費の抑制策に過ぎないと指摘。とりわけ、試案の中に選択肢として盛り込まれた保険免責制の導入は「国民皆保険の根幹を揺るがす」と厳しく批判した。

国民運動は、全国的な署名活動と各地で催す啓発集會が柱。

同日、記者会見した植松会長は小泉首相の主導力で医療制度改革の議論が進む中、「請願しても採択されるのは難しい」とし、集めた署名の力で国会に訴えていきたいと述べた。

植松会長は国民運動に並行して、関係方面への働き掛けも行う考えも示した。小泉首相との対話を望む姿勢をうかがわせたほか、川崎二郎厚労相に対しても「これまでかわりが薄かったこと」やはりご理解は難しい面もあると思うが、これは大きな政治的な判断の問題。これからは大臣とも話を申し上げながら対応していくことになるだろう」と述べた。

(平成17年11月11日)

### 非処方せん薬の給付外しに反発

社会保障審議会医療保険部会は11月10日開かれ、薬剤給付の見直しについて議論した。市販薬と類似の医薬品(非処方せん薬)を保険給付対象外にする財務省の提案に対して、日本医師会と日本薬剤師会が強く反発した。

松原謙二委員(日医常任理事)は、「医療上必要なものはすべて保険給付すべきという日医の考え方と相反するもので、反対」と発言。漆畑稔委員(日薬副会長)は「絶対に反対」と述べ、「薬と医療の関係が分からない人の提案としか思えない」と語気を強めた。

試案は薬剤給付に関連して、処方せん様式の変更などによる後発医薬品の使用促進、後発品のある先発品薬価の適正化、画期的新薬の適切な評価などの検討を盛り込んだ。

このうち後発品のある先発品の薬価について

厚生労働省は同日の部会で、1) 先発品薬価を後発品も含めた成分ごとの市場実勢価格に基づき改定する、2) 後発品が薬価収載された場合の先発品薬価の下げ幅(現在4~6%)を拡大する、3) 医療保険給付は後発品の薬価水準までとし、先発品との差額は患者自己負担とするの3通りの案を提示。今後、中医協・薬価専門部会で議論することになった。(平成17年11月15日)

## 医師数が27万人に増加

厚生労働省は11月17日、2004年の医師・歯科医師・薬剤師調査の結果をまとめた。04年12月末現在の医師数は、2年前の前回調査と比べ2.9%(7684人)増の27万371人となった。このうち病院・診療所に勤務する医師は2.8%増の25万6668人で、女性医師は29歳以下で増加が目立ち、全体の16.4%に割合を伸ばした。診療科別では産婦人科や内科、外科の医師数が減少している。

医療施設に従事する医師のうち病院の医師は16万3683人(2.9%増)診療所は9万2985人(2.8%増)。病院医師のうち医療機関付属病院の臨床系勤務医や大学院生は2万2073人と2.1%減少し、04年4月から始まった医師卒後臨床研修で研修医の大学離れが始まったことを裏付けた。介護老人保健施設の医師は、2668人で15.2%の大幅増となった。

医療施設の医師は、男性が21万4628人、女性が4万2040人で、女性医師が4万人を突破。特に29歳以下で増加が目立っており、29歳以下の女性医師の割合は35.3%と2.3ポイント伸びた。

(平成17年11月22日)

## 患者への情報提供を推進

厚生労働省は11月24日の社会保障審議会医療部会に、中医協に提出する次期診療報酬改定の基本方針案を示した。

基本方針案では、医療費の個別単価などの詳

細な内容が分かる領収書の発行を保険医療機関や保険薬局に義務付けることを視野に、患者への情報提供を強力に進める方針を示した。医師偏在が大きい産科や小児科、救急医療などは診療報酬上で適切に評価することや、遅れているIT化を集中的に進めるための方策なども講じるよう指摘。病院・診療所の初・再診料の格差問題など外来医療に対する評価の検討も必要なことを明記した。(平成17年11月29日)

## レセプト請求、11年度からオンラインに

厚生労働省は、医療機関でのIT化を加速させるため、向こう5年間の経過措置を設けた上で、医療機関などによるレセプト請求を原則としてオンライン化にする方針を決めた。来年度に関係省令や通知を改正してオンライン上でのレセプトのやりとりを解禁し、2011年度以降はシステムの故障など例外を除き、すべての医療機関にオンライン請求を求める。11月21日の政府の規制改革・民間開放推進会議との公開討論で方針を伝えた。

厚生労働省は来年度、省令と通知をそれぞれ改正し、紙、電子媒体、オンラインでの提出を認める。その上で、5年後の11年度からはオンライン化を原則にする。

その際、厚生労働省は医療機関の規模などを考慮した3段階の経過措置を設ける考え。まず最初に比較的IT化が進んでいる大病院や薬局に取り組みてもらい、次いで中病院、最後に小病院、診療所にオンライン請求に移行してもらう。

移行するには医療機関ごとにばらばらな傷病名などのコードを統一させる必要があるが、厚生労働省は今年度に変換ソフトを開発し、来年度に希望する医療機関に配布する。診療報酬上の支援も検討している。(平成17年11月29日)

## 医事紛争情報

メディアファクスより転載

### 症状を前提とした食事提供が必要と賠償命令

デイケアセンターで食事をのどに詰まらせ植物状態になった女性(83)と親族が、センターを運営する高橋循環器科・内科医院(福岡市)を相手に、約4960万円と月々の介護費用を求めた訴訟の判決で、福岡地裁は9月30日、慰謝料など計約1050万円と月約14万7000円の介護費用の支払いを命じた。

医院側は責任を認めた上で、認知症が進んだ女性の症状による影響が大きいと主張したが、一志泰滋裁判長は「症状を前提とした食事提供が要求されていた」と述べた。

判決によると、女性は2001年6月、センターで介助を受け昼食を取っていたが、介護職員が目を見送ったときに茶わん蒸しのしいたけを気管に詰まらせた。女性は以前も食事を詰まらせることがあったが、茶わん蒸しの具は細かく刻まれていなかった。

### 検査の必要性を充分説明しなかったとして賠償命令

交通事故で入院した長野県佐久市の男性(当時49)が死亡したのは病院側が検査を怠ったためとして、男性の遺族が病院を運営する同県厚生農業協同組合連合会に約1億円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、長野地裁は9月30日、約9100万円の支払いを命じた。

判決理由で辻次郎裁判長は「医師らは胸部エックス線検査の結果から横隔膜破裂を疑い、確定診断のためCT検査をするべきだった」とした。

判決によると、男性は1998年11月、同県小諸市内で車を運転中、電柱に衝突。同市の小諸厚生総合病院に入院したが、約1か月後、横隔膜

破裂などで死亡した。

病院側は男性がCT検査を拒否したと主張したが、辻裁判長は「検査の必要性を十分説明しなかった」と退けた。

### 診療報酬92万円を不正請求したとして保健医登録取り消し

山口社会保険事務局は9月30日、山口県長門市の「医療法人真口会椋木医院」(椋木英夫院長)が昨年9月から今年5月に患者28人分の診療報酬約92万円を不正請求していたと発表。同医院の保険医療機関指定と椋木院長の保険医登録を取り消した。

同事務局によると、椋木院長は診療の事実がないのに保険診療したと装ったり、投与した薬剤を別の保険点数の高い薬剤に振り替えて不正請求していた。「薬が必要な患者が診察を受けたがらないので、診察したように装い薬を渡した」と話しているという。

昨年12月、長門市福祉事務所から生活保護受給者の診療報酬明細書(レセプト)と処方された薬剤が違ふと同事務局に連絡があり発覚した。

### 男児指切断は応急処置のミスとして1000万円賠償

群馬県は10月6日、県立心臓血管センター(前橋市)の応急処置ミスで埼玉県の小学3年の男児(8)が指を切断する結果になったとして、男児側に1000万円の賠償金を支払うことで示談が成立する見通しになったと明らかにした。

県によると、男児は2003年5月3日、家族で訪れた前橋市内の牧場で、崩れ落ちた石のテーブルと地面の間に左手を挟み、薬指と小指を骨折。搬送先の同センター整形外科で応急処置を受けたが、3日後に埼玉県内の病院で診察を受け、薬指の先端が壊死(えし)していることが分かり、手術で切断した。群馬県は男児と両親に「応急処置で指をガーゼ付きばんそうこうで巻き、圧迫したのが原因」と説明、謝罪していた。

## 診断の遅れで死亡したとして 1900万円支払いで和解

三重県桑名市の桑名市民病院に入院した同市の高校3年の男子生徒(当時18)が死亡したのは診断の遅れが原因として、遺族が同市に約7300万円の損害賠償を求めた訴訟は10月6日、同市が1900万円を支払うことで、名古屋地裁で和解が成立した。

訴状などによると、男子生徒は2003年9月、学校で頭痛を訴えた後に意識障害を起こし、同病院の脳神経外科に入院。3日後に症状が悪化し、広い範囲で脳梗塞が認められ、治療を行ったが、1週間後に脳ヘルニアで死亡した。

遺族は04年10月に提訴し「病院が緊急性がないと速断し、適切な診断が遅れた」と主張。病院側は「早期に適切な診断をしても救命は難しかった」としていた。

和解を受け、病院側は「過失をある程度認める。裁判所の和解勧告に従った」とコメントした。

## 基準外臨床担当で不正受給

大津市の大津赤十字病院(坂梨四郎院長)が、健康保険法で定められた常勤などの基準に満たない臨床検査担当医を置き、診療報酬を不正に受け取っていたことが10月6日、滋賀社会保険事務局の調べで分かった。同事務局などによると、不正受給は2001年からで計数千万円に上るとみられ、病院側は全額返還する方針という。

健康保険法などによると、臨床検査を専門に担当する医師を置く医療施設に対しては、診療報酬が上乘せされる「検体検査管理加算」という医療点数の算定法が適用されるが、常勤であり、兼業でないことが条件。血液検査などの検体検査では患者1人につき月単位で3000円の診療報酬が加算される。

同病院では01年5月から03年8月まで、ほかの医療施設でも勤務している男性医師を臨床検査の担当医として同事務局に届けていた。さら

に昨年10月から今年3月まで別の男性医師が手術補助などの業務を受け持ちながら臨床検査担当として届けていた。

同事務局の今年5月の定期調査で発覚し、病院側に自主調査を指示していた。病院側は8月に不正を認め、文書で報告した。

同病院の久郷幸太郎事務部長は「社会保険事務局と見解の相違があったが事務局の指示に従う。全額返還する方針で今後は基準を守りたい」と話している。

## 腎生検による死亡 6000万円支払い で和解

神戸大病院(神戸市)で腎臓の組織検査を受けた兵庫県芦屋市の男性(当時19)が出血性ショックで死亡したのは医療ミスだとして、両親が神戸大に約1億円の損害賠償を求めた訴訟の控訴審は10月5日、同大が6000万円を支払うことで大阪高裁(井垣敏生裁判長)で和解が成立した。

高裁は、9月に提示した和解案で「病院には検査後に循環血液量を確保する義務を怠り、輸血が遅れた過失がある」とし、ミスと死亡の因果関係も認定した。男性の父親(57)は「全面勝訴に近い。病院が2度と同じ過ちを繰り返さないことを願う」と話した。

一審神戸地裁は今年1月、病院側の過失は認められたが、死亡との因果関係を認めず請求を棄却。両親が控訴していた。

一審判決によると、男性は2000年4月、同病院で膠原病の一種の難病「全身性エリテマトーデス」と診断され入院。治療方針を決めるため、5月に皮膚の上から針を刺し、腎臓の組織を取り出す生検を行った。検査後、男性は腹痛を訴えたが、医師は過換気症候群と判断。翌日朝、腎臓刺創による出血性ショックで死亡した。

神戸大病院の春日雅人病院長は「和解勧告を真摯(しんし)に受け止め、応じることにした」としている。

## 薬事情報センターだより (224)

## 後発医薬品

後発医薬品についての法的定義はありません。一般的には、新医薬品の再審査期間及び特許権の存続期間満了後に販売されるもので、新医薬品と有効成分、含量、用法・用量が同一で、効能・効果が同等な医薬品をいいます。また、欧米においては後発医薬品が有効成分の一般名 (generic name) で処方されることが多いため、ジェネリック医薬品と呼ばれることもあります。

我が国では、特許権は特許出願の日から20年 (医薬品の場合には、最長25年) 存続します。特許発明が医薬品の有効成分である場合には、その間は特許権者が独占排他的に当該医薬品を製造販売することができ、特許権者以外の者は原則として当該医薬品を製造販売することができません。しかし、存続期間満了により、特許権は消滅するため、何人も当該医薬品を自由に製造販売できるようになります。ただし、医薬品に関わる特許は有効成分の物質そのものが対象となる物質特許以外にも、有効成分の製造方法に関する製法特許や製剤化の方法等に関する特許等いろいろな特許がありますので、これらの特許権との関係でいつから後発医薬品が上市できるかは異なることになります。

再審査とは、医薬品として承認されてから一定期間後にその有用性を再確認する制度のことをいいます。この再審査期間中に、後発医薬品が承認を受けようとする場合には、新医薬品と同等の申請資料が必要とされますが、再審査が終了したものについては、再審査によって有効性・安全性は確認されているものとされるため、後発医薬品の承認申請資料は、製品の品質の安定性と新医薬品との生物学的同等性を証明する試験のみで良く、製薬会社にとっての負担が新医薬品の場合に比べて少なくなりますので、後発医薬品が販売されるのは、再審査終了後とな

るのが通常です。

また、後発医薬品の品質を確保するため、1997年から品質再評価制度が実施されています。これは、内用固形製剤の品質の確保を目的として、同成分の医薬品が同じように溶出すれば、同じように吸収され、同じ効果が得られるという前提で、新医薬品を標準製剤として溶出試験の規格を設定し、その溶質性に係る品質を評価できるように公表する制度です。その結果は「日本版オレンジブック (医療用医薬品品質情報集)」に掲載されています。なお、1995年4月以降に申請された医薬品については後発医薬品を含めて溶出規格の設定が求められているため、それ以前に申請された医薬品が対象となっています。

毎年20成分前後の後発医薬品が初めて薬価収載されるとともに、後発医薬品に関する品質、情報、安定供給への不安を解消するため、品質再評価を初めとした様々な対応が行われてきています。また、医療費抑制等の要請から、薬価の低い後発医薬品の利用促進措置が、診療報酬等種々の側面から行われています。しかし、後発医薬品の数量ベースの市場シェアは十数%というのが現状です。

今後の後発医薬品の普及は、後発医薬品が患者さんを初めとした医療に関係する者にとって、どれだけ有益なものと認識されるかにかかっているのではないかと思います。

(宮崎県薬剤師会薬事情報センター  
永井 克史)

- 参考) 1) ジェネリック医薬品ガイド・医薬工業協議会  
2) 後発品を理解するために「医薬ジャーナル」39(7), 63-70. 2003  
3) 薬価基準と後発医薬品・日本薬剤師会雑誌56(9), 5-10. 2004

## 医師国保組合だより

## 第11回 歩 こ う 会

宮崎市 田代クリニック 田代 学

去る11月3日、県医師国保組合主催の歩こう会に夫婦で初めて参加しました。文化の日における過去30年のお天気データによる降水確率は10%未満との報道にもかかわらず、時折小雨の降る曇り空の歩こう会となりました。

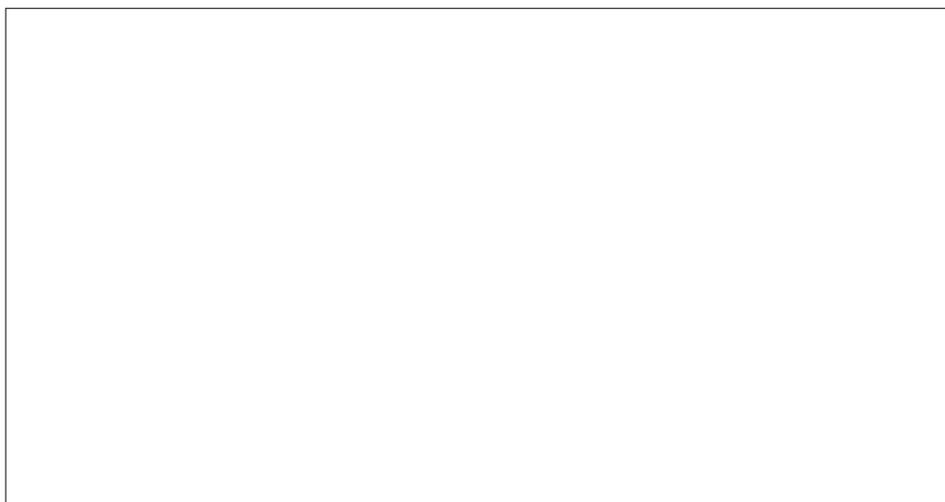
参加者は、秦理事長夫妻をはじめとする45名(内子供4名)と盛況で、バス2台を使って高速度道路そして県道高岡北郷線を一路北郷町へと南下しました。1時間ほどでホテル北郷フェニックスに到着し、そこでマイクロバスに乗り換え、隣接する花立公園へと向かいました。台風14号により一部破壊された遊歩道が復旧されておらず、自動車道での花立山頂上への徒歩登山?となりました。坂道を考慮して、長距離(2km強)と短距離(1km弱)の2班に分かれましたが、例年参加されている先生たちからは「今年が一番きつい」との声があちこちで聞かれました。おそらく、この日が曇り空であったことに感謝したのは私だけではなかったはずです。

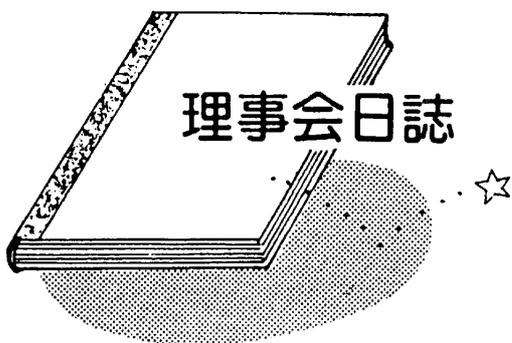
ウォーキングの後は、同ホテルに戻り、昼食

にしては質沢な食事と少なめのビールを戴き、疲れと緊張が多少ほぐれたところで、自己紹介、くじ引きがありました。その際に「例年やっているラジ体操がなかった」との声があり、来年は必ず実行することが確認されました。その後、慌しく温泉入浴や足つぼマッサージを済ませ、北郷町の焼酎道場(櫻の郷醸造)を見学、販売コーナーよりも試飲コーナーに多くの方々がお集まりだったのは気のせいでしょうか。焼酎臭いままに、小村寿太郎記念館を見学し、改めて郷土の偉人の生い立ちを勉強しました。

県南を後に、帰路は海沿いの国道220号を北上し、道の駅フェニックスに立ち寄り、午後4時過ぎに全員無事に県医師会館に到着しました。日帰りの歩こう会にしては、両手にお土産を抱え、運動と食事と観光そして郷土の歴史と文化に触れ、良き一日を過ごしました。

事務局の方々のご配慮に感謝するとともに、来年もまたよき歩こう会を企画していただけるように切望いたします。





平成17年10月18日(火) 第11回常任理事会

医師会関係

(議決事項)

1. 11/ 8 (火) 県福祉保健部との懇談会における要望事項の追加について  
医師確保対策について具体的な5項目を追加することになった。
2. 11/ 8 (火)・16(水) 宮崎市) 社会保険医療担当者(医科)の個別指導並びに12/ 8 (木) 厚生年金会館) 集団的個別指導(医科)の実施について  
11/ 8 は稲倉常任理事が, 11/16は志多副会長が, 12/ 8 は河野常任理事がそれぞれ立ち会うことになり, 宮崎市郡医師会にも依頼することになった。
3. 11/16(水) 県立芸術劇場) 平成17年度宮崎県社会福祉大会の開催に伴う後援について  
後援することになった。
4. 第105回九州医師会連合会における宣言・決議(案)について  
担当県に一任することになった。
5. 10/30(日) JA - A ZM ) 第41回全国糖尿病週間宮崎県糖尿病シンポジウム2005協賛寄付依頼について  
予算の問題もあり協賛しないことになった。(その後10/25全理事会において協賛することになった)
6. 12/ 3 (土) 日医 ) 平成17年度家族計画・母体

保護法指導者講習会の開催について

県医師会からは, 西村常任理事が出席。

県産婦人科医会へも案内することになった。

7. H 18/ 8 /19(土)・20(日) 宮観ホテル ) 第37回中四九地区医師会看護学校協議会の開催に係る経費助成について

来年度予算化することになった。

8. その他

11月の行事日程を検討した。

(報告事項)

1. 週間報告について
2. 10/14(金) 日医) 日医医業税制検討委員会について
3. 10/15(土) 県医 ) 県有床診療所協議会総会について
4. 10/12(水) 県医 ) 広報委員会について
5. 10/16(日) 県医 ) 小児救急医療電話相談事業説明会について
6. 「マンモグラフィ装置を用いた乳がん検診に係る調査について
7. 10/15(土) 県医 ) セミナー「不整脈治療の基礎と臨床」について

平成17年10月25日(火) 第15回全理事会

医師会関係

(議決事項)

1. 会館建設について  
日医総研セカンドオピニオンの結果について  
日医総研のコメントを稲倉常任理事が説明した。主な点は, 耐震構造と免震構造, 太陽光発電の費用効果, 雨水利用によるコスト削減, 談合を排除する方策, 建設費用額の妥当性等について議論があった。  
設計業者選定について

- 次回全理事会で決定することになった。
2. 11/18(金)~20(日)九州医師会医学会等について  
日程及び出席者の最終確認等を行った。
  3. H18/1/21(土) 沖縄 九医連第2回各種協議会について  
医療保険には富田常任理事と吉田理事，  
介護保険には和田・丹理事，医療制度には  
夏田常任理事と高橋理事がそれぞれ出席す  
ることになった。
  4. 白菊会への運営資金援助について  
会員へ案内することになった。
  5. 11/24(木)・12/1(木) 厚生年金会館 社会保  
険医療担当者(医科)の個別指導の実施につ  
いて  
1月24日は河野常任理事が，12月1日は  
志多副会長が立ち会うことになった。
  6. 12/8(木) 県医 県保健・医療・福祉関連団  
体協議会講演会について  
講演会(案)が承認され実施することにな  
った。
  7. 11・12月の行事予定について  
12月の行事予定が決定した。  
(報告事項)
  1. 社会保険医療担当者(医科)の個別指導及び  
新規個別指導の実施結果について
  2. 10/17(月) 産業保健推進センター)産業保健  
推進センター運営協議会について
  3. 10/18(火) 日医)日医理事会について
  4. 10/18(火) 日医)日医「医療に関する規制改革」  
検討チームについて
  5. 10/19(水) 県庁 県福祉保健部長との協議に  
ついて
  6. 10/20(木) JA・AZM 県「ひむか愛の献血運  
動推進県民大会」について
  7. 10/22(土) 宮観ホテル 県内医師会病院連絡  
協議会について
  8. 10/24(月) 福岡)九医連常任委員会について
  9. 10/25(火) 福祉総合センター 県社会福祉協  
議会運営適正化委員会について
  10. 10/21(金) 県庁)健やか妊娠推進専門部会に  
ついて
  11. 10/30(日) JA・AZM 第41回全国糖尿病週間  
宮崎県糖尿病シンポジウム2005協賛寄付に  
ついて
  12. 10/24(月) 県医)広報委員会について
  13. 10/22(土) 宮崎市郡医師会病院)在宅医療推  
進のための実地研修会について
  14. 10/13(木) 延岡総合文化センター)県精神保  
健福祉大会について
  15. 10/25(火) 県庁)インフルエンザワクチン対  
策連絡会議について
  16. 10/22(土) 香川)全国医師会勤務医部会連絡  
協議会について
  17. 各都市医師会事業現況について  
医師連盟関係  
(議決事項)
  1. 11/11(金) 県医)県医政研究会(案)について  
当日の次第等が決定した。
  - 医師国保組合関係  
(議決事項)
  1. 傷病手当金支給申請について  
申請に問題ないので承認することにな  
った。
  - 医師協同組合・エムエムエスシー関係  
(報告事項)
  1. 10/25(火) 県医)医協運営委員会について
- 平成17年11月1日(火) 第12回常任理事会
- 医師会関係  
(議決事項)
1. 11/26(土) 県医)臨時代議員会について  
設計業者2社の評価結果について説明。  
臨時代議員会及び臨時総会の資料も併せて

説明した。次回全理事会で設計業者を検討することにした。

2. 11/8(火)日医)都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会の開催について

当日は県福祉保健部との会議があり事務局で対応することになった。

3. 県公衆衛生功労者の推薦について

各郡市医師会から6名の推薦があったが、推薦枠1名のため協議の結果1名を推薦することになった。

4. 地下大ホールのアスベスト問題について

まず、至急アスベスト浮遊検査を実施する。開催予定の11/5の県民健康セミナーは延期とし、11/8は会館貸与であるので主催団体に会場変更をお願いすることになった。

5. 本会外の役員等の推薦について

宮崎地方社会保険医療協議会委員の推薦について

任期切れとなる稲倉常任理事、石川 恵美先生(県立宮崎病院)を再度推薦することになった。

6. 公用車購入について

公用車1台の入れ替え、事務連絡用の軽自動車1台を購入することが決定した。

7. 会費減免申請について

申請のあった3人について減免を承認した。

(報告事項)

1. 10月末日現在の会員数について

2. 第105回九医連における宣言・決議(案)について

3. 10/28(金)日南)県社会福祉協議会基幹的訪問調査について

4. 10/26(水)日医)日医医療政策シンポジウムについて

5. 10/29(土)・30(日)宮大医学部)会員医療機関

職員のためのコンピュータ教室について

6. 10/26(水)日医)日医共同利用施設検討委員会について

7. 10/27(木)福祉総合センター)県社会福祉協議会地域福祉権利擁護事業契約締結審査会について

8. 10/26(水)県医)労災診療指導委員会について

9. 10/29(土)県医)介護支援専門員(ケアマネジャー)連絡協議会総会・研修会について

10. 10/27(木)県医)会員の倫理向上委員会について

11. 10/27(木)県庁)准看護師試験問題調整委員会について

12. 10/30(日)JA-AZM)第41回全国糖尿病週間宮崎県糖尿病シンポジウム2005について

平成17年11月8日(火) 第16回全理事会

医師会関係

(議決事項)

1. 11/26(土)県医)臨時代議員会等の議案について

設計業者選定について

全理事、会館建設検討委員会委員長による投票、並びにセカンドオピニオンである日医総研等の意見を参考にし協議の結果、別当設計に依頼することが決まった。

議案説明について

提案する4議案の了承を得た。なお、議案書並びに資料を全会員に送付することになった。

2. 12/4(日)高原町総合保健福祉センター)理学療法学会名義後援のお願いについて

名義後援をすることになった。

3. 県医 FAX 網利用について

東洋医会の FAX 網の利用を許可することになった。実費負担として基本利用料(A 4

版1枚含む)2万円と追加1ページ1万円とすることになった。

#### 4. その他

地下大ホールのアスベスト対策については、設計業者等再度協議し、担当理事一任で処理することになった。

#### (報告事項)

1. 地下大ホールのアスベスト調査結果について
2. 11/2(火)日医)日医医業税制検討委員会について
3. 11/8(火)宮崎市)社会保険医療担当者個別指導について
4. 10/26(水)支払基金)支払基金幹事会について
5. 10/27(木)県医)認知症高齢者グループホーム外部評価機関「サービス評価事務局」評価調査員打合せ会について
6. 10/28(金)宮観ホテル)九医連常任委員会について
7. 10/28(金)宮観ホテル)九州各県・政令指定都市保健医療福祉主管部局長及び九州各県

医師会長との合同会議について

8. 10/31(月)東京)支払基金本部理事会について
  9. 11/1(火)日医)日医設立記念医学大会について
  10. 11/2(水)シェラトンフェニックス)県社会福祉協議会運営適正化委員会について
  11. 11/8(火)企業局)県高齢者保健福祉計画・県介護保険事業支援計画策定委員会について
  12. 11/2(水)県医)県産業保健連絡協議会・県産業医研修連絡協議会について
  13. 11/5(土)福岡)九州学校健診協議会専門委員会について
  14. 11/5(土)福岡)九州各県学校保健担当理事者会について
  15. 11/1(火)総合保健センター)抗インフルエンザ薬対策連絡会議について
  16. 11/7(月)県医)勤務医部会理事会について
  17. 公用車の購入決定について
- 医師国保組合関係
- #### (報告事項)
1. 11/3(木)医師国保組合歩こう会について

## 県 医 の 動 き

(11月)

- 1 日医設立記念医学大会(日医)(会長)  
抗インフルエンザ薬対策連絡会議(吉田理事)  
第12回常任理事会(大坪副会長)
- 2 日医医業税制検討委員会(日医)  
(稲倉常任理事)  
県社会福祉協議会運営適正化委員会  
(大坪副会長)  
県産業保健連絡協議会・県産業医研修連絡  
協議会(会長他)  
県産婦人科医会医療対策委員会  
(西村常任理事)
- 3 医師国保組合歩こう会(会長他)
- 4 函師鎮雄先生叙勲伝達式(事務局)  
県外科医会全理事会(大坪副会長)
- 5 九州学校健診協議会専門委員会(福岡)  
(浜田常任理事)  
九州各県学校保健担当理事者会(福岡)  
(浜田常任理事)
- 7 勤務医部会理事会(濱砂常任理事他)
- 8 社会保険医療担当者個別指導(稲倉常任理事)  
県高齢者保健福祉計画・県介護保険事業支  
援計画策定委員会(河野常任理事)  
都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議  
会(日医)(事務局)  
第16回全理事会(会長他)  
県福祉保健部との懇談会(会長他)
- 9 日医医業税制検討委員会(日医)  
(稲倉常任理事)  
産業医研修会(延岡)  
日医感染症危機管理対策協議会(日医)  
(吉田理事)
- 10 九州八県支部連合赤十字大会午さん会(会長)  
産業医研修会  
労災部会自賠委員会(河野常任理事)  
損害保険医療協議会(河野常任理事)
- 11 医協中小企業団体九州大会(志多副会長他)  
全国学校保健協議大会(滋賀)  
(浜田常任理事)  
勤務医担当理事連絡協議会(日医)  
(上田理事)  
県老人医療費問題協議会(稲倉常任理事)  
県医政研究会(会長他)
- 12 全国学校保健・学校医大会(滋賀)  
(大坪副会長他)  
全国学校保健・学校医大会都道府県医師会  
連絡会議(滋賀)(大坪副会長)  
県外科医会秋期講演会  
九医協連理事会(福岡)(志多副会長)
- 12~13 日医医療情報システム協議会(日医)  
(富田常任理事他)
- 13 日医Ⅱ問題検討委員会(日医)  
(富田常任理事)
- 14 広報委員会(大坪副会長他)  
麻疹及び風しんに係わる定期の予防接種  
等についての検討会(浜田常任理事他)
- 15 日医理事会(日医)(会長)
- 16 都道府県医師会長協議会(日医)(会長他)  
社会保険医療担当者個別指導(志多副会長)  
介護サービス情報の公表制度調査員県内研  
修(事務局)  
県社会福祉協議会運営適正化委員会  
(大坪副会長)  
感染症危機管理講習会・予防接種実務担  
当者等研修会(会長)
- 17 日医母体保護法指定医師の基準モデル等  
に関する検討委員会(日医)(会長)
- 18 産業医研修会  
九医連常任委員会(沖縄)(会長他)  
九医連臨時委員総会(沖縄)(会長他)  
九医連委員・九州各県役員合同懇親会(沖縄)  
(会長他)
- 19 九医連委員・九州各県役員合同協議会(沖縄)  
(会長他)
- 20 九州医師会総会・医学会(沖縄)(会長他)
- 21 九医学分科会・記念行事(沖縄)(会長他)  
宮大経営協議会・学長選考会議(会長)  
産業医研修会(実地)  
臨床細胞学会県支部理事会(西村常任理事)  
健康スポーツ医学小委員会(河野常任理事)  
別当設計との打合せ会(大坪副会長他)
- 22 産業医研修会(延岡)  
第17回全理事会(会長他)  
各都市医師会長協議会(会長他)
- 24 介護サービス情報の公表制度調査員中央研  
修(東京)(事務局)  
社会保険医療担当者集团的個別指導  
(河野常任理事)  
支払基金幹事会(会長)  
宮大医学部医の倫理委員会(大坪副会長)  
県社会福祉協議会地域福祉権利擁護事業契  
約締結審査会(早稲田常任理事)  
県医諸会計監査(会長他)  
地域医療保健委員会  
県内科医会誌編集委員会
- 25 医協会計監査(会長他)  
広報委員会(富田常任理事他)  
公衆衛生エイズ等委員会(大坪副会長他)
- 26 日産婦医会理事会(東京)(西村常任理事)  
県プライマリ・ケア研究会延岡大会(延岡)  
(早稲田常任理事)  
産業医研修会(都城)  
産業医研修会(丹理事)  
県医臨時代議員会(会長他)  
県医臨時総会(会長他)
- 28 サービス評価事務局評価審査委員会  
(河野常任理事)  
県社会福祉協議会運営適正化委員会  
(大坪副会長)
- 29 県産婦人科医会常任理事会(西村常任理事)  
地域リハビリテーション広域支援センター  
連絡会議(夏田常任理事)  
医協運営委員会(会長他)  
第13回常任理事会(会長他)
- 30 労災診療指導委員会(河野常任理事)  
社会保険医療担当者個別指導(延岡)  
(稲倉常任理事)

## 追悼のことば

宮崎市郡医師会

いわき よしひろ  
岩城義博先生

(昭和28年12月3日生 51歳)

甲 辞

本日、ここに故岩城義博先生の告別式が執り行われるにあたり、宮崎市郡医師会を代表して、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

10月14日午前0時、先生がお亡くなりになったとの、突然の御訃報に接し、にわかには信じられず、会員一同、深い悲しみに包まれております。

先生には、去る9月30日、医師会機関誌「醫友しのめ」の編集委員長として、いつもの通り手際よく座談会を取り仕切っていただきました。そして、今ここに、先生の御遺影に向かい、お別れの言葉を申し上げる事になるうとは、誠に残念、痛恨の極みでございます。ましてや、奥様をはじめ御家族の皆様方のお嘆きは如何ばかりかとお察し申し上げ、衷心より哀悼の意を捧げる次第でございます。

先生は、岩城徳義先生の御長男として、北九州市八幡にお生まれになり、長じて、県立宮崎南高等学校から宮崎医科大学に進学されました。昭和56年3月に同校を御卒業のあと、同医科大学第二内科、久留米大学医学部第二内科等で幾多の研鑽を積み重ね、昭和63年12月、医学博士の学位を授与されました。先生は平成元年5月から平成5年10月まで、宮崎医科大学第二

内科の文部教官助手を務められておりましたが、同年10月、現在地において岩城外科医院を御開業になっておられましたお父上から院長職を受け継がれるため、同校を御退職になるとともに、医院の名称も「いわき医院」に御変更になりました。

以来今日まで、12年有余の歳月をひたすら地域医療一筋に捧げられ、多くの患者さん方の信望を集めて、地域に根ざした診療活動を展開されておられました。

また、先生には御診療の傍ら、医師会活動にも積極的に御参加いただきまして、しのめ委員会委員として医師会機関誌「醫友しのめ」発刊の編集委員長を努めていただくなど献身的にお取り組んでいただきました。

一方、先生はお忙しい御診療の合間をぬって、ゴルフ、バレーボール等の御趣味に勤しんでおられました。

今ここに、先生の御遺影の前に立ちますと、人なつっこい笑顔をとたえて、誰とでも気さくにお話をしておられたお姿が目には浮かびます。

惜別の情つくし得ませんが、ここにお別れにあたり、私共会員一同は、12年間にわたり、地域医療に尽くして来られました先生の御功績に対して、衷心より敬意と感謝の念を表し、お別れの言葉といたします。先生、どうぞ安らかにお眠りください。

平成17年10月16日

宮崎市郡医師会

会長 綾部 隆夫

## 11月のベストセラー

- |    |                           |                  |                   |
|----|---------------------------|------------------|-------------------|
| 1  | 生協の白石さん                   | 白 石 昌 則          | 講 談 社             |
| 2  | 東京タワー                     | リリー・フランキー        | 扶 桑 社             |
| 3  | ネコソグラジカル(下)               | 西 尾 維 新          | 講 談 社             |
| 4  | 下流社会                      | 三 浦 展            | 光 文 社             |
| 5  | 国家の品格                     | 藤 原 正 彦          | 新 潮 社             |
| 6  | 愛蔵版・花おりおり その四             | 湯 浅 浩 史          | 朝日新聞社             |
| 7  | あたしンち(11)                 | け ら え い こ        | メ デ ィ ア<br>ファクトリー |
| 8  | 県庁の星                      | 桂 望 実            | 小 学 館             |
| 9  | 悪魔の種子                     | 内 田 康 夫          | 幻 冬 舎             |
| 10 | 一番売れてる株の雑誌<br>ザイが作った「株」入門 | ダイヤモンド・<br>ザイ編集部 | ダイヤモンド社           |

宮脇書店本店調べ  
提供：宮崎店(宮崎市青葉町)  
☎(0985)23-7077

## ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

平成17年11月21日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおり情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。

お申込み、お問合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらしを紹介しております。ご覧ください。

### 1. 求職登録 14人

#### 1) 男性医師求職登録数 13人 (人)

希望診療科目	求職数	常勤・非常勤別
内科	5	常勤, 非常勤
整形外科	2	非常勤
精神科	3	非常勤
耳鼻科	2	常勤
婦人科	1	常勤

#### 2) 女性医師求職登録数 1人 (人)

希望診療科目	求職数	常勤・非常勤別
内科	1	不問

### 2. 斡旋成立件数 10人

#### 1) 男性医師 6人, 2) 女性医師 4人

### 3. 求人登録 57件 175人 (人)

募集診療科目	求人数	常勤・非常勤別
内科	65	常勤(46), 非常勤(19)
胃腸科	13	常勤(9), 非常勤(4)
循環器科	8	常勤(7), 非常勤(1)
呼吸器内科	5	常勤(4), 非常勤(1)
外科	10	常勤(7), 非常勤(3)
整形外科	21	常勤(17), 非常勤(4)
泌尿器科	3	常勤(2), 非常勤(1)
産婦人科	1	常勤(1)
眼科	4	常勤(4)
耳鼻科	4	常勤(3), 非常勤(1)
放射線科	4	常勤(4)
リハビリテーション科	3	常勤(3)
脳神経外科	3	常勤(3)
神経内科	5	常勤(5)
精神科	13	常勤(10), 非常勤(3)
麻酔科	3	常勤(3)
小児科	1	常勤(1)
皮膚科	3	常勤(2), 非常勤(1)
人工透析	1	常勤(1)

### 4. 病医院施設の譲渡・賃貸 賃貸 5件

## 求 人 登 録 者 ( 公 開 )

求人登録は、申し込みが必要ですので宮崎県医師協同組合、無料職業紹介所

(ドクターバンク)へお申し込み下さい。

(平成17年11月14日現在 33件)

登録番号	医療機関名	所在地	募集診療科	求人数	常勤・非常勤	年齢
91	西都市・西児湯医師会立西都救急病院	西 都	外科(2)	2	常勤(2)	不問
93	(医)わかかピア・メンタルささき病院	宮 崎	精神科(2)	2	常勤(1)非常勤(1)	不問
97	都農町国民健康保険病院	児 湯	内科(1)外科(1)小児科(1)整形(1)透析(1)	5	常勤(5)	不問
99	(医)正立会 黒松病院	都 城	内科(2)	2	常勤(1)非常勤(1)	70歳迄
101	(医)敬和会 戸嶋病院	都 城	内科(4)小児科(1)不問科(2)	7	常勤(3)非常勤(4)	65歳迄
105	(財)延岡リハビリテーション病院	延 岡	内科(1)整形(1)リハビリ(1)	3	常勤(3)	60歳迄
106	(医)浩洋会 田中病院	日 向	内科(1)精神科(1)	2	常勤(2)	不問
107	(医)望洋会 鮫島病院	日 向	精神科(2)内科(2)	4	常勤(2)非常勤(2)	65歳迄
108	(医)プレストピアなんば病院	宮 崎	外科(1)放射線(1)内科(1)婦人科(1)	4	常勤(4)	不問
109	(医)宏仁会 海老原記念病院	都 城	内科(1)	1	常勤(1)	65歳迄
110	(医)相愛会 桑原記念病院	西 諸	内科(1)	1	常勤(1)	60歳迄
113	(医)悠生会 吉田病院	延 岡	精神科(1)内科(1)	2	常勤(2)	65歳迄
114	(医)愛鍼会 山元病院	南那珂	内科(4)消化器科(2)	6	常勤(4)非常勤(2)	不問
116	(医)隆徳会 鶴田病院	西 都	整形(1)内科(1)放射線(1)眼科(1)耳鼻科(1)	5	常勤(5)	60歳迄
117	(医)養気会 池井病院	西 諸	内科(1)	1	常勤(1)	45歳迄
118	介護老人保健施設みずほ	西 諸	内科(1)	1	常勤(1)	65歳迄
119	(医)順養会 海老原病院	宮 崎	整形(1)外科(1)内科(1)	3	常勤(3)	不問
120	東郷町国民健康保険病院	日 向	整形(1)	1	常勤(1)	不問
124	(医)同心会 古賀総合病院	宮 崎	精神(2)内科(3)循環(1)麻酔(1)老健(1)健診(2)	10	常勤(10)	不問
125	(医)如月会 若草クリニック	宮 崎	整形(1)内科(1)	2	常勤(2)	60歳迄
126	(医)如月会 若草病院	宮 崎	精神(1)	1	常勤(1)	50歳迄
127	(医)健寿会 黒木病院	延 岡	外科(3)内科(2)消化器科(4)	9	常勤(5)非常勤(4)	不問
130	(医)十善会 県南病院	南那珂	内科(1)精神科(1)	2	常勤(2)	65歳迄
132	(医)誠和会 和田病院	日 向	外科(1)神経内(1)麻酔(1)循環(1)透析(1)整形(1)	6	常勤(6)	不問
134	国民健康保険中部病院	南那珂	整形(1)眼科(1)	2	常勤(2)	不問
138	(医)和芳会 小林中央眼科	西 諸	眼科(1)	1	常勤(1)	不問
140	宮崎社会保険病院	宮 崎	検診科(2)	2	常勤又は非常勤	不問
141	(医)再生会 鈴木病院	南那珂	内科(1)	1	常勤(1)	不問
147	五ヶ瀬町国民健康保険病院	西臼杵	内科(1)外科(1)	2	常勤(2)	不問
149	(医)日向内科医院	日 向	内科(1)	1	非常勤(1)	35歳以上
150	(医)春光会(宮路,日南,東,雁ヶ音)	宮 崎	胃腸科(2)外科(2)内科(2)整形(2)	8	常勤(4)非常勤(4)	不問
151	(医)尚成会 近間病院	宮 崎	内科(1)外科(1)整形(1)	3	非常勤(3)	60歳迄
154	(医)アブラムクラブ ベテスダクリニック	都 城	循環(2)呼吸(2)消化(2)一般内科(2)神経内(2)	10	常勤(10)	不問

ドクターバンクにお申し込みのあった求人の内、公開の同意をいただいたもののみ掲載しています。

## 病医院施設の譲渡・賃貸 5件

譲渡，賃貸希望の物件を紹介いたします。

1. 譲渡物件	なし
2. 賃貸物件	<p><u>宮崎市恒久南1丁目9-15(三井田内科医院跡)</u>            建物：鉄筋コンクリート造一部2階建(築26年)            1階 138.40㎡，2階 54.57㎡            駐車場：約6台分            5月上旬まで開業しておりました。医療器具等はそのまま利用できます。</p>
	<p><u>日南市園田2-2-5(診療所跡)</u>            建物：鉄骨コンクリート造2階建            1階 147.17㎡，2階 54.66㎡            日南市油津で町の中心部です。</p>
	<p><u>宮崎市曾師町209-3(診療所跡)</u>            建物：鉄筋コンクリート造2階建            1階 183.35㎡，2階 166.69㎡            駐車場：10台分</p>
	<p><u>都城市中原町14街区11号</u>            建物：鉄筋コンクリート造2階建(診療所)            1階 256.27㎡，2階 288.38㎡            駐車場：15台分            現在開業中であり，医療機器等はそのまま利用可。</p>
	<p><u>宮崎市中村西2丁目3番19号</u>            建物：鉄筋コンクリート造一部3階建            面積：1階 89.73㎡(診療所)，2階 97.96㎡(住宅)，3階 28.39㎡(住宅)            駐車場：5台分(診療所前)+10台分            平成18年1月からの賃貸を希望。</p>

お問合せ先

ドクターバンク無料職業紹介所(宮崎県医師協同組合)

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地(宮崎県医師会館1階)

TEL 0985-23-9100(代) FAX 0985-23-9179

E-mail: isikyoubank@miyazakimed.or.jp

## 医 学 会 ・ 講 演 会

### 日本医師会生涯教育講座認定学会

注：数字は日本医師会生涯教育制度認定単位。当日，参加証を交付。

がん検診 = 各種がん検診登録・指定・更新による研修会 太字 = 医師会主催・共催  
アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名 称	日 時	場 所 会 費	演 題	そ の 他 = 連絡先
延岡医学会学術講演会 ( 5 単位 ) がん検診(乳)	12月 2 日(金) 18 : 45 ~ 20 : 30	マリエール オークパイン	乳癌の診断と治療 熊本大学大学院医学薬学研究部 乳腺内分泌外科学分野教授 岩瀬 弘敬	共催 延岡医学会 アストラゼネカ(株) 後援 延岡内科医会 (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
平成17年度宮崎県 医師会成人病検診 従事者研修会 ( 5 単位 ) がん検診 (胃・乳・肺・大腸)	12月 3 日(土) 15 : 00 ~ 17 : 10	延岡市 医師会病院	胃がん検診と最近の話題 県立日南病院放射線科医長 山本 雄一郎  乳癌の超音波診断 県立宮崎病院外科医長 大友 直樹  肺結節影の画像診断と鑑別 橋口医院長 橋口 典久  大腸がん検診と拡大内視鏡 宮崎市郡医師会成人病検診 センター所長 尾上 耕治	主催 宮崎県医師会 ☎0985-22-5118 宮崎県
都城市北諸県郡医師会内科医会学術講演会 ( 3 単位 )	12月 5 日(月) 19 : 00 ~	都城ロイヤル ホテル	メタボリックシンドロームと高血圧 宮崎大学医学部付属病院長 江藤 胤尚	主催 都城市北諸県郡医師会内科医会 共催 武田薬品工業(株) (連絡先) 都城市北諸県郡医師会 ☎0986-22-0711
宮崎県保健・医療・ 福祉関連団体協議 会第 7 回講演会 ( 3 単位 )	12月 8 日(木) 19 : 00 ~ 21 : 00	JA A ZM	患者納得の医療の実現のために ノンフィクション作家 中島 みち	主催 宮崎県保健・医療・ 福祉関連団体協議会 (連絡先) 宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
第133回宮崎県泌尿 器科医会 ( 3 単位 )	12月 8 日(木) 19 : 00 ~	宮崎観光 ホテル	医師国家試験問題 (泌尿器科学関係解説) 宮崎大学医学部泌尿器科教授 長田 幸夫	主催 宮崎県泌尿器科医会 (連絡先) 宮崎大学医学部泌尿 器科 ☎0985-85-2968

名 称	日 時	場 所 会 費	演 題	そ の 他 = 連絡先
平成17年度宮崎県 医師会成人病検診 従事者研修会 (5単位) がん検診 (胃・乳・肺・大腸)	12月9日(金) 19:00 ~21:10	JA A ZM	胃癌検診と最近の話題 県立日南病院放射線科医長 山本 雄一郎 乳癌の超音波診断 県立宮崎病院外科医長 大友 直樹 肺結節影の画像診断と鑑別 橋口医院長 橋口 典久 大腸がん検診と拡大内視鏡 宮崎市郡医師会成人病検診 センター所長 尾上 耕治	主催 宮崎県医師会 ☎0985-22-5118 宮崎県
地域別結核対策研 修会 (3単位)	12月9日(金) 19:00 ~21:00	延岡保健所	結核の早期発見・早期治療と結核専 門病院における結核治療の現状 国立病院機構宮崎東病院 呼吸器科部長 伊井 敏彦	主催 延岡保健所 (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
平成17年度宮崎県 医師会成人病検診 従事者研修会 (5単位) がん検診 (胃・乳・肺・大腸)	12月10日(土) 15:00 ~17:10	都城市北諸 県郡医師会 館	胃癌検診と最近の話題 県立日南病院放射線科医長 山本 雄一郎 乳癌の超音波診断 県立宮崎病院外科医長 大友 直樹 肺結節影の画像診断と鑑別 橋口医院長 橋口 典久 大腸がん検診と拡大内視鏡 宮崎市郡医師会成人病検診 センター所長 尾上 耕治	主催 宮崎県医師会 ☎0985-22-5118 宮崎県
平成17年度宮崎県 医師会園医部会総 会・研修会 (5単位)	12月10日(土) 15:30 ~16:00	ホテル メリージュ	子どもたちをタバコから守る - いつでも誰でも禁煙支援 - のだ小児科医院長 野田 隆 発達や行動の面で気になる子どもた ちへの理解と支援 福岡教育大学教授 納富 恵子	主催 宮崎県医師会園医 部会 ☎0985-22-5118

名 称	日 時	場 所 会 費	演 題	そ の 他 = 連絡先
第116回宮崎県眼科 医会講習会 (3単位)	12月10日(土) 16:30 ~19:00	ワールドコ ンベンショ ンセンター サミット 2,000円 (開業医・勤務医) 1,000円 (公的医療機関 勤務医)	コンタクトレンズによる乱視及び老 視の矯正 ウエダ眼科理事長 植田 喜一 角膜再生医療 東京大学医学部附属病院角膜移 植部助教授 天野 史郎	主催 宮崎県眼科医会 ☎0985-24-8661 (宮崎中央眼科病院内)
宮崎県精神科医会 懇話会 (3単位)	12月10日(土) 17:30 ~19:00	宮崎観光 ホテル	産業保健に関する精神科医の理解 産業医科大学教授 中村 純	主催 宮崎県精神科医会 ☎0985-51-3111 (野崎病院内 藤本) 共催 大日本住友製薬(株)
宮崎市郡外科医会 12月例会 (3単位)	12月12日(月) 19:10 ~20:10	宮崎観光 ホテル	感染症の見方 - 抗菌薬を使う前に考えること - 宮崎大学医学部臨床検査医学 講座教授 岡山 昭彦	主催 宮崎市郡外科医会 (連絡先) 宮崎市郡医師会 ☎0985-53-3434
西諸医師会・西諸 内科医会合同学術 講演会 (5単位)	12月14日(水) 18:30 ~21:00	ガーデンベ ルズ小林	生活習慣病の温故知新 鹿児島大学医学部臨床検査医学 講座教授 丸山 征郎	主催 西諸医師会 ☎0984-23-2113 西諸内科医会 共催 武田薬品工業(株)
木曜会学術講演会 (3単位) がん検診(乳)	12月15日(木) 18:45 ~20:00	ホテル 中山荘 500円	乳癌の診断について 鹿児島大学病院手術部助教授 吉中 平次	主催 木曜会 共催 中外製薬(株) (連絡先) 都城市北諸郡医師会 ☎0986-22-0711
都城地区整形外科 医会学術講演会 (3単位)	12月16日(金) 18:30 ~20:00	メインホテ ルナカムラ 2,000円 (懇親会参加費)	肩関節疾患の直視下手術と鏡視下手術 福岡大学医学部整形外科学教室 助教授 柴田 陽三	主催 都城地区整形外科医会 共催 日本臓器製薬(株) (連絡先) 都城市北諸郡医師会 ☎0986-22-0711
第38回心臓病 研究会 (3単位)	12月19日(月) 19:00~	宮崎市郡医 師会病院	診断に難渋した症例・ヒヤリハット 症例 宮崎市郡医師会病院循環器科 医長 柴田 剛徳 同病院循環器科 野村 勝政	主催 宮崎市郡医師会病院 ☎0985-24-9119 (総務課・藤田)

名 称	日 時	場 所 会 費	演 題	そ の 他 = 連絡先
平成17年度宮崎県 医師会健康スポー ツ医学セミナー ( 5 単位 )	平成18年 1月14日(土) 14:30 ~17:30	JA A ZM	妊娠とスポーツ 松村産婦人科医院長 松村 隆 成長期のスポーツ傷害 宮崎大学医学部整形外科学講座 助手 山本 恵太郎	主催 宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
宮崎 Airways フォーラム ( 3 単位 )	平成18年 1月14日(土) 16:00 ~18:30	宮崎観光 ホテル	気管支喘息治療におけるオノンの位 置付け 長崎大学大学院第2内科講師 松瀬 厚人 アレルギー性鼻炎の治療 - 花粉症ガイドラインも含めて - 熊本大学名誉教授 石川 哮	共催 宮崎県内科医会 宮崎県耳鼻咽喉科医会 日耳鼻宮崎県地方部会 小野薬品工業(株) ☎0985-50-0173 後援 宮崎県医師会
宮崎小児気管支 喘息フォーラム ( 3 単位 )	平成18年 1月26日(木) 18:45 ~20:00	宮崎観光 ホテル	小児気管支喘息におけるロイコトリ エン受容体拮抗剤の有用性 岐阜大学大学院医学研究科・ 医学部小児病態学教授 近藤 直美	共催 宮崎市郡小児科医会 小野薬品工業(株) ☎0985-50-0173 後援 宮崎県医師会
日本高血圧学会生 涯教育オフィシャ ルセミナー ( 5 単位 )	平成18年 1月27日(金) 19:00 ~21:00	宮崎観光 ホテル	JSH 2004ガイドラインのポイント 宮崎大学医学部第1内科講師 北村 和雄 高血圧治療の温故知新 - 食塩と高血圧 - 福岡大学名誉教授 荒川 規矩男	主催 日本高血圧学会 宮崎県医師会 田辺製薬(株) ☎0985-32-9205
第28回宮崎リハビリ テーション研究会 ( 3 単位 )	平成18年 2月4日(土) 15:30 ~17:00	県医師会館 ( 調整中 )	障害者スポーツの最新情報 埼玉医科大学総合医療センター リハビリテーション科教授 陶山 哲夫	共催 宮崎リハビリテー ション研究会 久光製薬(株) ( 連絡先 ) 宮崎大学医学部附属 病院リハビリテーション部 ☎0985-85-1510

名 称	日 時	場 所 会 費	演 題	そ の 他 = 連絡先
日本医師会社会保 険指導者復講講習 会 ( 5 単位 )	平成18年 2月18日(土) 15:00 ~18:00	県医師会館 (調整中)	免疫疾患の検査法と治療法 県立宮崎病院副院長 上田 章 わかりやすい免疫疾患: 気管支喘息と関節リウマチを中心に 県立宮崎病院内科副医長 井上 靖 わかりやすい免疫疾患: 全身性エリテマトーデスと自己 免疫性消化器疾患を中心に(仮) 宮崎大学医学部第2内科助手 甲斐 泰文	主催 宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
宮崎市郡小児科医 会学術講演会 ( 3 単位 )	平成18年 2月23日(木) 19:00 ~20:30	宮崎観光 ホテル	2種混合ワクチンの最新知見(仮) 国立病院機構福岡病院 小児科部長 岡田 賢司	共催 宮崎市郡小児科医会 田辺製薬(株) ☎0985-32-9205

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成17年11月25日現在

12				月			
1	木	13:30 社会保険医療担当者個別指導 14:00 産業医研修会	15	木	(年末大掃除) 13:30 社会保険医療担当者個別指導 13:30(日医)都道府県医師会医事紛争 担当理事連絡協議会 19:00 介護保険委員会		
2	金	11:00 県認知症高齢者グループホーム 連絡協議会理事会・研修会 19:00 広報委員会	16	金			
3	土	14:00(日医)日医家族計画・母体保護 法指導者講習会 15:00(延岡)成人病検診従事者研修会	17	土	14:30 産業医研修会(母性健康管理研 修会)		
4	日		18	日			
5	月	9:00(東京)介護サービス情報の公表 制度調査員中央研修(事務局)	19	月	13:30(東京)支払基金本部理事会・懇 親会 19:00 広報委員会 19:00 健康スポーツ医学委員会		
6	火	9:00(東京)介護サービス情報の公表 制度調査員中央研修(事務局) 19:00 第14回常任理事会	20	火	13:00(日医)日医理事会・懇親会 13:30(延岡)産業医研修会 19:00 第15回常任理事会		
7	水	9:00(東京)介護サービス情報の公表 制度調査員中央研修(事務局) 18:30(延岡)延岡市医師会会員忘年会	21	水	15:00 支払基金幹事会 15:00 労災診療指導委員会		
8	木	15:00 社会保険医療担当者集团的個別 指導 9:00(東京)介護サービス情報の公表 制度調査員中央研修(事務局) 17:30 医師国保定例事務監査 19:00 県保健・医療・福祉関連団体協 議会講演会	22	木			
9	金	19:00 成人病検診従事者研修会	23	金	(天皇誕生日)		
10	土	15:00 園医部会総会・研修会 15:00(都城)成人病検診従事者研修会 18:30 宮崎市郡医師会年末懇親会	24	土			
11	日		25	日			
12	月	14:00 産業医研修会	26	月	19:00 県産婦人科医会全理事会		
13	火	14:00 産業医研修会 17:30 医協運営委員会 18:00 第18回全理事会 19:00 役員員年末懇談会	27	火			
14	水	19:00(西都)西都市・西児湯医師会忘 年会 19:00(都城)都城市北諸県郡医師会忘 年会	28	水			
			29	木			
			30	金	(年末休業)		
			31	土	(年末休業)		

都合により、変更になることがあります。

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成17年11月25日現在

1		月	
1	日	(年始休業)	16 月 19:00 広報委員会
2	月	(年始休業)	17 火 14:00(日医)日医連常任執行委員会 14:15(日医)都道府県医師会長協議会 16:00(日医)日医連執行委員会 17:00(日医)都道府県医師会長・日医連執行委員合同新年会 19:00 第16回常任理事会
3	火	(年始休業)	
4	水		
5	木		18 水
6	金		19 木 10:00 社会保険医療担当者個別指導
7	土	三師会合同新春懇談会	20 金
8	日		21 土 15:00 宮崎市郡医師会定時総会 16:00(沖縄)九医連常任委員会 16:00(沖縄)九医連各種協議会
9	月	(成人の日)	22 日
10	火	19:00 第20回全理事会	23 月 19:00 県産婦人科医会常任理事会
11	水		24 火 19:00 第17回常任理事会
12	木		25 水 19:00 広報委員会
13	金		26 木 10:00(清武)社会保険医療担当者個別指導 16:00 支払基金幹事会
14	土	14:30 県産婦人科医会研修会・臨時総会 14:30 健康スポーツ医学セミナー 18:30 病院部会・医療法人部会合同理事会・新年会	27 金
15	日		28 土 10:00 県介護支援専門員研究大会 14:30 産業医研修会
			29 日 日本プライマリ・ケア学会九州支部総会・講習会
			30 月 13:30(東京)支払基金本部理事会
			31 火 19:00 第21回全理事会

都合により、変更になることがあります。

## 診療メモ

## 日常診療で比較的多い不整脈の治療

ここでは日常診療で見かけることが比較的多い不整脈についてその治療法を述べてみたい。紙面の都合上、舌足らずの部分が多々あることをお許しいただきたい。

## 1. 上室性期外収縮

本不整脈は治療の対象にならないことが多い。治療の対象になるのは、1)強い自覚症状を有する場合、2)基礎心疾患があり不安定な血行動態をきたす可能性のある場合、あるいは3)上室性期外収縮が発作性頻拍や心房細動、心房粗動の引き金になる場合などが挙げられる。1)の治療には、まず患者に上室性期外収縮が危険な不整脈でないことを理解してもらうことが重要である。その上で安定剤を投与し、無効な場合に2)や3)の治療と同様に遮断薬や抗不整脈薬を考慮する。抗不整脈薬を投与する際には心機能に注意が必要である。心機能が正常ならばNaチャンネル遮断薬の中でもリスモダン、シベノール、サンリズムなどが使用できるが、心機能低下例にはアミサリン、アスペノンなどの心機能抑制の弱い薬剤を選ぶ。投与開始後は心電図にてPQ延長QT延長やQRS幅増大などの副作用に注意する。

## 2. 心室性期外収縮

基礎心疾患を伴わない心室性期外収縮は予後良好と考えられており、治療は行わないことが多い。しかし症状が強いときは上室性期外収縮の場合と同様な治療を行う。このうちQRS波形から発生機序を推測できる場合があり、より適切な薬剤の選択が可能である。右脚ブロック・左軸偏位型の心室性期外収縮に

はCaチャンネル遮断薬のワソランやヘルベッサーが有効である。また左脚ブロック・右軸偏位型の心室性期外収縮には遮断薬やプロノンが第一選択となる。これらに属さない型の心室性期外収縮はNaチャンネル遮断薬が適応になる。一方虚血性心疾患などの基礎心疾患に伴う心室性期外収縮は、まず虚血の治療が重要である。陳旧性心筋梗塞に伴う心室性期外収縮に対する抗不整脈薬の投与時には心機能に注意が必要で、2連発以下の場合には経過観察が奨められている。メキシチールは心機能低下例にも使用可能で効果も期待できるが、長期投与による予後改善効果は報告されていない。

## 3. 発作性上室性頻拍

本不整脈は、その発生機序から数種類に分類されるが、房室回帰性頻拍と房室結節回帰性頻拍の両方で9割程度を占める。両者の心電図上での鑑別は困難なことが少なくない。しかし、いずれにしても房室結節を經由したりエントリーであるため、房室結節内伝導を抑制する手技・薬剤が頻拍発作の停止に有効である。まずValsalva法や頸動脈洞マッサージなどの迷走神経刺激を試み、これらが無効な場合はワソラン静注をお奨めする。房室結節内伝導の不応期がCaチャンネル依存性であるためワソランが奏功することが多い。必ず心電図をモニターしながら、ワソラン5~10mgを生食10mlに希釈して1~2分かけて静注する。ジギタリス製剤は効果発現まで時間を要するためあまりお奨めしない。これが無効の場合には上記以外の心房頻拍の可能性も考慮

して 心房内伝導を抑制する  $K$  または  $Na$  チャネル遮断薬であるリスモダン, アミサリン, シベノール, タンボコール, サンリズムなどの静注を行う。また発作の予防には, 根治療法としてのカテーテルアブレーションが推奨される。成功率は95%程度あり効果的な治療法である。

#### 4. 心房細動

心房細動の治療には, 1) 除細動または洞調律維持(リズムコントロール)と, 2) 心拍数コントロール(レートコントロール)の二つがある。しかし心房細動の治療において血栓塞栓の予防を忘れてはならない。左房内血栓の有無を経胸壁心エコーで確認することは困難である。アスピリンにも血栓塞栓予防効果は認められるが, ワーファリンのほうが有用である。しかしその使用に当たっては漫然と投与するのではなく, プロトロンビン時間を測定し 国際標準化した値(PT-INR)で1.6~2.6にコントロールする。1, 2 か月毎にはチェックしたほうが良い。低値では効果が期待できないし, 高値では出血のリスクが増大する。ワーファリンが適応となるのは, 弁膜症, 心不全, 血栓塞栓症の既往, 高血圧, 糖尿病, 心肥大, 虚血性心臓病を合併する患者および75歳以上の高齢者である。1) を目的とした治療のうち, 除細動には心房筋の不応期を延長する薬剤として  $Na$  チャネル遮断薬(サンリズム, シベノール, ピメノール, リスモダン, タンボコール, アミサリン, プロノン, アスペノンなど)が有効で, 洞調律維持には  $K$  チャネル遮断薬(ベプリコール, アンカロンなど)がより有効である。心房細動の出現パターンからみて, 食後や夜

間などの副交感神経優位の時間帯に出現する場合には, リスモダン, シベノール, ピメノールなどが有効で, 逆に昼間の交感神経興奮時に出現しやすい場合には 遮断薬やサンリズムなどが有効である。心房細動は加齢とともに増加するため, 心機能障害の有無に注意する。心房細動のままでも症状がない場合など, 2) レートコントロールの目的にはジギタリス製剤が使われる。しかしジギタリスのみでは労作時の心拍増加は抑制できないことが多く, ワソラン, ヘルベッサなどの  $Ca$  拮抗薬やインデラルなどの 遮断薬を併用することも少なくない。また最近では, アンジオテンシン受容体阻害薬や 遮断薬などの心房細動発症予防効果に期待が持たれている。

#### 5. 心房粗動

心房粗動の停止には  $Na$  チャネル遮断薬よりも  $K$  チャネル遮断薬の有効性が高い。粗動波が2:1の心室伝導をきたすと, 心拍数は150/分になる。まれには1:1伝導を起こすこともあり, この際には300/分というとんでもない心拍数になってしまう。緊急治療時には, まずワソラン静注で心拍数を落としてから  $K$  または  $Na$  チャネル遮断薬で除粗動を行う。血行動態が不安定な場合にはDCショックを行う。血行動態の落ち着いた慢性化無症状の心房粗動では, 緊急治療の必要はないが, 心拍数をコントロールする目的で 遮断薬やワソランを用いることもある。根治療法としてカテーテルアブレーションは有効である。血栓塞栓は心房細動よりも少ないが, 心房細動の場合と同様に予防を心がけるべきである。

(宮崎大学医学部第一内科 今村 卓郎)

## 地震への備えは万全ですか？

近年，国内外で大規模地震が頻発していますが，宮崎でも日向灘沖地震が心配されています。

住宅・店舗・家財・営業用什器・機械等物損害において火災保険に十分加入されていても地震が原因で火災が発生した場合や地震による倒壊等の損害に対しては補償の対象にはなりません。

又，ケガを対象とする傷害保険や病気・ケガが原因で就業不能となった場合の休業損害を補償する所得補償保険においても天災危険担保特約(地震・噴火・津波)が付帯されていない場合には補償の対象とはなりません。

### 1．地震保険をご検討される場合

住宅物件でも診療所や病院等の一般物件でも地震保険に加入できます。建物の所在地や建物の建築年度および構造等により保険料が異なりますので，物件を調査させていただきお見積りを作成いたします。  
(無料サービス)

### 2．天災危険担保特約付傷害総合保険をご検討される場合

11月1日始期で県医師会の団体傷害保険(団体割引15%適用)に何時でも中途加入できます。  
ご連絡をいただければ資料を持参もしくは送付させていただきます。

### 3．天災危険担保特約付所得補償保険をご検討される場合

4月1日と12月1日始期で全国医師協同組合連合会の団体所得補償保険(団体割引30%適用)に何時でも中途加入できます。  
ご連絡をいただければ資料を持参もしくは送付させていただきます。

●ご相談お問い合わせ先

宮崎県医師協同組合・(有)エム・エム・エス・シー  
TEL(0985)23-9100

# ナガイレーベン 白衣キャンペーン

期間 11月15日(火)~12月16日(金)

## ナガイレーベン製品

(白衣, キャップ, カーディガン)

但し, シューズは対象外となります

定価の **3 5 % OFF !!**

価格は期間中の特別価格です。期間後は通常価格となります。(通常25%OFF)

特価期間中の返品はご遠慮願います。  
同商品のサイズ交換のみとなりますので  
ご了承下さい。

カタログ御入り用の方は連絡下さい。お送りします

お申し込み・お問い合わせは

宮崎県医師協同組合へ

TEL(0985)23-9100・FAX(0985)23-9179

廃棄処理システム

## おしえて！ドクター 健康耳寄り相談室

MRT ラジオ

毎週土曜日 午前11時20分～11時30分 放送

## 早期リウマチ

(平成17年10月1日放送)

整形外科医会 谷口博信

関節リウマチ(RA)の治療目標は関節病変の進行を防止し、日常生活を保持・改善させることである。いったん関節破壊がおこると、機能予後は著しく悪化する。

近年の研究で発症後2年以内に関節破壊が始まることがわかってきたため、早期診断、早期治療開始が以前にも増して強調されている。早期RAの診断には日本リウマチ学会や厚労省の試案が参考になる。いずれも丁寧な触診による滑膜炎の把握が必須である。血液検査ではリウマトイド因子(RF)と炎症反応が評価される。ただし、RF陽性のみでRAと診断したり、RF陰性のみでRAではないとするのは誤りである。最近では抗ガラクトース欠損IgG抗体、抗CCP抗体、MMP-3などが早期診断に有用とされている。

RAは長い経過の中で種々の合併症がみられ、他科及び介護・福祉との連携が必要となることも多い。かかりつけ医には個々の患者の予後を見通しながらの治療のコーディネートが要求される。

## 子供の眼の病気

(平成17年10月8日放送)

眼科医会 中馬秀樹

われわれは、出生時はほとんど眼が見えておらず、その状態から視力を発達させていく。3歳くらいで1.0に達する。視力が正常に発達するための条件は、正視であること、中間透光体が透明であること、黄斑部に結像することである。

視力の発達は、8歳くらいで完成する。その時点で正常な視力の発達を獲得していないと、その後いくら治療をしても視力の回復は得られない。これを弱視と呼ぶ。

斜視の場合には両親が気づいて受診されるが、遠視に気づくことは不可能である。子供が視力低下を訴えることもない。そこで、3歳時検診の重要性が浮き出てくる。1,2歳までは視力検査は不可能だが、3歳では可能である。また、正常では1.0の視力が得られる視力の発達が完成するまでまだ5年ある。ここで視力の発達障害が見つかっていても十分治療可能である。3歳時検診を過ぎると次は就学時検診である。そこで異常が見つかっていても残りが2年しかない。3歳時検診を受けて、視力の発達具合を検査することの重要性はしっかり認識されるべきである。

弱視の治療は、白内障などがあれば、これを治療する。つぎに、そのような異常がない場合、遠視や、乱視矯正用の眼鏡を処方する。その上で、視力良好眼を遮蔽して、弱視眼を使ってもらう。これを遮蔽療法と呼んでいる。まだ脳可塑性のある8歳までの子は視力の発達の遅れが取り戻せる。

## インフルエンザと予防

(平成17年10月15日放送)

内科医会 田 中 宏 幸

一般の感冒と異なり急に全身症状が発症する、感染が拡がり易い、重症化しやすい、致死率が高い、脳症を起こす事がある点で区別されねばならない。飛沫感染でウイルスが鼻や喉の粘膜に付着し感染。潜伏期間は1日から3日。急な発熱、咽頭痛、頭痛、筋肉・関節痛、倦怠感、食欲不振を見る。通常1週間で治癒するがハイリスク群は罹患率が高く重症化し易い。心臓弁膜症、心不全、糖尿病、気管支喘息、人工透析中、癌の手術後や抗がん剤・免疫抑制剤を服用中の患者などはリスクが高い。A、B、Cの3型の中、特にA型は突然変異を起こし易く大流行につながる。

合併症に肺炎、中耳炎(子供)がある。脳症は稀だが最も恐ろしい合併症で、解熱剤との関連が疑われるものの使用せずとも起こり得る。治療の基本は安静と水分補給。特効薬は発症後2日以内に投与する。予防接種は安全かつ効果的な予防法のひとつ。効果発現までに2週間を要し、効果は数ヶ月とされ、重症化を防ぎ、救命率を上げる最も優れた選択。WHOは新型インフルエンザの出現時期が差し迫っていると断定、我が国でも厚労省を中心に、その対策に懸命の努力が始まった。

## 「骨粗鬆症の脊椎圧迫骨折」 骨セメント注入で治療促進

(平成17年10月22日放送)

放射線科医会 榮 建 文

骨粗鬆症の患者さんは、胸腰椎移行部に圧迫骨折を来しやすい。椎体の圧迫骨折により起立動作や歩行ができなくなり、著しく生活の質が低下する。通常は、脊椎を固定して、数週間の安静を要するが、高齢者の長期入院は筋力低下や認知症を併発する可能性があり早期の社会復帰が望まれる。早期に疼痛を緩和して入院期間を短縮する方法のひとつとして、骨セメント注入療法(経皮的椎体形成術)が有効であると考えている。

その治療法だが、治療装置の寝台に腹臥位となってもらい、位置確認のためのCT撮影を行う。局所麻酔を行った後に、X線透視を用いながら病変に針を刺し、骨折部に骨セメントを注入するというインターベンションである。治療後の数時間は安静が必要だが、翌日には歩行をしてもらっている。骨セメントにより骨折部を補強することで痛みが早期に和らぎ、早い社会復帰が可能となる治療法である。

なお、この治療法は骨転移の痛みに対しても効果がある。

### 今後の放送予定

平成17年12月24日	未定
12月31日	ヘルニアについて
平成18年1月7日	未定
1月14日	未定

神 尊 敏 彦
岩 村 威 志
中 島 昌 文
井 上 久

## お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内いたします。  
詳細につきましては、所属郡市医師会へお問い合わせください。

送付日	文 書 名	備 考
10月27日	・日医第7回広報戦略会議議事要旨	
10月29日	・医療機関において調剤されるPET検査薬等の取扱いについて	
10月31日	・平成17年度要介護認定モデル事業(第二次)に係るQ&Aの送付について ・「認知症サポート医養成研修等事業の実施について」の送付について ・「介護給付費請求書等の記載要領について」(平成13年11月16日老老発第31号)の一部改正について ・「病原微生物検出情報」,「同普及版」の送付について	
11月1日	・中皮腫患者に関する調査研究への協力について ・診療報酬明細書等の記載要領等の一部改正について ・宮崎県医師会互助会規定施行細則「第6条」(休業見舞金)の一部改正について	
11月10日	・市町村合併に伴う生活保護法による診療報酬請求事務等に係る公費負担者番号の設定について ・新医薬品等の再審査結果 平成17年度(その2)について ・病院における吹付アスベスト(石綿)等使用実態調査における「ばく露のおそれがある場所を有する病院」に係る追加調査について ・新医薬品の再審査期間の延長について ・「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」の改定について ・厚生労働省が実施する医療安全推進週間に関するポスターおよびリーフレットの送付について ・厚生労働省が行う保険医療材料等使用状況調査に対する協力について ・石綿による疾病に係る労災補償制度に関する周知について	
11月11日	・平成18年秋の叙勲候補者について ・平成17年9月1日から同月8日までの間の豪雨及び暴風雨により被害を受けた中小企業者等に対する災害融資に関する特別措置について	

送付日	文 書 名	備 考
11月14日	・平成17年度乳幼児突然死症候群(SIDS)対策強化月間について	
11月16日	・新型インフルエンザ対策の推進について	
11月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「疑義解釈資料の送付について」等の通知について</li> <li>・市町村合併に伴う組合員証記号番号の変更について</li> <li>・平成17年9月1日から同月8日までの間の豪雨及び暴風により被害を受けた医療関係施設の開設者に対する災害融資に関する特別措置の適用利率の改定について</li> <li>・医療法上の人員配置基準の経過措置について</li> <li>・医療用医薬品再評価結果 平成17年度(その2)について</li> <li>・通知の一部改正について</li> <li>・医療機器の保険適用について</li> </ul>	
11月21日	・「平成16年度日本医師会生涯教育講座実施内容」の送付について	

期間中の感染症・食中毒情報(1906～1922)

## お知らせ

### 宮崎県医師会館の休館について

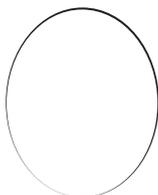
県医師会館(医師会, 医師国保, 医師協同組合・エムエムエスシー, 病院厚生年金基金)は年末・年始休業のため, 下記のとおり休館いたしますのでお知らせします。

(例年と異り12月29日は開館しております)

記

期 間 平成17年12月30日(金)～平成18年1月3日(火)

緊急連絡先 080-1705-5830  
090-3015-0585



日州医事12月号をお届けします。今月号も寄稿、随筆、様々な報告事項など、内容満載です。寄稿は台風14号災害2編で、当日の危機の状況、その後の片付けの大変さがひしひしと伝わって来ます。寄稿頂いたお二人の先生、そして災害に会われた多くの方々にあらためてお見舞い申し上げます。随筆はほほえましい旅行記、日頃の運動などに関するもので、生活活性化のひとつのヒントともなりそうです。グリーンページには厚生労働省の医療制度構造改革試案の要旨が掲載されており、日本医師会が指摘する問題点もまとめられています。是非ご一読お願いします。メディアの目には「サービス精神」というタイトルのNHK 宮崎放送局放送部長繁竹治顕氏の文章が掲載されています。非常に参考になる一文です。宮崎大学医学部だよりでは整形外科科学講座の紹介がされており、新教授就任1年が過ぎた現在の教室の状況、今後の教室展望も見えてきます。診療メモは非常にポピュラーな病態、不整脈の治療についてわかりやすく記載されています。循環器内科以外の診療科の先生方もしばしば遭遇されていることと思います。私は身内がこのための脳塞栓症で半身不随となったため、明日は我が身、と時々胸に手を当てたりなどしております。40歳過ぎた頃より「心臓の存在」を意識するようになりました。特に仕事や学会などでせっぱつまったり緊張する状況が近づくとき外収縮が増加する気がします。循環器科の先生に、近いうちに診てください、と声をかけるのですが、医者の無養生ならぬ「病理医の危ない自己診断」で患者になるのを億劫がっております。でもいつかは検査をしなければ。

(林)

本誌の特集として、先の台風14号の体験記を募集したところ、藤木先生と獅子目先生から原稿をお寄せ戴きました。当日の生々しい状況とそれへの対処、非日常において垣間見ることのできた人の本性、台風一過後の行政や保険会社の冷徹な本音など、ノンフィクションの手記として教訓、示唆に富み、今後の防災について深く考えさせられました。ここで改めてお見舞いを申し上げ、再建に向けてのご努力と勇気に敬意を表したいと思えます。

(川名)

毎年この時期になると、スケジュール手帳の更新作業を行います。昨年末より使用した手帳から、メモや電話番号、インターネット関連のIDやパスワードを書き写します。既に3月頃までの予定が埋まっており、システム手帳ならこの手間は無いのですが、これも年末の行事みたいなものです。古い手帳から1年を振り返り、新しい手帳を作る事で、新年を迎える気持ちになれます。

(森)

今月号では台風14号の被害についてご寄稿頂きましてありがとうございました。水害による被害は台風被害ではないというのに驚きました。今後発生するであろう災害での危機管理に大いに参考にさせていただきます。しかし、「新人ナースの姿は後光がさす思いでした」と処置に奔走された職員がいるかと思えば、「もうこの病院は立ち直れないので、一緒にやめよう、患者さんにはよそへ行け」と去っていった職員がいたお話には、つくづく雇用の難しさを感じました。日頃から天災だけでなく人災対策も考えねばなりません。

(神尊)

3年ぶりに照葉樹林マラソン(親子5kmの部)に参加しました。これで平等に3人の子どもと走り、辛うじて父親の面目を保てた感じです。上位1/4の成

績は、にわかランナーの割にはまずまずと一人満足しながら綾の地ビールで乾杯しました。また先日は東北よりお客さんが見え、えびの高原と日南海岸を案内しました。山の紅葉よりワシントンアパームの並ぶ南国情緒に満足の様子でしたが、後日山形より届いた洋梨「らふらんす」に秋の味覚を感じました。

今年は「スポーツに、観光に、味覚に」秋を満喫しました。

(比嘉)

今年もマラソンの季節になりました。50mを15秒から20秒で走る。そんなにゆっくり?と思われるかもしれませんが、これが私たち市民ランナーのフルマラソンペースです。50mを15秒なら1kmは5分、42.195kmでは3時間半となります。これでも市民マラソン大会では、けっこう速い方です。例えば今年の指宿菜の花マラソンにあてはめると、1万3,000人中400位前後にあたります。ちなみに50mを10秒なら高橋尚子選手並みのスピード。9秒だと5kmを15分で突っ走る、男子のトップアスリートです。(荒木康)

耐震構造計算書の偽造という、国民の安全を根底から揺るがす大事件が起きてしまいました。民間企業は利益を上げることで存在意義がありますが、安全を犠牲にした利益追求の危うさはJR福知山線脱線事故で学んだはず。普段は見えない安全性の確保にも、きちんとコストをかけるべきです。医療は安全性がもっとも見えやすい分野だと思いますが、それにすらコストをかけようとしない政府があるのですから、民間企業ではやむをえないというにはあまりにもひどい事件です。

この報道の中で「国の存在意義は国民の生命と財産を守ること」という言葉を久しぶりに聞きました。最近では全てが「自己責任」だと思っていましたから。

(丹)

## 平成17年 総目次 ( 665 ~ 676 )

## 【表 紙】

日の出	宮崎市	竹尾康男	1月号
冠雪高千穂の峰	宮崎市	牛嶋壯一郎	2月号
春の陽射し	宮崎市	小川次男	3月号
高千穂	宮崎市	中島知徳	4月号
一番星見つけた	宮崎市	細見潤	5月号
ホタル	高千穂町	田崎力	6月号
ベネチア大運河	宮崎市	吉賀幸夫	7月号
風に吹かれて	宮崎市	井ノ口信子	8月号
乱雷光	都城市	園田文雄	9月号
楽(がく)	西都市	安藤宣	10月号
マリとジロー	都城市	淵脇和男	11月号
北国	延岡市	井上日出男	12月号
会長のページ	会 長	秦 喜八郎	

新年のご挨拶			1月号
足腰を鍛えよう			2月号
信頼される医師会に			3月号
六義園の桜はまだか			4月号
土・日・月			5月号
「骨太の方針2005」に向けて			6月号
宮崎県医師会第60回定例総会挨拶(要旨)			7月号
時々刻々			8月号
刺客・くノ一・時の権力			9月号
再度,日医へ結集を			10月号
患者負担増,保険免責制反対を呼びかけよう			11月号
医師不足と医師の偏在			12月号

## 【日州医談】

交通事故削減への取り組み	常任理事	河野雅行	2月号
少子化に歯止めがかからない	常任理事	浜田恵亮	3月号
診療報酬審査委員会委員の推薦について	常任理事	稲倉正孝	4月号
宮崎県精神科救急医療システム	常任理事	早稲田芳男	5月号
第1回「指導医養成のためのワークショップ」をふりかえって	常任理事	夏田康則	6月号
最近の会員福祉の状況	理 事	和田徹也	7月号
勤務医をとりまく諸問題	理 事	上田章	8月号
クリニカル・クラークシップ	理 事	脇坂信一郎	9月号
平成17年度介護保険改定について	常任理事	河野雅行	9月号
c型肝炎ウイルス集団感染について	理 事	吉田建世	10月号
改正介護保険法成立に思うこと	理 事	丹光明	10月号
全日病学会を開催して	常任理事	濱砂重仁	11月号
宮崎県医師国民健康保健組合の現状と給付割合問題	理 事	高橋政見	12月号

## 【挨拶】

年頭所感	日本医師会長	植松治雄	1月号
年頭所感	県医師会顧問	黒水啓一	1月号
年頭所感	県医師会顧問	竹内三郎	1月号
年頭所感	宮崎市郡医師会長	綾部隆夫	1月号
年頭所感	都城市北諸県郡医師会長	柳田喜美子	1月号
年頭所感	延岡市医師会長	市原正彬	1月号
年頭所感	日向市東臼杵郡医師会長	甲斐文明	1月号
年頭所感	児湯医師会長	永友和之	1月号
年頭所感	西都市・西児湯医師会長	留守健一	1月号
年頭所感	南那珂医師会長	小玉徳信	1月号
年頭所感	西諸医師会長	大森臣道	1月号
年頭所感	西臼杵郡医師会長	植松正雄	1月号
年頭所感	宮崎大学医学部医師会長	江藤胤尚	1月号
年頭所感	内科医会長	志多武彦	1月号
年頭所感	小児科医会長	千阪治夫	1月号
年頭所感	外科医会長	増田好治	1月号
年頭所感	整形外科医会長	松田弘彦	1月号
年頭所感	皮膚科医会長	成田博実	1月号
年頭所感	泌尿器科医会長	中山健	1月号
年頭所感	産婦人科医会長	西村篤乃	1月号
年頭所感	眼科医会長	原田一道	1月号
年頭所感	耳鼻咽喉科医会長	菊池清文	1月号
年頭所感	精神科医会長	後藤勇	1月号
年頭所感	放射線科医会長	田村正三	1月号
年頭所感	東洋医会長	木下恒雄	1月号
年頭のご挨拶	宮崎県知事	安藤忠恕	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(1区)	中山成彬	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(2区)	江藤拓	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(3区)	古川禎久	1月号
年頭のご挨拶	参議院議員	小斉平敏文	1月号

## 【宮崎大学医学部教授就任挨拶】

整形外科科学講座	教授	帖佐悦男	1月号
解剖学第一講座	教授	今泉和則	1月号
歯科口腔外科学講座	教授	迫田隈男	3月号

## 【論壇・論説】

胃集検考	宮崎市	楠原敏幸	10月号
------	-----	------	------

## 【随想・随筆・寄稿】

言葉(方言)と人の心の奥肌微情	宮崎市	黒岩基	4月号
人間ドックで患者の気持ち分かる	宮崎市	谷口二郎	5月号
医療に於ける会話(言葉)の再熟考	宮崎市	黒岩基	6月号
胃癌手術とその後の闘病体験	宮崎市	佐藤衛	6月号
富田治海君を悼む	延岡市	井上日出男	7月号
海軍軍医時代	宮崎市	黒水啓一	8月号
神への祈り	宮崎市	黒岩基	10月号
会長退任のときの思い出	宮崎市	黒水啓一	11月号

どこまで進歩する不妊治療	宮崎市	谷口二郎	11月号
台風14号災害は水害ではない	宮崎市	藤木浩	12月号
台風14号被害雑感	宮崎市	獅子目 輯	12月号
ラージボール卓球	宮崎市	友成久雄	12月号
74歳の海軍兵学校生徒	高千穂町	田上恒雄	12月号
【旅行記】			
ベトナム旅行随想	日向市	富山明宜	3月号
【新春随想・俳壇・歌壇】			
酉年に因んで	宮崎市	竹内三郎	1月号
運動による脳活性化を目指して	清武町	河南洋	1月号
短歌「医師会病院新築」	延岡市	藤本孝一	1月号
Miles Smiles	清武町	石田康	1月号
私の宝物	延岡市	宝珠山 弘	1月号
文化国家ということ	宮崎市	大西雄二	1月号
新しい職場	宮崎市	大立山浩道	1月号
焼酎と薩摩大口	都城市	有満金郎	1月号
アナログレコードの魅力	都城市	吉松成博	1月号
南国の花	延岡市	井上日出男	1月号
最初的一步	宮崎市	谷口二郎	1月号
2005年（平成17年）を迎えて	宮崎市	長友美達	1月号
自動車エンジンの行方	串間市	川畠尚志	1月号
終の棲家？と芝生	延岡市	矢埜正実	1月号
知足者富，及時行楽	日向市	富山明宜	1月号
ノーベル賞の光と影	清武町	和田明彦	2月号
新春随想	清武町	丸山眞杉	2月号
愛ちゃんの中国人発言に思う	宮崎市	森満保久	2月号
旧満州旅行	都城市	奥村恭久	2月号
勿立腹	都城市	田中穰武	2月号
初めてのオーストラリア	宮崎市	友成久雄	2月号
2025年のライジングサン	日向市	尾崎峯生	2月号
Madonna im Grünen	宮崎市	永吉洋次	2月号
半襟を付けるとき	宮崎市	石川恵美	2月号
永平寺	宮崎市	篠原典夫	2月号
雑感	川南町	寺本仁郎	2月号
還暦	宮崎市	内田 攻	2月号
多重録音機（MTR）とCPU？	宮崎市	和田俊朗	2月号
新春随想	宮崎市	友清義彦	2月号
新春随想	延岡市	杉本俊一	2月号
腰痛症・神経症医師の呻吟	宮崎市	岩本猛士	2月号
Japanese White-eye	宮崎市	壹岐尚生	2月号
メール便	延岡市	長沼弘三郎	2月号
【はまゆう随筆・短歌・俳句】			
俳句とダンス（母の思い出）	宮崎市	田崎高伸	7月号
忘却とは	延岡市	宝珠山 弘	7月号
朝の散歩の風景	宮崎市	谷口二郎	7月号
人生を逆に生きる	宮崎市	大西雄二	7月号

靖国神社参拝について	延岡市	赤須正道	7月号
古稀	延岡市	藤本孝一	7月号
台湾旅行記	日向市	黒木文敏	7月号
アメリカの個人主義	延岡市	宮田純一	7月号
これからをどう生きるか	小林市	小原健一	8月号
心の地震(ふるえ)	宮崎市	黒岩基	8月号
全日本病院学会へのご参加を	小林市	池田卓郎	8月号
故事に学ぶ	三股町	早川國男	8月号
“故郷”のうた	都城市	柳田琢也	8月号
鹿島・水郷巡り	門川町	森山英五郎	8月号
医療制度の変遷についていけない	宮崎市	呉屋朝和	8月号
ヘーベルデン結節	宮崎市	篠原典夫	9月号
個人情報保護法と「人間に対する愛情」	都城市	永井知幸	9月号
自転車に乗って	宮崎市	吉田朗	9月号
マンモグラフィーの雑学	川南町	蓑田節夫	9月号
さて困ったことだ	宮崎市	近藤方彰	9月号
蓄音機	宮崎市	徳田吉郎	9月号
これでよいのか日本の空は色	日向市	松倉茂	9月号
	延岡市	長沼弘三郎	9月号
<b>【エコー・リレー】</b>			
禁煙について	都城市	三輪勝洋	1月号
知りたがり	都城市	飯田博幸	1月号
テニス	都城市	野田俊一	2月号
永久に、大阪近鉄パファローズ	延岡市	平野哲也	2月号
少子化のゆくえ	宮崎市	和田俊朗	3月号
初体験	延岡市	北國秀文	3月号
父とのゴルフ	都城市	吉山賢一	4月号
書に魅せられて	延岡市	石内裕人	4月号
フラメンコの魅力	宮崎市	日高恵子	5月号
今度こそ！ 禁煙	宮崎市	福田聡一郎	5月号
茶道の勧め	宮崎市	石川正	6月号
性格遺伝子……	新富町	押川克久	6月号
溺れさせて藁を売る	宮崎市	東久美子	7月号
カプトムシ	宮崎市	楠元直	7月号
橘	宮崎市	菊池武英	8月号
職人のこだわり	田野町	小村幹夫	8月号
蝉時雨	宮崎市	古賀繁喜	9月号
ミスターの社会復帰	宮崎市	井上和宏	9月号
オーケストラの醍醐味	日向市	弓削喜久子	10月号
ネーミング	西都市	松本英裕	10月号
hospitality	宮崎市	中村究	11月号
ETC キセルかも？事件	都城市	蛭原啓文	11月号
11年ぶり	日向市	桑原五美	12月号
長今(チャングム)に魅せられて	宮崎市	遠藤豊	12月号
<b>【叙位・叙勲】</b>			
瑞宝小綬章(保健衛生功労)	宮崎市	徳丸泰稔	1月号

旭日双光章（保健衛生功労）	宮崎市	神戸	十四郎	6月号
旭日双光章（保健衛生功労）	西都市	函師	鎮雄	12月号
<b>【表彰・祝賀】</b>				
国民健康保険関係功績者国保連合会中央会長表彰	宮崎市	湯田	敏行	2月号
労災診療指導委員功労者宮崎労働局長表彰	宮崎市	河野	雅行	2月号
公衆衛生功労者県知事表彰	西都市	函師	鎮雄	2月号
老人保健推進事業功労者県知事表彰	佐土原町	高山	淳	2月号
第33回医療功労賞受賞（読売新聞社主催）	宮崎市	濱砂	重仁	3月号
学校保健，安全及び給食に関する県教育長表彰	宮崎市	二宮	俊一郎	9月号
学校保健，安全及び給食に関する県教育長表彰	都城市	西浦	勇夫	9月号
学校保健，安全及び給食に関する県教育長表彰	都城市	森	善治	9月号
学校保健，安全及び給食に関する県教育長表彰	都城市	隅	清賢	9月号
学校保健，安全及び給食に関する県教育長表彰	延岡市	押領司	親正	9月号
学校保健，安全及び給食に関する県教育長表彰	延岡市	松崎	武壽	9月号
学校保健，安全及び給食に関する県教育長表彰	延岡市	木谷	東一	9月号
学校保健，安全及び給食に関する県教育長表彰	日向市	三ヶ尻	榮一	9月号
	副会長	志多	武彦	
<b>【グリーンページ】</b>				
混合診療 - 中医協総会説明資料				1月号
社会保障の在り方に関する懇談会の論点整理について				2月号
財務省17年度予算の編集等に関する建議と17年度政府予算案				3月号
経済規模に見合った社会保障に向けて（経済財政諮問会議民間議員）				4月号
新たな高齢者医療制度の創設を含む医療制度改革に向けての提言				5月号
社会保障給付費の総額管理・伸び率管理に対する厚労省の考え方				6月号
骨太方針2005と社会保障費の伸び率管理				7月号
厚労省の医療費適正化案				8月号
中医協総会と診療報酬基本問題小委員会（平成17年7月13日開催）				9月号
「中医協の在り方に関する有識者会議」報告書				10月号
平成15年度国民医療費の現況				11月号
医療制度構造改革試案				12月号
<b>【審査会から】</b>				
腫瘍マーカー検査				11月号
<b>【メディアの目】</b>				
「白い航跡」を貫く	読売新聞宮崎支局長	藤野	博史	9月号
信頼力	毎日新聞宮崎支局長	大島	透	10月号
ある日，激痛が	朝日新聞宮崎総局長	岩下	範之	11月号
サービス精神	NHK宮崎放送局放送部長	繁竹	治顕	12月号
<b>【法律相談コーナー】</b>				
医療過誤訴訟での証拠保全手続	顧問弁護士	殿所	哲，近藤日出夫	7月号
刑事事件としての医療事故（第1回）	顧問弁護士	殿所	哲，近藤日出夫	10月号
刑事事件としての医療事故（第2回）	顧問弁護士	殿所	哲，近藤日出夫	11月号
<b>【各都市医師会だより】</b>				
宮崎市郡医師会（メイン）		川島	謙一郎	2月号
都城市北諸県郡医師会（メイン）		坂元	一久	3月号
延岡市医師会（メイン）		林田	中	4月号
日向市東臼杵郡医師会（メイン）		甲斐	文明	5月号
児湯医師会（メイン）		蟻塚	高生	6月号

西都市・西児湯医師会（メイン）		児 玉 健 二	7月号
南那珂医師会（メイン）		黒 木 和 男	8月号
西諸医師会（メイン）		池 井 義 彦	9月号
西臼杵郡医師会（メイン）		佐 藤 元二郎	10月号
宮崎大学医学部医師会（メイン）		江 藤 胤 尚	11月号
宮崎市郡医師会（メイン）		川 島 謙一郎	12月号
【国公立病院だより】			
宮崎大学医学部附属病院	病 院 長	江 藤 胤 尚	3月号
県立こども療育センター	所 長	山 口 和 正	7月号
宮崎市総合発達支援センター	所 長	大 庭 健 一	9月号
椎葉村国民健康保険病院	院 長	吉 持 巖 信	11月号
【宮崎大学医学部だより】			
病理学第一講座	助 手	山 下 篤	2月号
小児科学講座	医 局 長	高 木 純 一	3月号
附属病院手術部	副 部 長	指 宿 昌一郎	4月号
皮膚科学講座	医 局 長	天 野 正 宏	5月号
周産母子センター	助 手	金 子 政 時	6月号
泌尿器科学講座	医 局 長	長 野 正 史	7月号
機能制御学講座腫瘍生化学分野	教 授	森 下 和 広	8月号
解剖学講座超微形態科学分野	講 師	澤 口 朗	9月号
脳神経外科学講座	医 局 長	上 原 久 生	10月号
解剖学講座分子細胞生物学分野	教 授	今 泉 和 則	11月号
整形外科科学講座	医 局 長	関 本 朝 久	12月号
【専門分科医会だより】			
放射線科医会	会 長	田 村 正 三	4月号
内科医会	会 長	志 多 武 彦	8月号
東洋医会	会 長	木 下 恒 雄	11月号
【報告（各種委員会）】			
健康スポーツ医学委員会			1月号
学術生涯教育委員会			2月号
公衆衛生エイズ等委員会			2月号
医療保険委員会			2月号
会員福祉委員会			3月号
医療保険委員会			3月号
地域医療保健委員会			4月号
医学会誌編集委員会			4月号
会館建設検討委員会			6月号
母体保護法指定医師審査委員会			6月号
医療保険委員会			7月号
救急医療委員会			8月号
健康教育委員会			8月号
健康スポーツ医学委員会			8月号
医学会誌編集委員会			10月号
学術生涯教育委員会			10月号
情報システム委員会			10月号
会館建設検討委員会			11月号

## 【駒込だより】

日医健康スポーツ医学委員会	常任理事	河野雅行	1月号
日医IT問題検討委員会	常任理事	富田雄二	1月号
日医年金委員会	常任理事	河野雅行	3月号
日医健康スポーツ医学委員会	常任理事	河野雅行	4月号
日医IT問題検討委員会	常任理事	富田雄二	4月号
日医IT問題検討委員会	常任理事	富田雄二	6月号
日医健康スポーツ医学委員会	常任理事	河野雅行	7月号
日医年金委員会	常任理事	河野雅行	8月号
日医健康スポーツ医学委員会	常任理事	河野雅行	8月号
日医IT問題検討委員会	常任理事	富田雄二	8月号
日医IT問題検討委員会	常任理事	富田雄二	10月号
日医健康スポーツ医学委員会	常任理事	河野雅行	11月号

## 【報告（諸会議）】

地域リハビリテーション広域支援センター連絡会議			1月号
平成16年度全国医師会勤務医部会連絡協議会			1月号
都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会			1月号
第3回各都市医師会長協議会			2月号
平成16年度九州学校検診協議会専門委員会			2月号
九州各県医師会学校保健担当理事者会			2月号
第4回各都市医師会長協議会			3月号
九州医師会連合会第268回常任委員会			3月号
各都市医師会役員連絡協議会			4月号
九州医師会連合会平成16年度第2回各種協議会			4月号
九州医師会連合会第269回常任委員会			4月号
都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会			4月号
日医感染症危機管理対策協議会	理事	吉田建世	4月号
都道府県医師会個人情報保護担当理事連絡協議会			4月号
都道府県医師会情報システム担当理事連絡協議会	常任理事	富田雄二	4月号
第137回宮崎県医師会定例代議員会（概要）			5月号
都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会			5月号
生涯教育のための診療ガイドラインについて	常任理事	浜田恵亮	5月号
宮崎県医学会役員会			6月号
九州医師会連合会第270回常任委員会			6月号
県福祉保健部と県医師会との懇談会			7月号
宮崎県医師会互助会定時評議員会			7月号
九州・山口各県医師会災害・救急医療担当理事連絡協議会			7月号
九州医師会連合会第271回常任委員会			7月号
九州医師会連合会第89回定例委員総会			7月号
第138回宮崎県医師会定例代議員会（概要）			8月号
地域リハビリテーション広域支援センター連絡会議			8月号
成人病検診各部会長連絡協議会			8月号
平成17年度九州医師会連合会医療保険対策協議会			8月号
九州医師会連合会第272回常任委員会			8月号
都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会			8月号
平成17年度第60回宮崎県医師会定例総会・第55回宮崎県医師会互助会総会			9月号



## 【医師国保組合だより】

第10回歩こう会のお知らせ		1月号
第10回歩こう会	高鍋町 永友和之	4月号
平成16年度宮崎県医師国民健康保険組合第92回通常組合会		5月号
組合員及び配偶者の健康診断について、「国民健康保険高齢受給証」対象者の方へ、 国民健康保険法第116号該当届」について、「老人保健法第25条第1項第2号（障害認定）」 について		6月号
「新しい保険証」になります、11月3日「歩こう会」を開催いたします		9月号
第93回宮崎県医師国民健康保険組合通常組合会		10月号
第11回歩こう会	宮崎市 田代学	12月号

## 【医師協同組合だより】

ドクターバンク相談窓口から		1月号
ドクターバンク相談窓口から		2月号
ドクターバンク相談窓口から		3月号
個人情報保護法に備える個人情報漏えい保険のご案内		4月号
個人情報保護法に備える個人情報漏えい保険のご案内		5月号
第20回通常総代会並びに創立20周年式典のご案内		6月号
個人情報保護法に備える個人情報漏えい保険のご案内		7月号
地震への備えは万全ですか？		8月号
地震への備えは万全ですか？		9月号
ドクターバンク（無料職業紹介所）のご案内		10月号
2006年新規購読雑誌購読雑誌キャンペーン		11月号
地震への備えは万全ですか？		12月号

## 【追悼のことば】

平野 宏 先生（延岡市医師会）		2月号
永田 高見 先生（延岡市医師会）		4月号
池井 常彦 先生（西諸医師会）		4月号
後藤 政治 先生（宮崎市郡医師会）		5月号
宮本 利哉 先生（延岡市医師会）		6月号
富田 治海 先生（都城市北諸県郡医師会）		7月号
園田 文雄 先生（都城市北諸県郡医師会）		7月号
安達 哲哉 先生（宮崎市郡医師会）		10月号
志和池 二郎 先生（西諸医師会）		10月号
神戸 十四郎 先生（宮崎市郡医師会）		11月号
假屋 壽生 先生（都城市郡医師会）		11月号
岩城 義博 先生（宮崎市郡医師会）		12月号

## 【ニューメンバー】

野村 かおり（のむら かおり）		5月号
駒田 直人（こだま なおと）		5月号
久木田 穰次（くきた じょうじ）		8月号

## 【診療メモ】

鏡視下手術について：特に腹腔鏡下手術	古賀総合病院	指宿 一彦	1月号
不妊治療をめぐる	とえだウィメンズクリニック	戸枝 通保	2月号
数字にとらわれない医療	宮崎大学医学部	直井 信久	3月号
エイズについて - 宮崎でもエイズは増えている -	県立宮崎病院	菊池 郁夫	4月号
肝細胞癌に対する治療	宮崎大学医学部	近藤 千博	5月号

乳腺エコーと乳癌検診	県立宮崎病院	大友直樹	6月号
最近の化学療法について	県立宮崎病院	石川恵美	7月号
輸血医療の安全性確保のための努力	宮崎大学医学部附属病院	児玉建	8月号
転移性肝癌に対する外科治療	県立宮崎病院	上田祐滋	9月号
最近流行しつつある白癬	宮崎大学医学部	緒方克己	10月号
アスベストと悪性胸膜中皮腫	宮崎大学医学部	芦谷淳一	11月号
日常診療で比較的多い不整脈の治療	宮崎大学医学部	今村卓郎	12月号
【私の本】			
ハマクリナムの花 - 精神科医のエッセイ -	宮崎市	友成久雄	3月号
陽光の街で - 警察医の手記	宮崎市	大西雄二	4月号
【私の推薦する本】			
若山牧水歌集 伊藤一彦編	宮崎市	長嶺元久	2月号
【おしえて！ドクター 健康耳寄り相談室】			
蕁麻疹	皮膚科医会	蜂須賀裕志	1月号
混合診療ってなに？	常任理事	稲倉正孝	1月号
かぜと中耳炎	耳鼻咽喉科医会	堀之内謙一	1月号
不妊治療費助成事業について	産婦人科医会	戸枝通保	1月号
タバコの害から子どもたちを守る	小児科医会	野田隆	2月号
慢性動脈閉塞症	常任理事	濱砂重仁	2月号
関節鏡	整形外科医会	栄四男	2月号
アルコールと心臓病	内科医会	近藤裕行	2月号
お産の危険性	産婦人科医会	金田太郎	2月号
安心・安全の医療	会長	秦喜八郎	2月号
肝細胞癌について	外科医会	東秀史	3月号
スギ花粉症について	耳鼻咽喉科医会	堀之内謙一	3月号
子宮癌検診について	産婦人科医会	嶋本富博	3月号
若年者の性感染症	常任理事	西村篤乃	3月号
UAE（子宮動脈塞栓術）	放射線科医会	榮建文	4月号
スギ花粉症	眼科医会	高倉玄太	4月号
皮下脂肪と内臓脂肪	内科医会	高山和久	4月号
医療保険制度の改革	常任理事	夏田康則	4月号
溶連菌感染症について	小児科医会	市来緑	5月号
発達障害のこども	精神科医会	赤松馨	5月号
乳がんの早期発見で命とお乳を守りましょう	外科医会	難波清	5月号
医療機関における個人情報保護法	常任理事	富田雄二	5月号
学校と子どもの健康	常任理事	浜田恵亮	6月号
甲状腺について	外科医会	河野通一	6月号
更年期とは	産婦人科医会	濱田政雄	6月号
集団生活とこどもの病気	小児科医会	三宅和昭	6月号
あなたの健康は大丈夫？	内科医会	尾上耕治	7月号
前立腺がんについて - 増加していることと検診について	泌尿器科医会	蓮井良浩	7月号
老人の痛みと漢方薬	東洋医会	無敵剛介	7月号
パニック障害について	精神科医会	細見潤	7月号
増加しているはずのドクターが不足！地域医療の悩み	理事	和田徹也	8月号
褥瘡の予防	皮膚科医会	阪口英	8月号

一般的な胃がん検診について	内科医会	小 野 真 一	8月号
頰椎症性神経根症について - 病態と治療 -	整形外科医会	菊 田 勇	8月号
子供と漢方	東洋医会	貴 島 テル子	9月号
正常眼圧緑内障	眼科医会	中 崎 秀 二	9月号
「高齢者とうつ病」について	理 事	吉 田 建 世	9月号
前立腺癌について (診断と治療)	泌尿器科医会	木 宮 公 一	9月号
蛋白尿について	内科医会	盛 田 修一郎	10月号
とびひ	皮膚科医会	北 村 豪	10月号
補聴器と改正薬事法	耳鼻咽喉科医会	柊 山 幹 子	10月号
突き指について	整形外科医会	川 越 正 一	10月号
肝臓はあなた専任のコックさんというはなし	外科医会	東 秀 史	10月号
食中毒の予防について	小児科医会	先 成 英 一	10月号
性感染症について	泌尿器科医会	濱 砂 良 一	11月号
脳血流 SPECT を用いたアルツハイマー型認知症の早期診断	放射線科医会	長 町 茂 樹	11月号
糖尿病は増え続けている	常任理事	浜 田 恵 亮	11月号
うつ病について	精神科医会	早稲田 芳 男	11月号
早期リウマチ	整形外科医会	谷 口 博 信	12月号
子供の眼の病気	眼科医会	中 馬 秀 樹	12月号
インフルエンザと予防	内科医会	田 中 宏 幸	12月号
「骨粗鬆症の脊椎圧迫骨折」骨セメント注入で治療促進	放射線科医会	榮 建 文	12月号

## 【読者の広場】

	M 生	2月号
	M 生 , K 生	3月号
	M 生	6月号
	M 生	8月号
	M 生	9月号
宮 崎 市	末 次 信 政	9月号
	M 生	10月号
	M 生	11月号

## 【その他】

年頭のご挨拶 (囲み)	宮崎県医師会	1月号
年頭のご挨拶 (囲み)	宮崎県医師協同組合	1月号
年頭のご挨拶 (囲み)	宮崎県医師国保組合	1月号
年頭のご挨拶 (囲み)	宮崎県病院厚生年金基金	1月号
平成16年叙位・叙勲及び表彰・祝賀受賞会員		1月号
宮崎県国民健康保険診療報酬審査委員名簿		2月号
苦情相談窓口から		4月号
宮崎県社会保険診療報酬支払基金審査委員名簿		8月号
宮崎日日新聞より (大西雄二先生ふるさと自費出版大賞佳作)		9月号
総目次		12月号

## 【告 知】

第137回宮崎県医師会定例代議員会, 宮崎県医師連盟執行委員会	3月号
第138回宮崎県医師会定例代議員会, 宮崎県医師連盟執行委員会開催	6月号
第139回宮崎県医師会臨時代議員会	11月号

## 【ご案内】

第60回宮崎県医師会定例総会，第55回互助会総会，第57回医師連盟大会	6月号
平成17年度宮崎県医学会	8月号
第6回宮崎県医師会医家芸術展	8月号
宮崎県医師会親善ゴルフ大会	9月号
第61回宮崎県医師会臨時総会	11月号

## 【お知らせ】

各郡市からの送付文書	各号
ペグイントロンの使用について	2月号
本会裁定委員会委員補欠選挙について	3月号
結核予防法改正に伴う平成17年度からの「BCG接種時期」について	3月号
カット，イラストの募集	3月号
個人情報保護法施行について	4月号
宮崎県医師会・医師国保組合・医師協同組合事務局職員配置	4月号
融資契約の一部変更について	4月号
はまゆう随筆原稿募集	5月号
県ドクターズテニス大会（春期）のお知らせ	5月号
諸会費の決定について	5月号
医療機関におけるグルタルアルデヒドによる労働者の健康障害防止について	5月号
会員交流用メーリングリスト加入のご案内	5月号
はまゆう随筆原稿募集	6月号
第6回宮崎県医師会医家芸術展作品募集！	6月号
宮崎県医師会館の閉館について	8月号
日医健康スポーツ医学講習会の開催について	8月号
各種がん検診実施機関の登録の更新について	8月号
日医治験地域ネットワーク基盤整備研究事業	9月号
「生命を見つめる」フォトコンテスト作品募集	9月号
県ドクターズテニスクラブ秋の大会のお知らせ	10月号
新春随想原稿募集	10月号
アスベストに関する相談窓口について	11月号
“台風14号”に対する原稿募集	11月号
新春随想原稿募集	11月号
宮崎県医師会館の休館について（12/30～1/3）	12月号
融資契約の一部変更について	12月号
新春随想原稿募集	12月号

バッジ

## 「新春随想」原稿募集

平成18年1,2月号に恒例になりました「新春随想」欄を企画いたしております。この欄は大変好評ですので、奮ってご投稿をお願い致します。

題 材 医事評論, 診療閑話, 身辺雑記, 詩歌, 俳句等なんでも結構です。  
本文に関連した写真・イラスト等(1枚のみ, カラー印刷はできません)も掲載できます。

字 数 800字以内(字数が多い場合は「新春随想」として掲載できないことがありますのでご承知ください)

締 切 平成17年12月26日

宛 先 宮崎県医師会広報委員会

原稿には「新春随想」と明記してください。

ご投稿の原稿が他紙に掲載, または投稿中の場合はその旨お知らせください。

掲載については, 広報委員会にご一任くださいますようお願い致します。原則として, 原稿はお返しいたしません。返戻を希望される方はその旨ご指示ください。

原稿は, FAX, 電子媒体にても受け付けております。テキスト形式で保存し, ディスクまたはメールにて下記へお届けください。(タイトル, ご氏名を先頭に付記してください)

宛先: 〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101

FAX 0985-27-6550

E-mail: genko@miyazaki.med.or.jp

## 融資契約の一部変更について

宮崎県医師会勤務医住宅ローンの融資利率が下記の通り変更になりましたので, お知らせ致します。

### 改定内容

#### 融資利率

	改定後	現 行	改定幅
変動金利型	年 1.60%	年 1.55%	+ 0.05%

実 施 日 平成17年10月3日以降の新規貸出実行分より適用

銀 行 名 宮崎銀行

## 今月のトピックス

### 日州医談 宮崎県医師国保組合の現状と給付割合問題

宮崎県医師国保組合は、平成16年度の決算において2,200万円の赤字を計上した。全国47医師国保組合の中で39組合が7割給付で運営されている。当組合も現行の8割から7割給付への見直しを示唆。 ➡4ページ

### グリーンページ 医療制度構造改革試案

厚労省がこの10月に、今後の医療制度改革のたたき台として医療費適正化(削減)策を提示した。この試案を基に政府与党が成案をまとめ、来年の通常国会に法案として提出される。この試案に対する日医の見解も掲載されており、目を通してきたい。 ➡19ページ

### メディアの目 サービス精神

「デスクと言う字は無理ヘンにゲンコツと書く」そうである。四半世紀培われた記者気質溢れるエッセイ。一流スポーツ選手が持つサービス精神の分析が、気配りの行き届いた心豊かな社会を作るヒントになると説く。 ➡27ページ

### 診療メモ 日常診療で比較的多い不整脈の治療

宮大附属病院第一内科の今村講師が、外来で遭遇する頻度の高い不整脈について、治療のポイントを解説している。このコーナーの紙面にはミシン目がついており、切り離して別個に保管できる。 ➡61ページ

### 新春随想原稿募集

広報委員会では、毎年恒例になっております「新春随想」を1月・2月号に企画致しました。投稿規定は84ページに掲載しておりますのでご参照下さい。

日 州 医 事 第676号(平成17年12月号)(毎月1回10日発行)

発行人 社団法人 宮 崎 県 医 師 会

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550

http://www.miyazakimed.or.jp/ E-mail:office@miyazakimed.or.jp

代表者 秦 喜 八 郎

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 川名 隆司・副委員長 森 継 則

委 員 田尻 明彦, 山内 励, 荒木 早苗, 長嶺 元久, 神尊 敏彦

比嘉 昭彦, 荒木 康彦, 林 透

担当副会長 大坪 睦郎・担当理事 富田 雄二, 丹 光 明

事 務 局 学術広報課 久永 夏樹, 小川 道隆・カット 武藤布美子

印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース・落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350円(但し、県医師会員の講読料は会費に含めて徴収してあります)